

# 平成25年度

# 昼間スクーリングの手引

## スクーリング受講手続日程

① 受講手続説明会	4／4 (木)	在学生 <sup>*1</sup>
	4／5 (金)	午前：在学生 午後：新入生 <sup>*2</sup>
	4／15 (月)	新入生
② 受講届提出締切	4／19 (金)	窓口提出の場合【事務取扱時間内厳守】 郵送の場合【締切日消印有効】
受講許可通知書発送予定日	5／15 (水)	※発送予定日から数日経過しても通知が届かない場合は、会計課へ連絡してください。
③ 受講料振込期限	5／27 (月)	銀行窓口にて【締切日厳守】
④ 結果通知	平成26年2月中旬	発送予定
※1 在学生…平成24年度以前に入学した在学生及び、 平成24年度の科目履修生で平成25年度継続者		
※2 新入生…平成25年度1学年入学生及び編入学生、科目履修生		

## 開講日程

前期	4／9 (火) ~ 7／26 (金)
後期	9／17 (火) ~ 1／17 (金)
試験期間	1／21 (火) ~ 1／24 (金)
補講予定日	7／20 (土), 7／22 (月), 1／18 (土), 1／20 (月)

# 開講日程

## 開講日程

年	月	日	月	火	水	木	金	土
平成25年	4月		1	2	3	4	受講手続説明会	5
		7	8	9	10	11	12	13
		14	15	受講手続説明会	16	17	18	19
		21	22	23	24	25	26	27
	5月	28	29	昭和の日	30	1	2	3
		5	こどもの日	6	振替休日	7	10	11
		12	13	14	15	16	17	18
		19	軽井沢 オリエンテーション	20	21	22	23	24
	6月	26	27	28	29	30	31	1
		2	3	4	5	6	7	8
		9	10	11	12	13	14	15
		16	17	18	19	20	21	22
	7月	23	24	25	26	27	28	29
		30	1	2	3	4	5	6
		7	8	9	10	11	12	13
		14	15	海の日	16	17	18	19
	8月	21	22	23	24	25	26	27
		28	29	30	31	1	2	3
平成26年	9月	4	5	6	7	8	9	10
		25	26	27	28	29	30	31
	10月	1	2	保健体育講義 I 体育実技	3	保健体育講義 I 体育実技	4	保健体育講義 I 体育実技
		8	9		10	11	12	13
		15	16	敬老の日	17	18	19	20
		22	23	秋分の日	24	25	26	27
		29	30		1	2	3	4
	11月	6	7		8	9	10	11
		13	14	体育の日	15	16	17	18
		20	21		22	23	24	25
		27	28		29	30	31	1
	12月	3	文化の日	4	振替休日	5	6	7
		10	11		12	13	14	15
		17	18		19	20	21	22
		24	25		26	27	28	29
	1月	1	2		3	4	5	6
		8	9		10	11	12	13
		15	16		17	18	19	20
		22	23	天皇誕生日	24	25	26	27
		29	30		31	1	2	3
		5	6		7	8	9	10
		12	13	成人の日	14	15	16	17
		19	20	昼補講	21	22	23	24
		26	27		28	29	30	31

…授業日及び補講日

補講は7月20日(土), 7月22日(月), 平成26年1月18日(土), 平成26年1月20日(月)の4日間だけでなく, その他の月曜日・土曜日にも実施することができます。補講が行われる場合, 指定された補講日に出席が求められます。

また補講を行う时限は他講座の補講日程の関係上, 必ずしも通常と同じ时限で開講されるものとは限りません。以上のこととを承知した上で申込みをしてください。

# はじめに

面接授業（スクーリング）とは、教員による直接の講義・演習・実技を受講することをいいます。その目的は、教材による在宅学習では十分に学習効果を上げることが困難な科目の一面を補い、教育効果を高めることにあります。このような主旨・目的から、スクーリングは卒業のための必修となっています。

本学の通信教育部では、学生に多くの受講機会が得られるよう、多種多様なスクーリングを開講しています。この『手引』は、その実施要領などをとりまとめて掲載しています。

スクーリングを受講希望する場合には、手続きの前にこの『手引』をよく読み、その指示に従って受講してください。

## 年間スクーリングの特色

年間スクーリングが他のスクーリングと異なる点は、年間を通して一貫した内容の授業を行うことにあります。したがって、受講手続きは、他のスクーリングと異なり、年度始めに1回となります。

また、大学では適正規模の授業を実施し、かつ多くの学生が等しく受講機会を得られるように一人（受講者）当たりの受講制限を設けていますが、このスクーリングもその例外ではありません。

さらにこのスクーリングでは、2年生以上の学生を対象に卒業論文指導講座を設け、その指導の強化充実を図り、より優れた卒業論文を期待しています。

なお、既に述べたとおり、このスクーリングは年間を通して行うため、平成25年9月卒業希望者及び平成25年度途中で学籍を失効する学生等は、このスクーリングを受講することはできませんので注意してください。

## 【受講の調整について】

スクーリングには、十分な教育効果を得るための適正な受講者数の基準が設定されています。受講申込者数が、適正受講者数でない場合、大学側で受講の調整を行うことがあります。

調整にあたっては、「受講機会の均等」の観点から、各申込者の受講調整履歴、スクーリング受講状況、単位修得状況、在学年数等を総合的に判断し、対象者を確定しますので、あらかじめご了承ください。

なお、講座の適正人数は、おおよそ下表の人数を目安としますが、講座の特性、スクーリングの形態、スクーリング会場の試験時定員数、パソコン台数及び受講学生の履修要件等により、下表によらない場合もあります。

講 座	受講者数の上限	受講者数の下限
外国語科目講座	65名	5名
演 習 講 座	30名	5名
上記以外の講座	100名	10名

### 〔調整方法等〕

- 希望した講座が受講者数の上限を超えた場合、同じ曜日に開講されている同じ科目の講座に振り分けることがあります。
- 超過人数の状況により新たに講座を増設（分割）して開講する場合があります。
- 上記①・②の方法で対応できない場合、調整対象者は当該講座の受講ができません。
- 受講申込者数が下限に満たない場合、開講を取りやめることができます。
- 「受講許可講座」及び「講師」の決定は、受講許可通知書にて通知します。したがって、受講許可講座以外の講座の受講は、認められません。また、一度決定した受講許可講座の追加・変更はできません。

	目 次	
I	受講申込から受講料納入までの流れ	2
II	時間割	4
1	2学年以上の時間割	4
2	1学年学部学科別の時間割	6
3	卒業論文指導時間割	10
4	保健体育講義Ⅰ、体育実技の受講について	11
III	開講講座表	14
1	「開講講座表」の見方	14
2	開講講座表	15
IV	受講講座の選定	22
1	受講申込対象者	22
2	受講講座数	22
3	受講制限	22
V	受講手続	24
1	講座を申し込む	24
2	受講届を提出する	26
3	申込講座の変更・追加	26
4	受講許可通知書を確認する	27
5	受講料等の納入	29
6	使用教材の購入	30
VI	受講及び試験	34
1	講座受講時の注意点	34
2	試験受験時の注意点	35
3	スクーリング結果の確認	37
VII	シラバスと使用教材	38
VIII	通学定期券の購入手続	88
IX	軽井沢オリエンテーション	90
X	胸部X線検査	92
XI	カリキュラム	94
XII	各種用紙	97
	「為替」送付時の注意事項	98
	教材購入用紙（丸沼書店用）	99
	教材購入願（通信教育教材購入用）	101
	軽井沢オリエンテーション参加申込書	103
	平成25年度 昼間スクーリング受講届	

# I | 受講申込から受講料納入までの流れ

## ① 受講手続説明会

『昼間スクーリングの手引』を読み、受講手続方法から試験までの流れを確認。受講制限・時間割を確認し、受講講座を選択する。



## ② 授業開始までの準備

授業期間は 30 週にわたります。シラバスや時間割をよく読み、受講講座を選択してください。特に下記の項目を事前に確認すること。  
① 開講日程及び時間割 ② 使用教材（教科書）の有無  
③ 準備学習 ④ 成績評価基準  
【要確認】授業期間及び試験期間に出席可能のこと。



## ③ 授業開始

第 1 週

4月 9 日 (火)  
～ 12 日 (金)

各授業の第 1 週目は、ガイダンスを行うことが多く、今後の授業の方法、授業計画、準備学習、テキスト及び成績評価基準についての説明があります。

※ 選択した講座を受講するか確認してください。

○ 受講講座決定の学生

受講届に必要事項を記入し、4 月 19 日 (金) までに教務課へ提出。

● 受講講座再度検討の学生

別の講座を選択し、第 2 週から受講する。

※ その際、第 1 週を受講していなかった旨を担当講師に伝えること。

受講希望者が多い講座や少ない講座は、大学側で受講の調整を行うことがあります（「受講の調整について」参照）。

特に「情報概論」（パソコン台数制限有）、外国語科目・演習科目（受講者数上限有）については、受講希望者多数の場合、受講調整を行います。あらかじめ了承の上検討してください。



## ④ 授業 第 2 週

4月 16 日 (火)

～ 19 日 (金)

各授業の第 2 週目は、本格的な授業に入ります。

第 1 週の授業を受講したが、受講講座が未決定の学生はスクーリング第 2 週目を受講し、4 月 19 日 (金) までに受講届を提出してください。

○ 第 1 週で講座を決定し手続を済ませている学生は、必要ありません。



**⑤ 受講届提出**

提出締切：4月19日（金）  
18:30（事務取扱時間）まで

提出先：（郵送）提出締切日 消印有効  
(窓口) 教務課窓口提出のみ 事務取扱時間内厳守  
1号館1階ポストの提出は不可  
(教務課で確認し受け付けをするため)

※1 受講届で申し込んだ講座がわかるように必ず申込内容の控えを取り各自で保管してください。

※2 提出期限を過ぎてからの講座変更及び辞退はできません。また受講講座の追加募集は行いませんので、4月19日（金）までに受講する全ての講座を決定した上で提出してください。

※3 後期のみ開講する講座及び「保健体育講義Ⅰ」、「体育実技Ⅰ・Ⅱ」も一括して申し込んでください。昼間スクーリングの申込みはこの1回のみです。

**⑥ 受講許可通知書の発送**

提出された「受講届」に基づき、大学が受講審査を行い、「スクーリング受講許可通知書兼スクーリング受講料等振込依頼書」を送付します。

**発送予定日：5月15日（水）**

届きしだい、必ず以下の記載内容を確認してください！

※1 申込講座・時間割の確認及び担当講師  
※2 充当科目コード  
特に外国語科目、各種演習科目に注意。  
※3 受講料（1講座20,000円、前期及び後期のみ開講する科目は1講座10,000円）

**⑦ 受講料の納入**

「スクーリング受講許可通知書兼スクーリング受講料等振込依頼書」記載事項を確認の上、受講料を下記の納入期限までに納入してください。

**受講料納入期限：5月27日（月）**

銀行窓口のみ ※当日取扱時間まで

**⑧ 昼間スクーリングの手続完了**

昼間スクーリングの手続は完了しました。  
「スクーリング受講許可通知書」は、スクーリング受講中は必ず携行してください。

# II 時間割

## 1 2学年以上の時間割

時限	火曜日		水曜日	
	講座名	担当講師名	講座名	担当講師名
1 時限目 9:00 { 10:30	法学 A	高須 則行	経済学	田村 和彦
	政治学	関根 二三夫		
	TOEIC A	八木 茂那子		
	西洋史概説	高草木 邦人		
	経営管理論	山田 敏之		
2 時限目 10:40 { 12:10	文学	野口 恵子	英語 C	岡田 善明
	法哲学	高須 則行	英語音声学	森 晴代
	国際政治学	大八木 時広	西洋思想史 I	杉山 晃太郎
	英文法	真野 一雄	日本史特講 I	鍋本 由徳
	日本史概説	鍋本 由徳		
	労働経済論	今井 拓		
	マーケティング	佐藤 稔		
3 時限目 13:00 { 14:30	英語基礎 A	飯野 朝世	心理学	野村 康治
	日本史入門	竹中 真幸	英語 D	北原 安治
	民法IV	根本 晋一	英語基礎 B	町田 純子
	英米文学演習	猪野 恵也	国文学講義VI(現代)	永岡 健右
	日本経済論	飯島 正義	日本思想史 II	島田 健太郎
	商業政策	佐藤 稔		
4 時限目 14:40 { 16:10	英語 A	小山 誠子	哲学 A	三箇 文夫
	民法	根本 晋一	TOEIC B	町田 純子
	商法 I	高岸 直樹	国文学基礎講義	木村 一
	日本政治史	黒川 貢三郎	政治学特殊講義 I・II	秋山 和宏
	国文学特殊講義 I・II	近藤 健史	アメリカ文学史	北原 安治
	史学概論	高綱 博文	倫理学概論	笹井 和夫
	金融論	谷川 孝美	経済原論	片平 光昭
			商業史	横山 則孝
5 時限目 16:20 { 17:50	英語 B	鈴木 ふさ子	歴史学 A	渡邊 浩史
			東洋史特講III	堀井 弘一郎
			簿記論 I	林 徳順

### 開講日程

前期	4/ 9 ~ 7/ 26	補講予定日	7/ 20, 22
後期	9/ 17 ~ 1/ 17		1/ 18, 20
試験期間	1/ 21 ~ 1/ 24		

### 保健体育科目開講日程

保健体育講義 I	9/ 2 ~ 9/ 5 9:00 ~ 12:00
体育実技 I・II	9/ 2 ~ 9/ 5 13:00 ~ 16:50
	9/ 6 9:00 ~ 16:50

※保健体育科目は他の科目と開講期間、授業時間及び会場が異なるため注意が必要です。  
詳細は11ページを参照してください。

木曜日		金曜日		時限
講座名	担当講師名	講座名	担当講師名	
行政学	関根 二三夫	考古学概説	西野 吉論	1 時限目 9:00 ~ 10:30
情報概論 A	中村 典裕	現代教職論〔前期のみ〕	古賀 徹	
		経済地理学	田村 和彦	
ドイツ語Ⅰ・Ⅱ	中島 伸	法学 B	遠藤 清臣	2 時限目 10:40 ~ 12:10
英語学概説	眞野 一雄	フランス語Ⅰ・Ⅱ	大庭 克夫	
東洋史入門	綿貫 哲郎	英作文Ⅰ〔前期のみ〕	アレックス ブラウン	
憲法	名雪 健二	英作文Ⅱ〔後期のみ〕	アレックス ブラウン	
刑法Ⅰ	船山 泰範	教育原論／教育の思想〔前期のみ〕	古賀 徹	
国文学基礎演習	近藤 健史	教育の方法・技術論〔後期のみ〕	古賀 徹	
経済学概説	陸 亦群			
英語 E	石川 勝	哲学 B	江川 晃	3 時限目 13:00 ~ 14:30
イギリス文学史Ⅱ	猪野 恵也	英語 G	中村 則子	
日本史演習	竹中 眞幸	政治学原論	吉野 篤	
国際経済論	陸 亦群	広告論	樋口 紀男	
英語 F	大住 有里子	社会学	服部 慶亘	4 時限目 14:40 ~ 16:10
歴史学 B	片倉 芳和	英語 H	中村 則子	
科学哲学	本間 司	中国語Ⅰ・Ⅱ	稻葉 明子	
		哲学基礎講読	瀧田 寧	
		国文学史Ⅱ	山崎 泉	
国語学基礎演習	三宅 和子	英語 J	青木 克憲	5 時限目 16:20 ~ 17:50
哲学演習	本間 司	民法Ⅴ	堀切 忠和	
東洋史演習	高綱 博文	西洋史演習	藤井 信行	
社会科・地理歴史科教育法Ⅰ〔前期のみ〕	古賀 徹	情報概論 B	一島 力男	
社会科・公民科教育法Ⅰ〔後期のみ〕	古賀 徹	商品学	鄭 舜玉	

半期開講科目						
	曜日・時限	講座名	曜日・時限	講座名	曜日・時限	講座名
前期開講科目 4/9~7/26	木曜5時限	社会科・地理歴史科教育法Ⅰ	金曜1時限	現代教職論	金曜2時限	英作文Ⅰ
	金曜2時限	教育原論／教育の思想				
後期開講科目 9/17~1/17	木曜5時限	社会科・公民科教育法Ⅰ	金曜2時限	英作文Ⅱ	金曜2時限	教育の方法・技術論

## 2 1学年学部学科別の時間割

### ① 1年生が昼間スクーリングにおいて修得可能な科目

授業科目区分	総合教育科目	外国語科目	保健体育科目	専門教育科目	自由選択科目
① 卒業所定単位	20 単位	8 単位 ・文学専攻（英文学）のみ英語で10単位が必要。	2 単位	94 単位 ・文学専攻（英文学）のみ92単位 ・経済学部・商学部のみ82単位	経済学部・商学部のみ12単位
② 昼間スクーリングにおいて1学年で修得可能な単位数	20 単位	8 単位 (英語を選択した場合) 2 単位 (英語以外を選択した場合)	2 単位	学部・専攻部門により異なるため、学習要覧にて確認してください。	
③ 昼間スクーリングにおいて1学年で修得可能な科目	哲学 歴史学 文学 法学 社会学 政治学 経済学 <sup>※1</sup> 心理学	英語 I 英語 II 英語基礎 <sup>※2</sup> TOEIC ドイツ語 I フランス語 I 中国語 I	保健体育講義 I 体育実技 I	下表のとおり	総合教育科目、外国語科目又は、自学部の専門教育科目の中から選択

	法律	政治経済	文学専攻 (国文学)	文学専攻 (英文学)	哲学専攻	史学専攻	経済	商業
③ 昼間スクーリングにおける開講科目	憲法	憲法	国文学基礎講義	英文法	哲学基礎講読	日本史入門	経済学概論	簿記論 I
	刑法 I	政治学原論			西洋思想史 I		経済原論	
		経済学原論						

※ 1 経済学科では「経済学」を総合教育科目の20単位の中に含めることができません。ただし、自由選択科目（12単位）に含めることができます。

※ 2 文学専攻（英文学）は受講できません。

申込にあたって	<b>①講座名について</b> 科目名の後ろにあるアルファベットは複数開講講座を識別するために与えています。 複数開講講座の場合は、必ず「科目名」+「アルファベット」を『講座名』として表記しています。
	<b>②講座選択について</b> 総合教育科目や外国語科目には、複数開講講座があります。その講座についてはどちらか1つを選択してください。 ●総合教育科目 20単位以上になるよう講座を選択してください。 ※「哲学 A」「哲学 B」、「歴史学 A」「歴史学 B」、「法学 A」「法学 B」はそれぞれどちらか1つを選択してください。
	<b>●外国語科目</b> 外国語科目「英語」の場合： ・「英語」の講座は複数開講しています。この授業内容は「英語 I」「英語 II」「TOEIC」を含んでおり、各自が申込む際はどちらで受けるか意思表示をする必要があります。必ず申告してください。 ・「英語基礎」「TOEIC」講座は複数開講していますが、1つしか受講できません。  ※文理学部文学専攻（英文学）受講可能科目：「英語 I」「英語 II」「TOEIC」 それ以外の学科専攻の受講可能科目：「英語 I」「英語 II」「TOEIC」「英語基礎」 外国語科目「ドイツ語」の場合： 「ドイツ語 I・II」を選択してください。科目としては「ドイツ語 I (0051)」で登録されます。 外国語科目「フランス語」の場合： 「フランス語 I・II」を選択してください。科目としては「フランス語 I (0056)」で登録されます。 外国語科目「中国語」場合： 「中国語 I・II」を選択してください。科目としては「中国語 I (0061)」で登録されます。
	<b>●専門教育科目</b> 上記③専門教育科目に記載された科目が受講可能科目です。

## (2) 学部・専攻部門の時間割

## (1) 法学部法律学科

時限	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1 時限目 9:00～10:30	法学 A	経済学		
	政治学			
	TOEIC A			
2 時限目 10:40～12:10	文学	英語 C	ドイツ語 I (0051)	法学 B
			憲法	フランス語 I (0056)
			刑法 I	
3 時限目 13:00～14:30	英語基礎 A	心理学	英語 E	哲学 B
		英語 D		英語 G
		英語基礎 B		
4 時限目 14:40～16:10	英語 A	哲学 A	英語 F	社会学
		TOEIC B	歴史学 B	英語 H
				中国語 I (0061)
5 時限目 16:20～17:50	英語 B	歴史学 A		英語 J
保健体育講義 I		体育実技		
文理学部校舎 9月2日～9月5日 午前		文理学部校舎 9月2日～9月5日 午後 9月6日のみ終日		

## (2) 法学部政治経済学科

時限	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1 時限目 9:00～10:30	法学 A	経済学		
	政治学			
	TOEIC A			
2 時限目 10:40～12:10	文学	英語 C	ドイツ語 I (0051)	法学 B
			憲法	フランス語 I (0056)
3 時限目 13:00～14:30	英語基礎 A	心理学	英語 E	哲学 B
		英語 D		英語 G
		英語基礎 B		政治学原論
4 時限目 14:40～16:10	英語 A	哲学 A	英語 F	社会学
		TOEIC B	歴史学 B	英語 H
			経済原論(経済学原論)	中国語 I (0061)
5 時限目 16:20～17:50	英語 B	歴史学 A		英語 J
保健体育講義 I		体育実技		
文理学部校舎 9月2日～9月5日 午前		文理学部校舎 9月2日～9月5日 午後 9月6日のみ終日		

## (3) 文理学部文学専攻(国文学)

時限	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1 時限目 9:00～10:30	法学 A	経済学		
	政治学			
	TOEIC A			
2 時限目 10:40～12:10	文学	英語 C	ドイツ語 I (0051)	法学 B
				フランス語 I (0056)
3 時限目 13:00～14:30	英語基礎 A	心理学	英語 E	哲学 B
		英語 D		英語 G
		英語基礎 B		
4 時限目 14:40～16:10	英語 A	哲学 A	英語 F	社会学
		TOEIC B	歴史学 B	英語 H
			国文学基礎講義	中国語 I (0061)
5 時限目 16:20～17:50	英語 B	歴史学 A		英語 J
保健体育講義 I		体育実技		
文理学部校舎 9月2日～9月5日 午前		文理学部校舎 9月2日～9月5日 午後 9月6日のみ終日		

(4) 文理学部文学専攻（英文学）

時限	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1 時限目 9:00～10:30	法学 A	経済学		
	政治学			
	TOEIC A			
2 時限目 10:40～12:10	文学	英語 C		法学 B
	英文法			
3 時限目 13:00～14:30		心理学	英語 E	哲学 B
		英語 D		英語 G
4 時限目 14:40～16:10	英語 A	哲学 A	英語 F	社会学
		TOEIC B	歴史学 B	英語 H
5 時限目 16:20～17:50	英語 B	歴史学 A		英語 J
保健体育講義 I		体育実技		
文理学部校舎 9月2日～9月5日 午前		文理学部校舎 9月2日～9月5日 午後 9月6日のみ終日		

(5) 文理学部哲学専攻

時限	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1 時限目 9:00～10:30	法学 A	経済学		
	政治学			
	TOEIC A			
2 時限目 10:40～12:10	文学	英語 C	ドイツ語 I (0051)	法学 B
		西洋思想史 I		フランス語 I (0056)
3 時限目 13:00～14:30	英語基礎 A	心理学	英語 E	哲学 B
		英語 D		英語 G
		英語基礎 B		
4 時限目 14:40～16:10	英語 A	哲学 A	英語 F	社会学
		TOEIC B	歴史学 B	英語 H
				中国語 I (0061) 哲学基礎講読
5 時限目 16:20～17:50	英語 B	歴史学 A		英語 J
保健体育講義 I		体育実技		
文理学部校舎 9月2日～9月5日 午前		文理学部校舎 9月2日～9月5日 午後 9月6日のみ終日		

(6) 文理学部史学専攻

時限	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1 時限目 9:00～10:30	法学 A	経済学		
	政治学			
	TOEIC A			
2 時限目 10:40～12:10	文学	英語 C	ドイツ語 I (0051)	法学 B
				フランス語 I (0056)
3 時限目 13:00～14:30	英語基礎 A	心理学	英語 E	哲学 B
	日本史入門	英語 D		英語 G
		英語基礎 B		
4 時限目 14:40～16:10	英語 A	哲学 A	英語 F	社会学
		TOEIC B	歴史学 B	英語 H
				中国語 I (0061)
5 時限目 16:20～17:50	英語 B	歴史学 A		英語 J
保健体育講義 I		体育実技		
文理学部校舎 9月2日～9月5日 午前		文理学部校舎 9月2日～9月5日 午後 9月6日のみ終日		

## (7) 経済学部経済学科

時限	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1 時限目 9:00～10:30	法学 A	経済学		
	政治学			
	TOEIC A			
2 時限目 10:40～12:10	文学	英語 C	ドイツ語 I (0051)	法学 B
			経済学概論	フランス語 I (0056)
3 時限目 13:00～14:30	英語基礎 A	心理学	英語 E	哲学 B
		英語 D		英語 G
		英語基礎 B		
4 時限目 14:40～16:10	英語 A	哲学 A	英語 F	社会学
		TOEIC B	歴史学 B	英語 H
		経済原論		中国語 I (0061)
5 時限目 16:20～17:50	英語 B	歴史学 A		英語 J
保健体育講義 I		体育実技		
文理学部校舎 9月2日～9月5日 午前		文理学部校舎 9月2日～9月5日 午後 9月6日のみ終日		

## (8) 商学部商業学科

時限	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1 時限目 9:00～10:30	法学 A	経済学		
	政治学			
	TOEIC A			
2 時限目 10:40～12:10	文学	英語 C	ドイツ語 I (0051)	法学 B
				フランス語 I (0056)
3 時限目 13:00～14:30	英語基礎 A	心理学	英語 E	哲学 B
		英語 D		英語 G
		英語基礎 B		
4 時限目 14:40～16:10	英語 A	哲学 A	英語 F	社会学
		TOEIC B	歴史学 B	英語 H
				中国語 I (0061)
5 時限目 16:20～17:50	英語 B	歴史学 A		英語 J
		簿記論 I		
保健体育講義 I		体育実技		
文理学部校舎 9月2日～9月5日 午前		文理学部校舎 9月2日～9月5日 午後 9月6日のみ終日		

### 3 卒業論文指導時間割

- ① 昼間スクーリング開講期間中、下表の時間帯で開講されます。  
なお、補講日及び試験期間中は開講しませんので注意してください。
- ② 実施場所等は、通信教育部1号館1階掲示板にてお知らせします。
- ③ 指導開始時間には、実施場所に待機してください。  
※ 開始時間に希望学生がいない場合には、指導を取やめる場合がありますので、ご了承ください。
- ④ 以下の担当教員の「個別」「専門」指導は、当該担当教員の指導分野に限っての指導となります。

時限	火曜日			水曜日			木曜日			金曜日		
1 時間目 9:00 ~ 10:30												
2 時間目 10:40 ~ 12:10				講師 [経済学科]	田村 和彦	講師 [政治経済学科]	関根 二三夫					
3 時間目 13:00 ~ 14:30	講師 [文学専攻 (国文学)]				一般 卒論作成に関する一般事項	一般 卒論作成に関する一般事項	一般 卒論作成に関する一般事項					
4 時間目 14:40 ~ 16:10	講師 [史学専攻]	講師 [文学専攻 (英文学)]	猪野 恵也				真野 一雄 [文学専攻 (英文学)]	本間 司 [哲学専攻]				
5 時間目 16:20 ~ 17:50	講師 [法律学科]	講師 [史学専攻]	鍋本 由徳				竹中 真幸 [史学専攻]					
	一般 卒論作成に関する一般事項				一般 卒論作成に関する一般事項	一般 卒論作成に関する一般事項	一般 卒論作成に関する一般事項					
	個別 日本古典文学				個別 日本史 (中世・近世)	個別 イギリス文学	個別 日本史					
	専門 上代文学				専門	専門	専門					
	講師 [商業学科]				佐藤 稔							
	一般 卒論作成に関する一般事項											
	個別 商業政策											
	専門											
	講師 [経済学科]				高綱 博文				陸 亦群 [経済学科]			
	一般 卒論作成に関する一般事項				一般 卒論作成に関する一般事項	一般 卒論作成に関する一般事項	一般 卒論作成に関する一般事項					
	個別 民法				個別 外国史				個別 国際経済論 経済開発論			
	専門				専門				専門			

## 4 保健体育講義Ⅰ, 体育実技の受講について

保健体育講義Ⅰ及び体育実技は他の講座と異なり、日本大学文理学部にて実施されます。日程、授業時間等も異なりますので、以下の事項をよく確認してください。

### ① 日程

#### 【雨天決行】

講座名	日 程	授業時間
保健体育講義Ⅰ	9月2日～9月5日	9:00～12:00
体育実技	9月2日～9月5日 9月6日のみ	13:00～16:50 9:00～16:50

※上記すべての日程に出席すること。

### ② 実施会場

保健体育講義Ⅰ：日本大学文理学部3号館

体育実技：日本大学文理学部総合体育館及び百周年記念館

住 所 東京都世田谷区桜上水3-25-40

交通案内 京王線下高井戸駅及び桜上水駅下車徒歩約10分

…次頁案内図参照

### ③ 持参物

- ・運動のできる服装（トレーニングウェア等）←
- ・室内用運動靴←「保健体育講義Ⅰ」のみの受講生は不要
- ・健康保険証←
- ・学生証
- ・筆記用具
- ・スクーリングの手引
- ・スクーリング受講通知書兼スクーリング受講料等振込依頼書（初回9月2日出席時は必携のこと）

### ④ 体育実技の集合場所・集合時間

日本大学文理学部総合体育館入口 12:45から受け付け開始

※毎回、総合体育館入口に集合し、遅くとも授業開始5分前までに出席確認を受け、更衣した後、実施会場に移動してください。

### ⑤ 受講について

体育実技は必修科目となっていますが、疾病及び身体等の障害により実技を行うことが困難であると思われる方は、受講申込前（受講届提出前）に教務課までお問い合わせください。

### ⑥ 注意事項

- （1）体育実技はジーンズや普段着での受講はできません。
- （2）文理学部周辺は住宅地で付近に食事をする場所が少なく、また、当日、文理学部内の食堂は利用できない可能性があるため、食事は事前に済ませるか、持参することをお勧めいたします。
- （3）体育実技の更衣室は文理学部総合体育館及び百周年記念館内にあります。ただし、更衣室内のロッカーは使用できないため、更衣後、荷物は受講会場へ持参してください。
- （4）貴重品は各自で管理してください。
- （5）体育実技は授業開始15分前から出席をとります。受付及び更衣の時間を考慮の上、必ず遅れることのないようにしてください。

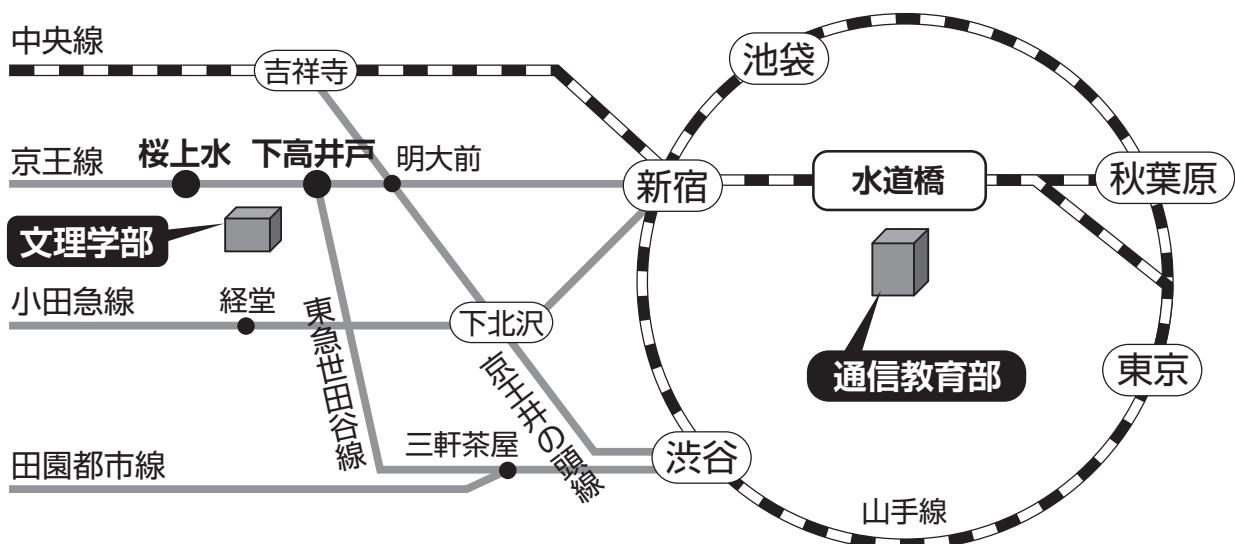
## 文理学部までの交通

### ○ JR 水道橋駅から

JR 総武線・中央線各駅停車（新宿・中野方面）で新宿駅下車。京王線各駅停車、快速及び急行のいずれかに乗り換え、下高井戸駅及び桜上水駅下車徒歩約 10 分。通信教育部から約 45 分。

### ○ 都営地下鉄新宿線神保町駅から

新宿・笹塚方面、笹塚駅下車。京王線各駅停車、快速及び急行のいずれかに乗り換え、下高井戸駅及び桜上水駅下車徒歩約 10 分。通信教育部から約 40 分。



## *MEMO*

時間割

## 開講講座表

## 受講講座の選定

受講手続

## 受講及び試験

シラバスと  
使用教材

## 通学定期券の 購入手続

## 軽井沢オリエン ティー・ショーン

## 胸部X線検査

カリキュラム

## 各種用紙

### III 開講講座表

#### 1 「開講講座表」の見方

(表は見やすいように網掛けが入っています)

##### 【曜日】【時限】

各講座の開講される曜日・時限を記載しています。

##### 【講座コード】

スクーリングで開講される講座のコード番号です。講座（担当講師）を識別するために設けられています。受講届の講座コード欄（2 行）にはこの講座コードを記入してください。

##### 【開講講座名】

英語等は複数開講されていますので、講座名の後ろにアルファベット等を記載し各講座を識別しています。講座名の記入にあたっては必ず識別毎の講座名を記入してください。

##### 【充当科目コード・充当科目名】

開講講座の単位修得により充当される科目名及びその科目のコード番号です。充当したい科目をこのコード番号によって申告してください。

受講届の充当科目コード欄（4 行）には、この充当科目コードを記入してください。

##### 【制限・注意】

###### 【配当学年】

各講座を申し込むことができるようになる学年が記載されています。記載された学年に達していない学年は申し込むことができません。

###### 【カリキュラム】

各講座の受講対象の適用するカリキュラム及び免許法課程の条件を記載しています。該当カリキュラムによって科目名が異なる講座もありますので注意してください。記載のない科目は全カリキュラムが対象となります。

###### 【受講条件】

その他の受講制限及び諸注意等を記載しています。

## 2 開講講座表【科目コード順】

※見やすいように1講座ごとに網掛けをしております。

曜日	時限	講座コード	開講講座名	担当講師名	充当科目		制限・注意				
					科目コード	科目名	配当学年	カリキュラム	受講条件		
水	4	CB	哲学 A	三箇 文夫	0011	哲学	1年				
金	3	EA	哲学 B	江川 晃	0011	哲学	1年				
水	5	CK	歴史学 A	渡邊 浩史	0015	歴史学	1年				
木	4	DF	歴史学 B	片倉 芳和	0015	歴史学	1年				
火	2	B6	文学	野口 恵子	0017	文学	1年				
火	1	B1	法学 A	高須 則行	0021	法学 (日本国憲法2単位を含む)	1年				
金	2	E4	法学 B	遠藤 清臣	0021	法学 (日本国憲法2単位を含む)	1年				
金	4	EE	社会学	服部 慶亘	0022	社会学	1年				
火	1	B2	政治学	関根 二三夫	0023	政治学	1年				
水	1	C1	経済学	田村 和彦	0024	経済学	1年				
水	3	C6	心理学	野村 康治	0035	心理学	1年				
火	4	BK	英語 A	小山 誠子	0041	英語 I	1年	I～IVのいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。			
					0042	英語 II					
					0043	英語 III	2年				
					0044	英語 IV					
火	5	BR	英語 B	鈴木 ふさ子	0041	英語 I	1年	I～IVのいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。			
					0042	英語 II					
					0043	英語 III	2年				
					0044	英語 IV					
水	2	C2	英語 C	岡田 善明	0041	英語 I	1年	I～IVのいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。			
					0042	英語 II					
					0043	英語 III	2年				
					0044	英語 IV					

### 注意

各講座には収容定員・適正定員があります。受講希望者がそれらを超えた場合、大学が任意に講座を分割したり他講師担当の同一科目講座へ振り分けるなどの、受講制限を行います。

その結果、必ずしも希望した担当者の講座を受講できない場合、受講をお断りする場合があります。あらかじめ、ご了承ください。

曜日	時限	講座コード	開講講座名	担当講師名	充 当 科 目		制 限・注 意				
					科 目 コ ー ド	科 目 名	配 当 学 年	カリ キュ ラム	受 講 条 件		
水	3	C7	英 語 D	北原 安治	0041	英 語 I	1 年		I ~ IV のいずれに該当させるのか充當科目コードを必ず記入してください。		
					0042	英 語 II					
					0043	英 語 III	2 年				
					0044	英 語 IV					
木	3	DA	英 語 E	石川 勝	0041	英 語 I	1 年		I ~ IV のいずれに該当させるのか充當科目コードを必ず記入してください。		
					0042	英 語 II					
					0043	英 語 III	2 年				
					0044	英 語 IV					
木	4	DE	英 語 F	大住 有里子	0041	英 語 I	1 年		I ~ IV のいずれに該当させるのか充當科目コードを必ず記入してください。		
					0042	英 語 II					
					0043	英 語 III	2 年				
					0044	英 語 IV					
金	3	EB	英 語 G	中村 則子	0041	英 語 I	1 年		I ~ IV のいずれに該当させるのか充當科目コードを必ず記入してください。		
					0042	英 語 II					
					0043	英 語 III	2 年				
					0044	英 語 IV					
金	4	EF	英 語 H	中村 則子	0041	英 語 I	1 年		I ~ IV のいずれに該当させるのか充當科目コードを必ず記入してください。		
					0042	英 語 II					
					0043	英 語 III	2 年				
					0044	英 語 IV					
金	5	EK	英 語 J	青木 克憲	0041	英 語 I	1 年		I ~ IV のいずれに該当させるのか充當科目コードを必ず記入してください。		
					0042	英 語 II					
					0043	英 語 III	2 年				
					0044	英 語 IV					
火	3	BD	英 語 基 础 A	飯野 朝世	0046	英 語 基 础	1 年	D	英文学専攻は申込不可		
水	3	C8	英 語 基 础 B	町田 純子	0046	英 語 基 础	1 年	D	英文学専攻は申込不可		
火	1	B3	TOEIC A	八木 茂那子	0048	TOEIC	1 年	D			
水	4	CC	TOEIC B	町田 純子	0048	TOEIC	1 年	D			

注 意

各講座には収容定員・適正定員があります。受講希望者がそれらを超えた場合、大学が任意に講座を分割したり他講師担当の同一科目講座へ振り分けるなどの、受講制限を行います。

その結果、必ずしも希望した担当者の講座を受講できない場合、受講をお断りする場合があります。あらかじめ、ご了承ください。

曜日	時限	講座コード	開講講座名	担当講師名	充当科目		制限・注意		
					科目コード	科目名	配当学年	カリキュラム	受講条件
木	2	D3	ドイツ語 I・II	中島 伸	0051	ドイツ語 I	1年		I・IIのどちらに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。
					0052	ドイツ語 II			
金	2	E5	フランス語 I・II	大庭 克夫	0056	フランス語 I	1年		I・IIのどちらに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。
					0057	フランス語 II			
金	4	EG	中国語 I・II	稲葉 明子	0061	中国語 I	1年		I・IIのいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。
					0062	中国語 II			
9/2 ～ 9/5 午前	T1		保健体育講義 I	吉本 俊明	0074	保健体育講義 I	1年		スクーリング1回の合格で単位完成する科目です
					0077	体育実技 I			
9/2 ～ 9/5 午前 9/6 終日	T2		体育実技	吉本 俊明	0078	体育実技 II	1年		I・IIのいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。 スクーリング1回の合格で単位完成する科目です
水	4	CD	国文学基礎講義	木村 一	0081	国文学基礎講義	条件参照		国文学専攻のみ1学年以上申込可 その他は2学年以上申込可
木	2	D4	英語学概説	真野 一雄	0085	英語学概説	2年		
金	4	EH	哲学基礎講読	瀧田 寧	0091	哲学基礎講読	条件参照		哲学専攻のみ1学年以上申込可 その他は2学年以上申込可
火	3	BE	日本史入門	竹中 真幸	0095	日本史入門	条件参照		史学専攻のみ1学年以上申込可 その他は2学年以上申込可
木	2	D5	東洋史入門	綿貫 哲郎	0096	東洋史入門	2年		
火	2	B7	法哲学	高須 則行	0110	法哲学	2年		
木	2	D6	憲法	名雪 健二	0121	憲法	条件参照		法学部のみ1学年以上申込可 その他は2学年以上申込可
火	4	BL	民法	根本 晋一	0130	民法	2年		
火	3	BF	民法 IV	根本 晋一	0135	民法 IV	2年		
金	5	EL	民法 V	堀切 忠和	0137	民法 V	2年		
火	4	BM	商法 I	高岸 直樹	0141	商法 I	2年		
木	2	D7	刑法 I	船山 泰範	0151	刑法 I	条件参照		法律学科のみ1学年以上申込可 その他は2学年以上申込可

## 注意

各講座には収容定員・適正定員があります。受講希望者がそれらを超えた場合、大学が任意に講座を分割したり他講師担当の同一科目講座へ振り分けるなどの、受講制限を行います。

その結果、必ずしも希望した担当者の講座を受講できない場合、受講をお断りする場合があります。あらかじめ、ご了承ください。

曜日	時限	講座コード	開講講座名	担当講師名	充 当 科 目		制 限・注 意			
					科 目 コ ー ド	科 目 名	配 当 学 年	カリ キュ ラム	受 講 条 件	
金	3	EC	政治学原論	吉野 篤	0210	政治学原論	条件 参照		政治経済学科のみ1学年以上申込可 その他は2学年以上申込可	
火	4	BN	日本政治史	黒川 貢三郎	0213	日本政治史	2年			
木	1	D1	行政学	関根 二三夫	0221	行政学	2年			
火	2	B8	国際政治学	大八木 時広	0223	国際政治論	2年		経済学部のみ申込可	
					0224	国際政治学			法学部・文理学部のみ申込可	
					0225	国際政治概論			商学部のみ申込可	
水	4	CE	政治学特殊講義Ⅰ・Ⅱ	秋山 和宏	0231	政治学特殊講義Ⅰ	2年		I・Ⅱのいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。 スクーリング1回の合格で単位完成する科目です	
					0232	政治学特殊講義Ⅱ				
金	4	EJ	国文学史Ⅱ	山崎 泉	0312	国文学史Ⅱ	2年			
水	3	C9	国文学講義Ⅵ (現代)	永岡 健右	0339	国文学講義Ⅵ (現代)	2年			
火	4	BO	国文学特殊講義Ⅰ・Ⅱ	近藤 健史	0342	国文学特殊講義Ⅰ	2年		I・Ⅱのいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。 スクーリング1回の合格で単位完成する科目です	
					0343	国文学特殊講義Ⅱ				
木	2	D8	国文学基礎演習	近藤 健史	0376	国文学基礎演習	2年		国文学専攻のみ申込可	
木	5	DH	国語学基礎演習	三宅 和子	0377	国語学基礎演習	2年		国文学専攻のみ申込可	
木	3	DB	イギリス文学史Ⅱ	猪野 恵也	0412	イギリス文学史Ⅱ	2年			
水	4	CF	アメリカ文学史	北原 安治	0414	アメリカ文学史	2年			
火	2	B9	英文法	真野 一雄	0445	英文法	条件 参照		英文学専攻のみ1学年以上申込可 その他は2学年以上申込可	
金	2	E6	英作文Ⅰ	アレックス ブラウン	0447	英作文Ⅰ	2年		前期のみの開講	
金	2	E7	英作文Ⅱ	アレックス ブラウン	0448	英作文Ⅱ	2年		後期のみの開講	
水	2	C3	英語音声学	森 晴代	0450	英語音声学	2年			
火	3	BG	英米文学演習	猪野 恵也	0486	英米文学演習Ⅰ	3年		英文学専攻のみ申込可 I～Ⅲのいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。	
					0487	英米文学演習Ⅱ				
					0488	英米文学演習Ⅲ				

#### 注 意

各講座には収容定員・適正定員があります。受講希望者がそれらを超えた場合、大学が任意に講座を分割したり他講師担当の同一科目講座へ振り分けるなどの、受講制限を行います。

その結果、必ずしも希望した担当者の講座を受講できない場合、受講をお断りする場合があります。あらかじめ、ご了承ください。

曜日	時限	講座コード	開講講座名	担当講師名	充当科目		制限・注意		
					科目コード	科目名	配当学年	カリキュラム	受講条件
水	2	C4	西洋思想史Ⅰ	杉山 晃太郎	0511	西洋思想史Ⅰ	条件参照		哲学専攻のみ1学年以上申込可 その他は2学年以上申込可
水	3	CA	日本思想史Ⅱ	島田 健太郎	0522	日本思想史Ⅱ	2年		
水	4	CG	倫理学概論	笹井 和夫	0533	倫理学概論	2年		
木	4	DG	科学哲学	本間 司	0575	科学哲学	2年		
木	5	DJ	哲学演習	本間 司	0581	哲学演習Ⅰ	3年		哲学専攻のみ申込可 Ⅰ・Ⅱのいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。
					0582	哲学演習Ⅱ			
火	4	BP	史学概論	高綱 博文	0611	史学概論	2年		
火	2	BA	日本史概説	鍋本 由徳	0620	日本史概論	2年		法学部のみ申込可
					0621	日本史概説			文理・経済・商学部のみ申込可
火	1	B4	西洋史概説	高草木 邦人	0624	西洋史概説	2年		文理・経済・商学部のみ申込可
					0628	西洋史概論			法学部のみ申込可
水	2	C5	日本史特講Ⅰ	鍋本 由徳	0661	日本史特講Ⅰ	2年		
金	1	E1	考古学概説	西野 吉論	0679	考古学概説	2年		
木	3	DC	日本史演習	竹中 真幸	0681	日本史演習Ⅰ	3年		史学専攻のみ申込可 Ⅰ・Ⅱのどちらに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。
					0682	日本史演習Ⅱ			
木	5	DK	東洋史演習	高綱 博文	0686	東洋史演習Ⅰ	3年		史学専攻のみ申込可 Ⅰ・Ⅱのどちらに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。
					0687	東洋史演習Ⅱ			
金	5	EM	西洋史演習	藤井 信行	0691	西洋史演習Ⅰ	3年		史学専攻のみ申込可 Ⅰ～Ⅲのいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。
					0692	西洋史演習Ⅱ			
水	5	CL	東洋史特講Ⅲ	堀井 弘一郎	0696	東洋史特講Ⅲ	2年		

## 注意

各講座には収容定員・適正定員があります。受講希望者がそれらを超えた場合、大学が任意に講座を分割したり他講師担当の同一科目講座へ振り分けるなどの、受講制限を行います。

その結果、必ずしも希望した担当者の講座を受講できない場合、受講をお断りする場合があります。あらかじめ、ご了承ください。

曜日	時限	講座コード	開講講座名	担当講師名	充 当 科 目		制 限・注 意			
					科 目 コ ー ド	科 目 名	配 当 学 年	カリ キュ ラム	受 講 条 件	
水	4	CH	経 濟 原 論	片平 光昭	0711	経 濟 原 論	条件 参 照		経済学部のみ 1 学年以上申込可 文理・商学部は 2 学年以上申込可	
					0712	経 濟 学 原 論				
火	3	BH	日本 経 濟 論	飯島 正義	0736	日本 経 濟 論	2 年			
木	3	DD	国 際 経 濟 論	陸 亦群	0737	国 際 経 濟 論	2 年			
火	4	BQ	金 融 論	谷川 孝美	0746	金 融 論	2 年			
火	2	BB	労 働 経 濟 論	今井 拓	0763	労 働 経 濟 論	2 年			
木	1	D2	情 報 概 論 A	中村 典裕	0773	情 報 概 論	2 年			
金	5	EN	情 報 概 論 B	一島 力男	0773	情 報 概 論	2 年			
金	5	EO	商 品 学	鄭 舜玉	0821	商 品 学	2 年			
火	2	BC	マーケティング	佐藤 稔	0823	マーケティング	2 年			
金	3	ED	広 告 論	樋口 紀男	0830	広 告 論	2 年			
火	3	BJ	商 業 政 策	佐藤 稔	0831	商 業 政 策	2 年			
火	1	B5	経 営 管 理 論	山田 敏之	0843	経 営 管 理 論	2 年			
水	5	CM	簿 記 論 I	林 徳順	0854	簿 記 論 I	条件 参 照		商学部のみ 1 学年以上申込可 その他は 2 学年以上申込可	
水	4	CJ	商 業 史	横山 則孝	0898	商 業 史				
金	1	E2	現 代 教 職 論	古賀 徹	0903	現 代 教 職 論	2 年		前期のみの開講	
金	2	E8	教 育 原 論 / 教 育 の 思 想	古賀 徹	0901	教 育 原 論	2 年		平成 23 年度 1 学年入学生、 平成 24 年度 1 学年入学生、 2 学年編入・再入学生、平成 25 年度 2・3 学年編入学・ 再入学生及び科目履修生のみ申込可	
					0904	教 育 の 思 想				
金	2	E9	教 育 の 方 法・ 技 術	古賀 徹	0926	教 育 の 方 法・ 技 術 論	2 年		後期のみの開講	

#### 注 意

各講座には収容定員・適正定員があります。受講希望者がそれらを超えた場合、大学が任意に講座を分割したり他講師担当の同一科目講座へ振り分けるなどの、受講制限を行います。

その結果、必ずしも希望した担当者の講座を受講できない場合、受講をお断りする場合があります。あらかじめ、ご了承ください。

曜日	時限	講座コード	開講講座名	担当講師名	充当科目		制限・注意		
					科目コード	科目名	配当学年	カリキュラム	受講条件
木	5	DL	社会科・地理歴史科 教育法 I	古賀 徹	0957	社会科・地理歴史科 教育法 I	2年		法学部・哲学専攻・史学専攻・ 経済学部・商学部のみ申込可 前期のみの開講
木	5	DM	社会科・公民科 教育法 I	古賀 徹	0959	社会科・公民科 教育法 I	2年		法学部・哲学専攻・史学専攻・ 経済学部・商学部のみ申込可 後期のみの開講
金	1	E3	経済地理学	田村 和彦	0973	経済地理	2年		商学部のみ申込可
					0974	経済地理学			法学部・文理学部・経済学部のみ申込可
木	2	D9	経済学概論	陸 亦群	0986	経済学概論	条件参照		経済学部のみ1学年以上申込可 その他は2学年以上申込可

## 注意

各講座には収容定員・適正定員があります。受講希望者がそれらを超えた場合、大学が任意に講座を分割したり他講師担当の同一科目講座へ振り分けるなどの、受講制限を行います。

その結果、必ずしも希望した担当者の講座を受講できない場合、受講をお断りする場合があります。あらかじめ、ご了承ください。

## 受講対象者及び受講条件

昼間スクーリングの受講者は、下記の受講条件を必ず守り、申込みをしてください。

### 1 受講申込対象者 (申込時点において右記の条件を満たすこと)

- ① 年度授業料を納入していること、または所定の締切日までに納入することができるもの。
- ② 昼間スクーリング受講料を納入期日までに納入することができるもの。
- ③ 平成 25 年 9 月卒業をしないもの。また、年度途中に退学をしないもの。
- ④ 昼間スクーリングの授業日程に出席できること。
- ⑤ 昼間スクーリングの試験日程に出席できること。

### 2 受講講座数

#### 【申込講座の上限】 14 講座まで

火曜日から金曜日までの各時限から 1 講座ずつ、別日程の「保健体育講義Ⅰ」、「体育実技」を含め、最多で 14 講座まで申し込むことができます。

※半期開講科目についても 1 講座としてカウントしてください。

### 3 受講制限

上記 1, 2 の条件を満たしていても、全ての講座を申し込むわけではありません。下記の制限により申し込めない講座がありますので、項目を確認し、受講講座を選定してください。

#### ① 学年・学科専攻による受講可能講座の制限について

このスクーリングは平成 25 年度のスクーリングであり、平成 25 年 4 月現在の学年で受講できる講座を選びます。

##### (1) 1 学年生

『学習要覧』『授業科目一覧』の表中で「面接配当学年」欄に「1」と記載されている総合教育科目・外国語科目・各自が指定配本されている専門教育科目が受講可能です。

このスクーリングでは「開講講座表」の「配当学年」が「1 年」とある講座です。また、科目によっては特定の専攻部門しか申し込めない科目もあります。『学習要覧』又は「開講講座表」の「制限・注意」をよく参照してください。

また、1 学年の各学科ごとに時間割がありますので、そちらも参照してください。

##### (2) 2 学年生

『学習要覧』『授業科目一覧』の表中で「面接配当学年」欄に「1」「2」と記載されている科目が受講可能です。

このスクーリングでは「開講講座表」の「配当学年」が「1 年」「2 年」とある講座です。また、科目によっては特定の学科しか申し込めない科目もあります。『学習要覧』又は「開講講座表」の「制限・注意」をよく参照してください。

##### (3) 3・4 学年生

『学習要覧』『授業科目一覧』の表中で「面接配当学年」欄に「1」「2」「3」と記載されている科目が受講可能です。

このスクーリングでは「開講講座表」の「配当学年」が「1年」「2年」「3年」とある講座です。また、科目によっては特定の学科しか申し込めない科目もあります。『学習要覧』又は「開講講座表」の「制限・注意」をよく参照してください。

#### (4) 科目履修生

入学時に申請登録した科目に該当する講座のみ受講できます。

##### ② カリキュラムによる受講可能講座の制限について

自分に適用されているカリキュラムによっては、受講できない講座があります。自分のカリキュラムが分からぬ方は後掲「**カリキュラム**」を参照してください。

##### ③ その他の理由による受講可能講座の制限について

以下のいずれかに該当する場合、その講座は受講できません。

- (1) 既に所定単位を修得している科目及び単位修得方式が確定している講座
- (2) 通年スクーリングを受講する場合
- (3) 受講希望者が適正人員又は授業講堂の収容定員を超えた場合

##### ④ 他のスクーリングとの日程重複による受講可能講座の制限について

昼間スクーリングの火曜日の講座を申し込む場合、地方スクーリングが月曜日に終了した後、東京に移動し昼間スクーリングに出席する必要が生じます。

同じく、昼間スクーリングの金曜日の講座を申し込む場合、授業終了後、地方スクーリング会場に移動しなければなりません。

遅刻しなければ出席できないなど、出席が無理な場合は受講申込みができません。自己責任の元に判断し、申込みをしてください。

## 1 講座を申し込む

スクーリングを受講するためには、この手引巻末にある「受講届」の提出が必要となります。受講届は「開講講座表」を参照しながら作成してください。

### ①「受講届」記入欄の説明（記入例参照）

#### (1) 曜日・時限

それぞれ「開講講座表」にあるとおり、記入してください。

#### (2) 講座名について

「開講講座表」にあるとおり記入してください。

間違えて「充当科目名」を記入しないよう注意してください。

#### (3) 講座コード

「開講講座表」の「講座コード」欄にあるとおり記入してください。

#### (4) 充当科目コード

開講講座の単位修得により充当できる科目のコード番号です。「開講講座表」の「充当科目コード」欄及び以下の②を参照し、記入してください。

#### (5) 学生番号・氏名・電話番号

電話番号は記載事項を確認する場合に使用します。確実に連絡のとれる電話番号を記載してください。

<input type="checkbox"/> 内を必ず御記入ください		平成25年 月 日作成		
平成25年度 昼間スクーリング受講届[01]				
曜日	時限	講座コード	講座名	充当科目コード
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8	(1)	(3)	(2)	(4)
9				
10				
11				
12				
13				
14				
<small>※保健体育講義Ⅰ及び体育実技を申し込む場合、曜日時限の記入は不要            ※提出締切日 4月19日（金）【締切日までの捺印有効】            ※書き損じた場合は修正テープ、修正液で訂正してください。            ※本票は上記スクーリングの受講に関する事項についてのみ使用すること。</small>				
申込講座数	講座			
学生番号				
フリガナ				
氏名	(5)			

### ②注意事項（「英語」等の外国語科目及び「各演習科目」など）

例えば、「英語」の講座は、「英語Ⅰ」、「英語Ⅱ」、「英語Ⅲ」及び「英語Ⅳ」という科目を含んで開講されます。今回のスクーリングで「英語Ⅰ～Ⅳ」のどの科目に充当させるかは、各自の履修状況・履修計画によって異なります。したがって、英語をスクーリングで受講する際には、「受講届」に記載する充当科目コードによって「英語Ⅰ～Ⅳ」のうちどの科目で受講するのか、各自が大学に申告しなければなりません。

「受講届」では2桁の講座コードと4桁の充当科目コードによって、受講講座（科目）を登録します。コードは「開講講座表」の「講座コード」欄、「科目コード」欄に記載されています。

「英語」の場合、「開講講座表」の「科目コード」欄に4つのコードが記載されていますが、各自の履修計画に合致する科目（「英語Ⅰ～Ⅳ」のいずれか）のコードを、1つ選択してください。

## 記入例（英語 C を英語Ⅲとして申込む場合）

講座コード	開講講座名	充当科目コード	科目名（充当科目名）	
B3	英語 A	0041 0042 0043 0044	英語 I 英語 II 英語 III 英語 IV	
B9	英語 B	0041 0042 0043 0044	英語 I 英語 II 英語 III 英語 IV	
	BE 英語 C	0041 0042 0043 0044	英語 I 英語 II 英語 III 英語 IV	

(2) (1) (4) (3)

- (1) 希望する講座を選択……「英語 C」を選択
- (2) 「英語 C」を選択したことによって講座コード「BE」と記入
- (3) その講座でどの科目を充当したいのかを選択する……「英語Ⅲ」を選択
- (4) 「英語Ⅲ」を選択したことによって充当科目コードは「0043」を記入

※ 「……演習」という講座も同様で、例えば「英語学演習」の場合、「英語学演習 I」「英語学演習 II」「英語学演習 III」という科目全てを含んで開講されます。今回のスクーリングで「英語学演習 I～III」のどの科目に充当させるかを「受講届」に記載する充当科目コードによって各自が大学に申告しなくてはなりません。

## 注 意 事 項

## 記入上の注意

- (1) 黒のボールペン（消せるタイプのペンは不可）を使用し、楷書で正確に記入してください。
- (2) 受講届提出締切後の追加、変更はできません。
- (3) 記入誤り、記入漏れによる追加変更は一切いたしません。
- (4) 下記の場合、大学の判断により事務的な処理を行い講座の決定をいたしますので、希望講座を受講できない可能性があります。
  - ・乱雑な記入
  - ・記入誤り、記入漏れ
  - ・記入した講座コード、講座名、充当科目コードの不一致

## 2 受講届を提出する

受講届の記入が終わったら、受講届を教務課宛に提出しなければなりません。提出方法は以下の2つがあります。

### ① 教務課窓口に直接提出

記載内容等を確認し、受け付けするため、必ず係員に提出してください。【締切日当日の受付は事務取扱時間までとします。】

### ② 郵送で提出する

受講届に切手貼付の上、郵送してください。【提出締切日までの消印有効】

#### 郵送提出における注意事項

天災や郵便の遅延・未着そのほかの事故については、いかなる配慮も行いません。

「受講届」が教務課に届かなかった場合、受講ができなくなりますので、特定記録郵便・簡易書留・書留を強くお勧めします。

特定記録郵便の場合、大学受領の記録が残らない取扱いとなりますので、「受講許可通知書」が届くまで、郵送した際の受領証を必ず大切に保管ください。紛失の場合、郵便追跡確認ができなくなります。

また、リポート等、他の書類と一緒に送付するとその間にはさまってしまい、事故の原因になります。受講届は単体で送付してください。

## 3 申込講座の変更・追加

いったん受講届を提出した後に、申込講座の変更、追加及び一部辞退が生じた場合には、以下の手続きを行ってください。

### ① 申込講座変更届用紙

申込講座の変更・追加をする場合は、市販の便箋を使用し、次ページの記入例を参考に変更届を作成してください。

※変更・追加のために、複数の「受講届」を使用した場合や他のスクーリングの「受講届」を使用した場合は、正しい申し込みが判別不能となり、申込が「無効」となりますので、決して使用しないでください。

### ② 記入事項

変更・追加する事項の記入を行うほかに、変更前の申込講座の「開講曜日・時限」「講座コード」「講座名」「充当科目コード」を明記してください。また、自身の所属学部・専攻部門・学生番号・氏名も忘れずに記入してください。

### ③ 提出先・提出方法

「受講届」提出と同様です。

### ④ 提出期間

**4月19日（金）（受講届提出締切日）まで**に提出してください。別途の日程はありません。

※受講届提出期間内に到着した場合のみ有効となります。

## 《記入例》

日本大学通信教育部教務課長 殿	平成〇年〇月〇日																																
平成 25 年度昼間スクーリング申込講座変更届																																	
<p>標記のことについて、既に「受講届」にて申し込んだ昼間スクーリングにおける申込講座を下記のとおり変更したく、書面をもってお願ひいたします。</p> <p style="text-align: center;">記</p> <p>(当初の申込講座)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>曜日・時限</th> <th>講座コード</th> <th>講座名</th> <th>充当科目コード</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>火曜 1 時限</td> <td>B2</td> <td>政治学</td> <td>0023</td> </tr> <tr> <td>火曜 2 時限</td> <td>B6</td> <td>文学</td> <td>0017</td> </tr> <tr> <td>火曜 4 時限</td> <td>BK</td> <td>英語 A</td> <td>0041</td> </tr> </tbody> </table> <p>(変更後の申込講座)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>曜日・時限</th> <th>講座コード</th> <th>講座名</th> <th>充当科目コード</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>火曜 1 時限</td> <td>B2</td> <td>政治学</td> <td>0023</td> </tr> <tr> <td>火曜 4 時限</td> <td>BP</td> <td>英語 A</td> <td>0041</td> </tr> <tr> <td>水曜 5 時限</td> <td>CK</td> <td>歴史学 A</td> <td>0015</td> </tr> </tbody> </table> <p>上記のとおり相違ありません。</p> <p style="text-align: right;">文理学部文学専攻（英文学） 学生番号：22133000 氏名：日大 太郎</p>		曜日・時限	講座コード	講座名	充当科目コード	火曜 1 時限	B2	政治学	0023	火曜 2 時限	B6	文学	0017	火曜 4 時限	BK	英語 A	0041	曜日・時限	講座コード	講座名	充当科目コード	火曜 1 時限	B2	政治学	0023	火曜 4 時限	BP	英語 A	0041	水曜 5 時限	CK	歴史学 A	0015
曜日・時限	講座コード	講座名	充当科目コード																														
火曜 1 時限	B2	政治学	0023																														
火曜 2 時限	B6	文学	0017																														
火曜 4 時限	BK	英語 A	0041																														
曜日・時限	講座コード	講座名	充当科目コード																														
火曜 1 時限	B2	政治学	0023																														
火曜 4 時限	BP	英語 A	0041																														
水曜 5 時限	CK	歴史学 A	0015																														

#### 4 受講許可通知書を確認する

提出された「受講届」に基づき大学が受講資格審査を行い、その結果を「スクーリング受講許可通知書兼スクーリング受講料等振込依頼書」により送付します。

なお、「スクーリング受講許可通知書兼スクーリング受講料等振込依頼書」の発送は、5月15日（水）を予定しております。上記予定日から数日経過しても通知が届かない場合は、至急会計課へ連絡してください。

「スクーリング受講許可通知書兼スクーリング受講料等振込依頼書」が届いたら、以下の要領で、大学から許可された内容を確認してください。

##### 充当科目コードの確認

必ず充当科目コード・単位を確認してください。

「充当科目コード」、及び「単位」欄に表記された内容が、申込み内容と同一であることを確認してください。

「英語」や「演習」などのように「I, II, III…」の区別のあるものや、科目の名称がよく類似している科目がありますので十分注意してください。

## スクーリング受講許可通知書 兼 スクーリング受講料等振込依頼書

○○年 ○月 ○日 作成

101-8354

千代田区三崎町 2 - 2 - 3

日大 通子 殿  
(学生番号: 24133999 )

日本大学通信教育部

(A) スクーリング受講通知書 兼 領収書

年 度	2013年度	学生証番号	24133999
スクーリング種別	昼間	氏 名	日大 通子
開 講 期 間	○○/○/○	～	○○/○/○

領 内 訳	受講料 コンピュータ等実習料	66,000円 6,000円 円 円 円
-------------	-------------------	----------------------------------

(切り取らないで銀行窓口に提出してください)

電信報

(B) 2013年度 尽開

### スクーリング受講料等振込依頼書

依頼日		年 月 日		振込指定		電 信 扱		手数料			
銀行名		ミツイスマトモ カンダシテン 三井住友 神田支店		店番	219	金額		6	6	0	0
お受取人	預金種目	普通預金	口座番号	1035505		内訳	現金				
				ニチダイツウシン			当手				
	口座名	日本大学通信教育部		他手							
		取扱期限厳守		納入期限 ○○ 年 ○ 月 ○ 日							
ご依頼人	整理番号	1200010000				取納印または振替印					
	フリガナ	ニチダイ ツウコ									
	氏名	日大 通子									
	住所	101-8354 千代田区三崎町2-2-3									
電話番号	03-5275-8911								(取扱銀行保管)		

(取扱銀行へのお願い)

（扶養扶助）  
1 [ ] の部分は全て打電してください  
2 納入期限の過ぎたものは受付しないでください  
3 金額、納入期限、整理番号、氏名を訂正したものは受付しないでください  
4 三井住友銀行本支店窓口からの振込手数料は無料になります  
(学生へのお giochi)  
1 ATMはご利用いただけません。窓口からお振込ください。

東京都千代田区三崎町 2-2-3

日本大学通信教育部 電話 東京 03-5275-8925 (会計課)

**講座コード・講座名・時間割の確認**

必ず講座コード・講座名・時間割を確認してください。

「講座コード」欄に表記された内容が、申込み内容と同一であることを確認してください。受講申込者数により講座が分割されている場合や受講をお断りしている場合があります。

**5 受講料等の納入**

申込講座の辞退がない場合、受講料を期限までに納入してください。

**① 受講料**：1講座 20,000円 × 受講講座数

ただし、「体育実技Ⅰ」、「体育実技Ⅱ」、「保健体育講義Ⅰ」、「英作文Ⅰ」、「英作文Ⅱ」、「現代教職論」、「教育原論／教育の思想」、「教育の方法・技術論」、「社会科・地理歴史科教育法Ⅰ」、「社会科・公民科教育法Ⅰ」の各講座は10,000円  
「情報概論」のみ26,000円（コンピュータ等実習料を含むため）

**② 納入期限**：5月27日（月）銀行窓口 ※当日取扱時間まで

**③ 納入方法**：必ず、大学から送付される「スクーリング受講許可通知書兼スクーリング受講料等振込依頼書」により銀行窓口から振り込んでください。「(A)スクーリング受講許可通知書兼領収書」と「(B)2013年度昼間スクーリング受講料等振込依頼書」は、切り離さずに銀行窓口へ持参してください。

**注 意 事 項****① 納入に際しての注意事項**

- (1) 銀行（ゆうちょ銀行を除く）窓口のみの取扱いとなります。会計課窓口及び郵送等での納入はできません。
- (2) 自動振込機（ATM）及びネットバンキングからの納入は受け付けできません。  
銀行係員が勧めても使用しないでください。
- (3) 「スクーリング受講許可通知書兼スクーリング受講料等振込依頼書」に記載された事項を訂正したものは受け付けできません。
- (4) 三井住友銀行本・支店窓口からの振込手数料は、無料となります。

**② その他の注意事項**

- (1) 発送予定日から数日経過しても「スクーリング受講許可通知書兼スクーリング受講料等振込依頼書」が届かない場合は、至急会計課に連絡してください。また、期日までに納入できない事情が発生した場合は、至急、教務課に連絡してください。
- (2) 「(A)スクーリング受講許可通知書兼領収書（銀行出納印の押印されているもの）」は、受講時、試験時、通学証明書等の申請・発行を受ける際、学生証とともに必要になります。受講期間中は常に携帯してください。
- (3) 一度受講料等を納入したのちに受講申込辞退の意思表示があったとしても、受講料等の返還は行いません。

## 6 使用教材の購入

スクーリングは集中講義形式の授業ですので予習なしでの受講は学習効果が期待できません。受講許可通知書を受け取った後、本誌のシラバス（教科書、参考書）で使用教材が、『通信教育教材』か『市販教材（市販本）』かを確認の上、以下の要領で教材を購入してください（教科書等の価格・送料はシラバスに記載されています）。

教材購入方法の見分け方は、後掲の「③教材購入方法の見分け方」を参照してください。

### 注意事項

「指定配本」、「履修届」及び「追加科目履修届」による配本を受け、所持している『通信教育教材』であっても、教材改訂によりシラバスに記載されている「教科書」や「参考書」と異なる場合がありますので、科目名のみによらず、シラバスに掲載されている「教材コード」と所持する『通信教育教材』の教材コードとを照合し、不一致の場合は、教材を購入してください。

なお、教材購入後の変更・取消及び費用の返還はできませんので注意してください。

#### ① 使用教材が『通信教育教材』の場合

**通材**印が付されている教材は、本誌「各種用紙」の「教材購入願」を使用し購入してください。既に今回の使用教材を入手している場合は、改めて「教材購入願」によって購入する必要はありません。教材の送付先は、すべて大学に登録されている各自の住所への発送となります。教材が手元に届くまでは手続完了後、約1週間を要しますので、「受講許可通知書」を確認した後、速やかに手続きを行ってください。

なお、『通信教育教材』について不明な点は、研究事務課（電話03-5275-8890）に問い合わせください。

#### ② 使用教材が『市販教材（市販本）』の場合

『市販教材（市販本）』は、一般書店で購入してください。住居地周辺の書店で購入できない場合、**丸沼**印のついている本については、丸沼書店で購入できます。

（書店名）（株）丸沼書店

（所在地）〒101-0061 東京都千代田区三崎町2-8-12

（電話）03-3261-4540

（FAX）03-3261-0118

（営業時間）9:00～20:00（日曜日は休み）

（購入方法）直接店頭（151ページを参照）で購入のほか以下（1）～（3）の方法で通信販売も可能です。

（1）代金引換払（手数料250円が別途かかります）

本誌「各種用紙」の「教材購入用紙（丸沼書店用）」に必要事項を記入の上、上記あてに郵送又はFAXをしてください。

（2）郵便為替（前納）

本誌「各種用紙」の「教材購入用紙（丸沼書店用）」と税込価格+送料の合計金額分の定額小為替又は郵便為替を同封して上記あてに郵送してください。

（3）現金書留（前納）

本誌「各種用紙」の「教材購入用紙（丸沼書店用）」と税込価格+送料の合計金額を同封して上記あてに郵送してください。

不明な点は、丸沼書店に直接問い合わせてください。

『市販教材（市販本）』の価格・送料は『手引』作成時の金額です。改訂等により金額が変わることがあります。あらかじめご了承ください。

### ③ 教材購入方法の見分け方

※事前資料送付・当日資料配布については、教務課（電話 03-5275-8911）にお問い合わせください。

#### ④ スクーリング受講に伴う六法の携行及び指定の六法

法律系の科目をスクーリング受講する場合、特にシラバスに記載がなくとも『六法』は必携となりますので、各自用意の上、授業に臨んでください。

##### 通信教育部指定の六法について

スクーリング試験時に参考が許可される『六法』は、次の9種類に限ります。ただし、担当講師から別途指示がある場合は、この限りではありません。

##### 《試験時に参考が許可される六法》

岩波書店『コンパクト六法』、『セレクト六法』、『基本六法』  
有斐閣『六法全書』、『ポケット六法』  
第一法規『司法試験用六法』、『旧司法試験用六法』、『新司法試験用六法』  
三省堂『デイリー六法』

注意事項：(1) 上記指定の『六法』に、書き込み等がある物は、参考物として認められません。したがって、『六法』は学習時に使用するものと試験時に使用するものとで別に用意してください。  
(2) 判例・解説つきのもの（『六法』付録の小冊子等を含む）は参考物としては認められません。

# MEMO

時間割

開講講座表

受講講座の選定

受講手続

受講及び試験

シラババスと  
使用教材

通学定期券の  
購入手続

軽井沢オリエン  
テーション

胸部X線検査

カリキュラム

各種用紙

## 1 講座受講時の注意点

### ① 掲示板で最新情報の確認

昼間スクーリングで登校の際は、通信教育部 1 号館 1 階学生ホールにある「昼間スクーリング 掲示版」で最新情報を確認してから講義に出席してください。

#### 【掲示内容】

- ・4月 「時間割・講堂表」
- ・5月 「時間割・講堂表」（講堂変更後）
- ・7月 「前期試験講座一覧」・「保健体育講義・体育実技の実施について」
- ・12月 「昼間スクーリング試験講座一覧」  
※試験の方法（筆記試験・レポート・平常点）、試験時間割と講堂等についてお知らせします。

また、「講堂変更」・「休講」等、日々の授業に関する情報についても隨時、掲示板でお知らせします。

### ② 受講上の注意（出席・欠席・遅刻等）

#### 【出席について】

スクーリングは、毎回出席することを原則としています。  
交通機関の遅れや特別な事情がある場合以外での遅刻はしないよう心掛けてください。

※授業を途中から受講することは、周りの受講者に対しても迷惑ですし、担当の先生に失礼です。時間に余裕を持って行動してください。

#### 【欠席について】

スクーリングを欠席した場合は、次回の出席時に直接、担当教員へ欠席した旨を伝えてください。

※事務局及び講師室では、欠席の連絡は受け付けられません。

### ③ 受講上の注意（休講・補講）

#### 【休講について】

スクーリング期間中、担当教員の都合により授業を休講する場合があります。

- ① 事前に情報を得ている場合は、昼間スクーリング掲示板に掲示します。
- ② 当日、急きょ、担当教員の体調不良等の理由により休講する場合は、授業講堂において出席を取り、次回担当教員に出席していたことを伝えます。  
(この場合は、掲示板には休講掲示を出しません。)

#### 【補講について】

スクーリング期間中に休講した場合、その授業は必ず補講を実施します。補講は、下記の①もしくは②の日程で実施します。

- ① 補講日程に実施  
前期：7月 20 日（土）、22 日（月）  
後期：1月 18 日（土）、20 日（月）
- ② 学事日程上、空いている月曜日・土曜日に実施

#### ④ 受講上の注意 (天災等の休講)

##### 【天災等の休講について】

スクーリング期間中、台風などの天災により授業を行うことが困難である場合、または困難になると予想される場合は、通信教育部の判断として授業を休講する場合があります。

※その場合は、掲示板及び通信教育部ホームページに情報を掲載しお知らせします。

※上記、いずれの場合においても、後日、補講を実施します。詳細は、掲示板にて補講掲示を出します。

## 2 試験受験時の注意点

試験は平成26年1月の試験期間に実施されます。試験の詳細は「掲示」、または授業中に告知します。試験方法、試験日程は以下のとおりです。

#### 受験にあたって

※「追試験」及び「再試験」の実施はありません

30週目の授業後、試験期間に入ります。試験は指定の試験期間内で実施され、「追試験」及び「再試験」の実施はありません。

したがって、体調不良や仕事等の理由により受験できないことがないよう、各自で体調及びスケジュール管理を徹底し、調整を図った上で、受講してください。

#### ① 試験方法

##### 【試験方法の種類】

###### ① 筆記試験

試験期間に筆記試験を行う。

###### ② レポート試験（授業内提出）

授業期間中にレポートを作成し、担当教員へ提出する。

###### ③ レポート試験（事後レポート提出）

授業終了後、指定された締切日までにレポートを作成し、教務課へ所定の表紙を付けて提出する。

###### ④ 平常点

試験を行わず、授業内での小テスト・発表などによって評価される。各シラバスの成績評価基準を参照すること。

#### ② 試験日程

※前期終了科目を除く

##### 平成26年1月21日（火）～24日（金）

対象科目：4月～平成26年1月まで授業を行い、筆記試験で評価を行う科目。

9月～平成26年1月まで授業を行い、筆記試験で評価を行う後期開講科目。

##### 試験時間割（通常授業時間と異なります）

1時限目 9:30～10:30

2時限目 11:00～12:00

3時限目 13:00～14:00

4時限目 14:40～15:40

5時限目 16:20～17:20

※特に先生から指示のない場合はこの時間割で行います。

詳細は、12月中旬に掲示板にて連絡します。

③ 試験日程  
前期終了科目

前期終了科目の筆記試験日程のみ  
第15週目の授業時に試験を行います。  
平成25年7月23日(火)～26日(金)  
試験時間割(原則として上記②と同じ時間帯で行います)  
※15週目の授業時間内に試験を行うため、15週目の授業は、直前に設定されている補講日、または担当教員の指定した補講日時に実施します。  
詳細は、7月に掲示板にて連絡します。

「スクーリング試験」受験上の注意

- 1 「学生証」及び「スクーリング受講許可通知書兼領収書」(取扱銀行領収印のあるもの)を机上通路側の監督者が見やすいところに置くこと。受講手続及び受講料納入がない場合、受験できない。
- 2 「学生証」を忘れた場合又は未更新の場合は、事前に教務課(講師室)に申し出て指示を受けること。
- 3 携帯電話等は、電源を切り、鞄等に収納し身体から離しておくこと。時計・電卓としての使用も禁止する。
- 4 持ち込みを許可されたもの以外は机上に置かないこと。
- 5 解答用紙は、1人1枚とし、再交付はしない。
- 6 解答用紙の下段、太線枠内※印の事項については、必ずペン又はボールペンで記入すること。当該事項について記載がない場合又は誤記等は採点の対象にならない場合がある。
- 7 試験開始後20分以上遅刻した者は受験することができない。
- 8 途中退場は、試験監督者の指示がある場合に限り、試験開始30分後から認める。解答用紙を試験監督者に提出して退場すること。なお、用紙の持ち帰りは一切認めない。
- 9 試験場では、試験監督者の指示に従うこと。
- 10 不正行為(不正とみなされる行為含む)は絶対行わないこと。不正行為を行った場合は、学則により処分(停学・退学等)される。

※ 試験中の参考物等の貸し借りは不正行為とみなす。

### 3 スクーリング結果の確認

スクーリングの結果は、教務課から平成25年度授業料及びスクーリング受講料を納入した学生に郵送で通知します。昼間スクーリングでは他のスクーリングとは異なり「在学生専用サポート（Web報）」での結果発表（スクーリングの結果確認）を行っていません。

電話・郵便による問合せには一切応じることができません。また、「スクーリング結果通知書」の再発行はいたしません。天災による郵便の遅延・未着や、その他の事故に対していくなる配慮も行えませんので、「スクーリング結果通知書」を紛失した場合などは「Web報」の単位修得状況確認で確認、又は「単位照合票」等の交付を受け、確認してください。

結果発表時期	平成26年2月中旬
--------	-----------

#### ① 結果の表示

結果は、「合格」、「不合格」、「未受講」で発表します。

受講許可のない講座を受験した場合には「無効」とし、単位は修得できません。

#### ② 単位数

結果が「合格」の場合、その科目の所定単位を修得したことになり、また同時にスクーリング単位も修得したことになります。シラバスに表示されている単位数が、それぞれの科目（講座）のスクーリング単位です。

## ◆ Philosophieren への誘い

〔哲学 A〕

水曜日 4 時限

開講単位 4 単位 担当者：三箇 文夫

◆**学習目標** 哲学は、「哲学とは何か」を知る事にある。この「何か」と問う事が哲学の根源である。この「問い合わせ」が問い合わせとして迫ってくる原体験の諸相の理解を容易にするため時代区分に沿って捉える。本年は、ギリシャ時代の自然・人間・環境の三概念を中心展開したい。ただ哲学は、この「問い合わせ」を通して哲学・思想史的知識を持つことを求めるのではなく、自ら Philosophieren する態度を養う事を目標としたい。

◆**授業方法** 上記の目標達成の為には、dialogos による方法、所謂「ソクラティック・メソッド」が教育の理想の一つの姿と考えている。この方法を実践する事により自ら思考する事が楽しいと体験してほしい。

◆**準備学習** 特に準備する必要はなし。

## ◆授業計画〔各 90 分〕

1回目 ガイダンス	11回目 Pythagoras 学派の哲学	21回目 Sophist の哲学
2回目 哲学とは如何なる学問か	12回目 同上	22回目 同上
3回目 同上	13回目 Orphikoi の魂の不滅説	23回目 Sokrates の時代
4回目 学問の誕生と展開	14回目 同上	24回目 同上
5回目 Kaos から Kosmos へ	15回目 古代ギリシアの存在論	25回目 Platon の哲学
6回目 Miletos に何故学問が誕生したか	16回目 同上	26回目 同上
7回目 Ionia 自然哲学者	17回目 同上	27回目 同上
8回目 同上	18回目 多元論者の哲学	28回目 Aristoteres の哲学
9回目 同上	19回目 同上	29回目 同上
10回目 Samos 島の哲学者	20回目 同上	30回目 哲学の世界的展開

※別途、試験を実施する週（平成 26 年 1 月 21 日～24 日）を設けています。

◆**教科書** なし。

◆**参考書** 授業時に適宜紹介していく。

◆**成績評価基準** レポート提出、定期試験等を総合的に評価する。

◆**E-Mail :**

## ◆現代を生きる哲学力をつけよう

〔哲学 B〕

金曜日 3 時限

開講単位 4 単位 担当者：江川 晃

◆**学習目標** 現在、情報科学、生命科学、そして脳科学が目覚ましく発展し、その様子がマスコミ等で紹介されています。私たちの生活は、現実に、科学技術に支えられています。そこで、私たちがこのような現代を自律的に生きていくには、これらの科学技術から生じる問題に振り回されずに、深く考えていく力、哲学力（英知）を鍛える必要があります。

◆**授業方法** 講義形式で、教科書と配布プリントを中心に、パワーポイントや板書にて行う。ビジュアル教材（画像・DVD）も取り入れる。毎回、授業終りに簡単な感想、質問、意見等を書いていただき、次回はそれに対してコメントし、時にみなさんで、対話・討論もしてみましょう。

◆**準備学習** 教科書等に書いてあることを覚えるのではなく、なぜそうなのかを考えていく習慣を意識しよう。

## ◆授業計画〔各 90 分〕

1回目 ガイダンス・	11回目 デカルトの自我	21回目 心の哲学・心脳同一説
2回目 哲学とは（語源・歴史）	12回目 ベーコンの経験論	22回目 "I, ROBOT" と哲学
3回目 ギリシャのミレトス学派	13回目 カントの理性批判	23回目 情報記号論
4回目 原子論	14回目 ヘーゲルの弁証法	24回目 ヴァーチャルとは
5回目 ソクラテスの対話	15回目 レポート作成	25回目 "MATRIX" の哲学
6回目 ソクラテスの死の意味	16回目 キルケゴーの実存主義	26回目 脳科学と自由意志
7回目 プラトンのイデア	17回目 パースの探究の理論	27回目 ヒト・クローン
8回目 アリストテレスの存在論	18回目 ウィトゲンシュタインの哲学	28回目 ES 細胞と iPS 細胞
9回目 中世哲学（信仰と理性）	19回目 論理実証主義	29回目 科学は何をもたらすか
10回目 科学革命	20回目 言語行為論	30回目 まとめ

※別途、試験を実施する週（平成 26 年 1 月 21 日～24 日）を設けています。

◆**教科書** 通材『哲学 0011』 通信教育教材（教材コード 000404） 3,250 円（送料込）

〈この教材は市販の『西洋思想の要諦周覧』嘉吉純夫・齋藤隆編著（北樹出版）と同一です〉

〔当日資料配布〕プリント配布。

◆**参考書** 丸沼『生命倫理について考える』 江川晃・嘉吉純夫・葭田光三著 文眞堂 1,732 円（税込）（送料 340 円）

◆**成績評価基準** レポート（30%）と平常点（20%）と試験（50%）

\* 平常点とは、感想・質問ペーパー等によります。

◆**E-Mail :**

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」及び「氏名」を記入。例：「日本大学通信教育部 24131999 日大通子」

# ◆とある日本の歴史学

# 〔歴史学 A〕

水曜日 5 時限

開講単位 4 単位 担当者：渡邊 浩史

◆**学習目標** 現在アメリカにおける日本研究はアニメ研究以外は成り立たない程であるという。また大友克洋のアニメ『AKIRA』の1シーンがサラエボの壁に反体制勢力のアイコンとして描かれていたという。もはやアニメは日本最大の文化的輸出品であるとまで言われるようになった。宮崎駿監督作品を中心として、日本国内でも多くの研究書が刊行された。またディズニー作品の『ライオン・キング』は手塚治虫の『ジャングル大帝』の模倣であると言われるなど、グローバル文化に組み込まれる萌芽も見えている。浮世絵がモネなど印象派を中心にして西洋絵画に影響を与えたように、その一方日本の歴史的背景が多く組み込まれている。ただその日本の歴史背景とは、多くの海外文化を吸収し習合させたという意味である。この点こそが日本のマンガ・アニメが無国籍な空間を持ち、多くの国で違和感なく受け入れられた理由であろう。決して「アニメ顔」などの絵画表現や「萌え」の要素のみではないはずである。

こうしてみると、日本の歴史がどのようにマンガ・アニメに反映されているのかを考えるのも、歴史学の重要なアプローチ方法ではないか。そこでいくつかのマンガ・アニメ作品を通して、日本の歴史を考えてみたい。

◆**授業方法** 講義形式で行う。適宜 DVDなどを利用する。なおシラババはあくまで予定であり、最新の研究成果を反映させるなどの場合は変更する可能性もある。

◆**準備学習** 授業計画に挙げたマンガ・アニメ作品については、ある程度事前に見たり読んでいることが望ましい。

## ◆授業計画〔各 90 分〕

1回目 はじめに 日本の伝統文化系譜上に位置するマンガ・アニメ	11回目 藤田和日郎のマンガ・アニメ『うし おととら』から見る日本歴史 狐・玉藻前・陰陽師・橋姫	21回目 武井宏之のマンガ『シャーマンキン グ』から見る日本歴史 シャーマン・安倍晴明・擬制的な死
2回目 マンガ表現に見られる1960年代を中心とする歴史認識 手塚治虫『どろろ』を中心に	12回目 藤田和日郎のマンガ・アニメ『うし おととら』から見る日本歴史 狐・玉藻前・陰陽師・橋姫	22回目 武井宏之のマンガ『シャーマンキン グ』から見る日本歴史 シャーマン・安倍晴明・擬制的な死
3回目 マンガ表現に見られる1960年代を中心とする歴史認識 手塚治虫『どろろ』を中心に	13回目 藤田和日郎のマンガ・アニメ『うし おととら』から見る日本歴史 狐・玉藻前・陰陽師・橋姫	23回目 田辺イエロウのマンガ・アニメ『結 界師』から見る日本歴史 結界
4回目 マンガ表現に見られる1990年代以降の歴史認識 近藤ようこ『水鏡奇譚』・『妖靈星』を中心に	14回目 中間試験	24回目 田辺イエロウのマンガ・アニメ『結 界師』から見る日本歴史 結界
5回目 マンガ表現に見られる1990年代以降の歴史認識 近藤ようこ『水鏡奇譚』・『妖靈星』を中心に	15回目 前半のまとめ 歴史学的視点から見たマンガ・アニメ	25回目 田辺イエロウのマンガ・アニメ『結 界師』から見る日本歴史 結界
6回目 諸星大二郎・星野之宣のマンガから見る日本歴史 『暗黒神話』・妖怪ハンターシリーズ・宗像教授シリーズを中心に	16回目 武梨えりのマンガ・アニメ『かんなぎ』 から見る日本歴史 ナギ(櫻)の巨木・熊野信仰と伊勢 信仰の拡がり・ケガレ	26回目 押井守のアニメ『攻殻機動隊』から 見る日本歴史 仮想現実としての夢・電腦空間と脱魂
7回目 諸星大二郎・星野之宣のマンガから見る日本歴史 『暗黒神話』・妖怪ハンターシリーズ・宗像教授シリーズを中心に	17回目 武梨えりのマンガ・アニメ『かんなぎ』 から見る日本歴史 ナギ(櫻)の巨木・熊野信仰と伊勢 信仰の拡がり・ケガレ	27回目 押井守のアニメ『攻殻機動隊』から 見る日本歴史 仮想現実としての夢・電腦空間と脱魂
8回目 諸星大二郎・星野之宣のマンガから見る日本歴史 『暗黒神話』・妖怪ハンターシリーズ・宗像教授シリーズを中心に	18回目 武梨えりのマンガ・アニメ『かんなぎ』 から見る日本歴史 ナギ(櫻)の巨木・熊野信仰と伊勢 信仰の拡がり・ケガレ	28回目 押井守のアニメ『攻殻機動隊』から 見る日本歴史 仮想現実としての夢・電腦空間と脱魂
9回目 諸星大二郎・星野之宣のマンガから見る日本歴史 『暗黒神話』・妖怪ハンターシリーズ・宗像教授シリーズを中心に	19回目 武梨えりのマンガ・アニメ『かんなぎ』 から見る日本歴史 ナギ(櫻)の巨木・熊野信仰と伊勢 信仰の拡がり・ケガレ	29回目 押井守のアニメ『攻殻機動隊』から 見る日本歴史 仮想現実としての夢・電腦空間と脱魂
10回目 藤田和日郎のマンガ・アニメ『うし おととら』から見る日本歴史 狐・玉藻前・陰陽師・橋姫	20回目 武井宏之のマンガ『シャーマンキン グ』から見る日本歴史 シャーマン・安倍晴明・擬制的な死	30回目 おわりに マンガ・アニメから見る日本歴史とは

※別途、試験を実施する週（平成26年1月21日～24日）を設けています。

◆**教科書** **〔当日資料配布〕** 適宜授業中に資料プリントを配布する。

◆**参考書** 授業中に指示する。

◆**成績評価基準** 平常点 20%, 試験 80%

◆ **E-Mail :**

## ◆歴史とは何か

〔歴史学 B〕

木曜日 4 時限

開講単位 4 単位 担当者：片倉 芳和

◆**学習目標** イギリスの国際政治学者、現代史研究家 E.H. カーは『歴史とは何か』の著書の中で「歴史とは歴史家と事実との間の相互作用の不断の過程であり、現在と過去との間の尽きることを知らぬ対話なのであります」と述べています。東洋史の宮崎市定は「歴史学は事実の論理の学問だ」といっています。講義の後半で中国史、中国近現代史研究について検討する。

◆**授業方法** 講義形式であるが、パワーポイントも使用する。出来るだけ視覚資料などにより関心を持って貰うように講義をすすめる。授業計画は以下のようであるが、欄内に書き込むことが出来なかった日本の歴史家、東洋史の内藤湖南、トルコ史の護雅夫、東洋史の宮崎市定、西洋史の木村尚三郎、阿部謹也、樺山紘一、イスラム史の山内昌之、国際関係史の入江昭などの研究に言及したい。中国史の検討では中国の歴史教科書についてみていき、歴史認識のことなども検討していきたい。

◆**準備学習** 参考書にある E.H. カー『歴史とは何か』、及びフリードリッヒ・マイネッケ、マックス・ウェーバー、カール・ポパー、ジグムント・フロイト、アーノルド・トインビー等講義で言及するので関係の文献や授業方法で挙げている日本の研究者についても講義の前に関心を持ち自分なりに調べてみることを希望する。

◆**授業計画** [各 90 分]

1回目 ガイダンス	11回目 歴史観の歴史	21回目 中国史における中世
2回目 歴史とは何、E.H. カー	12回目 自由と必然、英雄と社会関係	22回目 中国史における近世
3回目 社会と個人	13回目 事件史と必然	23回目 中国史における最近世
4回目 歴史と科学と道徳	14回目 事件史と構造史	24回目 中国近代史をどうみるか
5回目 歴史における因果関係	15回目 これまでのまとめ	25回目 中国近現代史研究の経過（1）
6回目 進歩としての歴史	16回目 中国史における歴史とは（1）	26回目 中国近現代史研究の経過（2）
7回目 広がる地平線	17回目 中国史における歴史とは（2）	27回目 21世紀中国近現代史研究（1）
8回目 歴史の事実	18回目 中国史における時代区分論（1）	28回目 21世紀中国近現代史研究（2）
9回目 歴史観（1）トインビー	19回目 中国史における時代区分論（2）	29回目 21世紀中国近現代史研究（3）
10回目 歴史観（2）	20回目 中国史における古代	30回目 まとめ

※別途、試験を実施する週（平成 26 年 1 月 21 日～24 日）を設けています。

◆**教科書** [当日資料配布] 授業時間にレジュメを配布します。

◆**参考書** 通材『西洋史入門 0097』 通信教育教材（教材コード 0000047） 1,300 円（送料込）  
〈この教材は市販の『歴史とは何か』 E.H. カー著（岩波書店）と同一です〉 その他講義の中で述べていきます。

◆**成績評価基準** 2回の試験の成績による。

◆ E-Mail :

## ◆文学作品の表現性を考える

〔文学〕

火曜日 2 時限

開講単位 4 単位 担当者：野口 恵子

◆**学習目標** 約 1300 年以上も前に成立した『萬葉集』は、現存する日本最古の歌集である。21 世紀の我々からすると異文化の世界であり、これらの歌々には現代の日常言語には存在しない表現性が見いだされる。そこで、歌の表現を通して、古代的な感じ方・考え方について学ぶ。加えて、何か新しいもの、例えばこれまでとは違った考え方・解釈・作者の心情、もしくはその根底にある何か新たな発見をすることを目標とする。

◆**授業方法** 教科書と授業中に配布するプリントを使用する。また、板書を中心に授業を行うため、ノートを各自持参すること。当然、板書以外の講義内容も必要に応じてメモをとること。

◆**準備学習** 文学のみならず、歴史学・考古学・宗教学などの他文化にも触れながら授業を行うため、日頃から様々なものに興味をもっていてほしい。

◆**授業計画** [各 90 分]

1回目 授業計画	11回目 死別の歌①	21回目 大伴坂上郎女の歌①
2回目 日本と天皇について	12回目 死別の歌②	22回目 大伴坂上郎女の歌②
3回目 『萬葉集』の概略	13回目 恋の歌①	23回目 大伴坂上郎女の歌③
4回目 『萬葉集』の読み方①	14回目 恋の歌②	24回目 笠女郎の歌
5回目 『萬葉集』の読み方②	15回目 恋の歌③	25回目 紀女郎の歌
6回目 四季の歌①	16回目 防人の歌①	26回目 大伴家持の歌①
7回目 四季の歌②	17回目 防人の歌②	27回目 大伴家持の歌②
8回目 旅の歌①	18回目 頼田王の歌①	28回目 渡来人の歌①
9回目 旅の歌②	19回目 頼田王の歌②	29回目 渡来人の歌②
10回目 遊びの歌	20回目 頼田王の歌③	30回目 渡来人の歌③

※別途、試験を実施する週（平成 26 年 1 月 21 日～24 日）を設けています。

◆**教科書** 丸沼『訳文 万葉集』 森淳司編 笠間書院 1,890 円（税込）（送料 390 円）

◆**参考書** 授業内で紹介する。

◆**成績評価基準** レポート試験（80%）、平常点（20%）。毎回出席する事を前提とします。遅刻は認めません。

◆ E-Mail :

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」及び「氏名」を記入。例：「日本大学通信教育部 24131999 日大通子」

## ◆私たちと法の関わりを知りましょう

## 〔法学 A〕

火曜日 1 時限

開講単位 4 単位 担当者：高須 則行

◆**学習目標** 現代社会における紛争解決で重要視されている法的思考の道具立てを理解し、それが現実の社会の中でどのように機能しているかを理解してもらうことを目的とする。

◆**授業方法** 講義形式で行いますが、その都度、受講生の皆さんに質問し、自らの考えを述べてもらいたいと思っています。そのような双方向の授業を心掛けたいと思います。

◆**準備学習** 新聞等で社会的な問題を意識しておいてください。

### ◆授業計画〔各 90 分〕

1回目 法学へのいざない	11回目 犯罪と法（Ⅲ）責任性：責任主義	21回目 法の解釈（Ⅲ）解釈の技法（2）
2回目 日常生活と法	12回目 犯罪と法（Ⅳ）判決を読む（1）	22回目 法の解釈（Ⅳ）解釈の技法（3）
3回目 日本における近代法制の輸入	13回目 犯罪と法（Ⅴ）判決を読む（2）	23回目 国家の組織と作用に関する法（1）
4回目 法と裁判（I）裁判の種類	14回目 法と裁判（Ⅲ）裁判員制度	24回目 国家の組織と作用に関する法（2）
5回目 法と裁判（II）裁判所の種類	15回目 法の構造（I）法の世界の整理	25回目 市民生活に関する法（1）
6回目 法の種類（I）成文法	16回目 法の種類（IV）不文法	26回目 市民生活に関する法（2）
7回目 法の種類（II）成文法	17回目 法の種類（V）不文法	27回目 現代資本主義社会の法
8回目 法の種類（III）成文法	18回目 法の種類（VI）不文法	28回目 法の構造（2）
9回目 犯罪と法（I）行為性・構成要件該当性：罪刑法定主義	19回目 法の解釈（I）解釈の意義	29回目 法の目的（1）
10回目 犯罪と法（II）違法性	20回目 法の解釈（II）解釈の技法（1）	30回目 法の目的（2）

※別途、試験を実施する週（平成 26 年 1 月 21 日～24 日）を設けています。

◆**教科書** **〔当日資料配布〕** 授業中にプリントを配布します。

◆**参考書** その都度、授業中に指示します。

◆**成績評価基準** 前期と後期に試験を実施し、前期（50%）・後期（50%）の得点によって評価します。

◆**E-Mail :**

## ◆法の理想と現実

## 〔法学 B〕

金曜日 2 時限

開講単位 4 単位 担当者：遠藤 清臣

◆**学習目標** 「法」は人間社会に存在する必然的な現象であり、その理解なくして社会生活を送ることはできない。「法」の理想と、現実の違いを理解し、その適切な解釈、運用の能力を養うことを目的とする。

◆**授業方法** 前期は法の一般理論を講義し、法についての基本を理解してもらう。後期は憲法その他の具体的規定を題材に、法の解釈の訓練をする。

◆**準備学習** 特に必要としない。ノートやメモは最小限にし、講義を聴くことに集中してもらいたい。

### ◆授業計画〔各 90 分〕

1回目 基礎 1 法と社会	11回目 実現 1 法の効力の範囲	21回目 応用 3 基本人権の構造
2回目 基礎 2 法の目的である正義	12回目 実現 2 法を実現する者	22回目 応用 4 外国人と基本的人権
3回目 基礎 3 日本の法の歴史	13回目 実現 3 事実の認定	23回目 応用 5 社会権の解釈
4回目 基礎 4 権利と義務	14回目 実現 4 法の解釈	24回目 応用 6 二院制と議院内閣制
5回目 基礎 5 権利の社会的制限	15回目 前期試験	25回目 応用 10 犯罪と反社会的行為
6回目 基礎 6 権利の主体と客体	16回目 実現 5 目的論的解釈	26回目 応用 11 刑罰は有効か
7回目 制定 1 法を定める者	17回目 実現 6 裁判制度	27回目 応用 12 死刑存廃論
8回目 制定 2 国家の法（成文法）	18回目 実現 7 解釈の実践	28回目 応用 7 民法における意思の遵重
9回目 制定 3 国家の法（不文法）	19回目 応用 1 憲法を定める者	29回目 応用 8 婚姻と親子の理論
10回目 制定 4 国際社会の法	20回目 応用 2 憲法と天皇制	30回目 応用 9 相続の理論

※別途、試験を実施する週（平成 26 年 1 月 21 日～24 日）を設けています。

◆**教科書** **〔当日資料配布〕** プリントを配布する。

◆**参考書** **〔通材〕『法学 0021』** 通信教育教材（教材コード 000394）1,700 円（送料込）

**〔内沼〕『現代法学入門』** 三浦隆、石川信編著 北樹出版 3,045 円（税込）（送料 390 円）

『ポケット六法』、またはその他の軽易な六法

（上記はいずれも必要に応じて用意すればよく、講義初日に持参する必要はない。）

◆**成績評価基準** 前期および期末試験の成績に、授業中の質疑の内容を加味して総合的に評価する。

◆**E-Mail :**

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」及び「氏名」を記入。例：「日本大学通信教育部 24131999 日大通子」

## ◆「正義」と「絆」について考える

〔社会学〕

金曜日 4 時限

開講単位 4 単位 担当者：服部 慶亘

◆**学習目標** 人間は独りで生きてゆけない弱い動物であり、社会を形成・維持しなくてはならない。そのために我々は正しく善く生きてゆくことを求められるが、社会生活において正しさ（正義）は時として簡単に逆転する。こうした現実をふまえ、前期は全人類共通の現象を中心に解説し、後期は日本社会の特徴に焦点をあて、我々がいかなる状況に置かれているのかを社会学的にとらえてゆくのが本講義の目的である。

◆**授業方法** 教科書・プリント・板書（パワーポイント）などを用い、受講生自身も陥りがちな問題点を指摘・解説する。必要に応じて視聴覚資料（CD, DVD 漫画、その他）を多用する。また、学生に質問を投げかけ、対話とシミュレーションを展開しながら講義を進めていく。よって、講義を単に「聴く」のではなく、講義に「参加」する意欲が好成績につながるものと思われる。

◆**準備学習** 特別な予習は必要としないが、講義で紹介された事例・法則・理論・概念などを自分自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）した上で、次の講義にのぞんでほしいと思う。社会学を単なる「机上の学問」としてではなく、日常の（あるいは自分自身の）あらゆる場面と密接に関連した学問としてとらえてほしい。

### ◆授業計画〔各 90 分〕

1回目 講義目標・目的の確認	11回目 社会的動物としての人間⑤	21回目 視聴覚教材による確認
2回目 状況（情況）判断①	12回目 Human Being ①	22回目 日本（人）的「和合」①
3回目 状況（情況）判断②	13回目 Human Being ②	23回目 日本（人）的「和合」②
4回目 「正義」の含意①	14回目 Human Being ③	24回目 視聴覚教材による確認
5回目 「正義」の含意②	15回目 Human Being ④	25回目 日本（人）的「共感性」①
6回目 「正義」の含意③	16回目 「絆」の含意①	26回目 日本（人）的「共感性」②
7回目 社会的動物としての人間①	17回目 「絆」の含意②	27回目 視聴覚教材による確認
8回目 社会的動物としての人間②	18回目 「絆」の含意③	28回目 前半総括
9回目 社会的動物としての人間③	19回目 日本（人）的「愛」①	29回目 後半総括
10回目 社会的動物としての人間④	20回目 日本（人）的「愛」②	30回目 全体総括

※別途、試験を実施する週（平成 26 年 1 月 21 日～24 日）を設けています。

◆**教科書** 丸沼『人間生活の理論と構造』夏刈康男他 学文社 2,625 円（税込）（送料 390 円）

◆**参考書** 丸沼『補強版ストレス・スパイラル』服部慶亘 人間の科学社 1,260 円（税込）（送料 340 円）

◆**成績評価基準** 終講試験（70%）、受講態度（20%）、レポート類（10%）で評価する（公欠などは申し出ること）。

◆ E-Mail :

## ◆政治を基礎から学びましょう

〔政治学〕

火曜日 1 時限

開講単位 4 単位 担当者：関根 二三夫

◆**学習目標** 基礎教育としての講義を行います。議会及び大統領もしくは内閣の動きを見ますと、政治が難しいことのようを感じられます。しかし、そこで制定され執行される法律や予算は、国家や社会や個人の発展のために寄与するものです。この講義においては、政治がわれわれの生活に大きな影響を及ぼすと同時に、身近な現象で学びます。

◆**授業方法** 講義形式で行います。講義においては、受講生の政治に関する問題意識を高め、それに対する解決能力を啓発するように進めて行きます。講義で知り得た内容が、如何なる意義を有するのか、それが個人や社会や国家にとってどのように関係してくるのかを客観的に理解しなければなりません。受講に際しては、予習や復習が必要になります。

◆**準備学習** 政治学は、社会科学のカテゴリーに入り、人間社会を対象にする学問です。社会を構成する人々はそれぞれに考え方方が異なりますので、同じ原因が示されても異なる結果が出るのが通例です。政治学の学問としての課題もそこがあり、現実の社会を理解し、社会における問題を解決して、るべき社会を築く必要があります。学習の準備として、メディアの記事などに関心を持ち、問題点を把握することが必要になります。

### ◆授業計画〔各 90 分〕

1回目 講義全体の概要説明	11回目 議会の構成	21回目 政党（問題点）
2回目 政治学の変遷	12回目 議院内閣制	22回目 圧力団体（概念・特徴）
3回目 政治の概念	13回目 大統領制	23回目 圧力団体（活動・問題点）
4回目 政治の本質	14回目 大統領拒否権	24回目 わが国の圧力団体
5回目 政治権力（概念・構造）	15回目 議会拒否権	25回目 コミュニケーション（機能・類型）
6回目 政治権力（支配の手段）	16回目 選挙制度の原則、選挙権	26回目 コミュニケーション（方向性）
7回目 国家（成立の要素）	17回目 選挙区の画定、選挙区制	27回目 リーダーシップ
8回目 国家（分類）	18回目 代表選出の形態	28回目 地方自治の沿革
9回目 国家機関	19回目 政党（概念・特徴・発展過程）	29回目 政治と行政
10回目 議会政治の原理	20回目 政党（形態・機能）	30回目 講義内容の総括

※別途、試験を実施する週（平成 26 年 1 月 21 日～24 日）を設けています。

◆**教科書** 通材『政治学 0023』 通信教育教材（教材コード 000279） 1,800 円（送料込）

◆**参考書** 丸沼『教養政治学』 岩井奉信 黒川貢三郎 関根二三夫他 南窓社 3,045 円（税込）（送料 390 円）

◆**成績評価基準** 試験 70%, 平常点 30%

※試験同様、質問や小テストへの解答等平常点も重視します。

◆ E-Mail :

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」及び「氏名」を記入。例：「日本大学通信教育部 24131999 日大通子」

## ◆現代社会を生きる糧に

## 〔経済学〕

水曜日 1 時限

開講単位 4 単位 担当者：田村 和彦

◆**学習目標** 日常生活に不可欠な経済生活を営むために必要な経済知識の基礎を理解してもらいたい。報道で GDP、可処分所得、貯蓄性向等々、経済学用語が必ず使用されている。この意味で、経済学の知識が日常生活にも必要となっている。単なる教養・総合教育科目ではないのである。賢明な日常生活を送るために糧にしてもらいたい。経済生活のあり方にについても検討したい。

◆**授業方法** 講義方式。

◆**準備学習** あらかじめ各自が現在の経済問題に关心を持つこと。

◆**授業計画** [各 90 分]

1回目 シラバス授業	11回目 収穫遞減の法則、等量曲線	21回目 国民資本と国民所得
2回目 シラバス授業	12回目 生産費の理論	22回目 国民所得概念：GNP、NNP、GDP
3回目 経済学とはなにか	13回目 平均費用曲線・限界費用曲線	23回目 ケインズ型消費関数
4回目 経済学研究の手続き	14回目 生産者余剰、生産要素の最適結合	24回目 国民所得の決定
5回目 資本主義と社会主義	15回目 最大利潤、供給曲線	25回目 LM、IS 曲線
6回目 効用概念、限界効用均等の法	16回目 完全競争の価格決定	26回目 景気循環
7回目 無差別曲線、最適消費計画	17回目 不完全競争の価格決定	27回目 経済の展望
8回目 消費者余剰、家計の支出	18回目 貨幣の理論	28回目 失われた 20 年
9回目 価格消費曲線・所得消費曲線	19回目 金融の役割	29回目 少子高齢化とグローバル化
10回目 生産の定義と生産函数	20回目 国民経済の構造と循環	30回目 まとめ

※別途、試験を実施する週（平成 26 年 1 月 21 日～24 日）を設けています。

◆**教科書** **丸沼『経済学』** 濑川浩・田村和彦共著 桜門書房出版部 2,940 円（税込）（送料 340 円）必ず購入し、予習しておくこと。

◆**参考書** なし。

◆**成績評価基準** 試験（100%）。ただし、授業は毎回出席することを前提とする。

◆**E-Mail :**

## ◆科学的な心のとらえ方

## 〔心理学〕

水曜日 3 時限

開講単位 4 単位 担当者：野村 康治

◆**学習目標** 「心」の理解はともすれば主観的なものになりがちであり、主観的理解は思い込みや誤解を生むことがある。この授業では心理学が「心」という目に見えないものに関する問題にいかに取り組み、どのようなことを見出してきたかを説明する。心理学の基礎的知識を習得することで科学的な人間理解を目指す。

◆**授業方法** 授業は主として講義形式で行う。講義内容を必ずノートにとること。また、授業中に教員が質問をしたり、意見を求めることがある。ただ漫然と授業を聴くのではなく、考えながら聴講し、意見を求められたときは積極的に発言して欲しい。なお、出席は毎回確認する。

◆**準備学習** 科学は疑問を持つこと、つまり問題を見つけることから始まる。そして、心に関する問題は日常の生活場面に溢れている。日常場面での様々な心の問題を見つけ出し、そのことに疑問を持ちながら毎回の授業に臨んで欲しい。

◆**授業計画** [各 90 分]

1回目 心理学とは	11回目 記憶（記憶の過程）	21回目 学習（認知理論）
2回目 心と体	12回目 記憶（記憶のメカニズム）	22回目 学習（社会的学習）
3回目 心と脳	13回目 記憶（記憶のあいまいさ）	23回目 発達（遺伝と環境）
4回目 感覚（感覚のメカニズム）	14回目 思考（知識の構造）	24回目 発達（認知発達）
5回目 感覚（刺激と感覚の関係）	15回目 思考（人間の思考の特徴）	25回目 発達（人格発達）
6回目 知覚（物理世界と知覚世界）	16回目 行動の生起	26回目 知能（知能の測定）
7回目 知覚（人間の知覚の特徴）	17回目 欲求と欲求不満	27回目 知能（知能の構造）
8回目 知覚（知覚の体制化）	18回目 適応と不適応	28回目 性格（性格理論）
9回目 高次知覚（初期認知）	19回目 動機づけ	29回目 性格（性格の測定）
10回目 注意	20回目 学習（連合理論）	30回目 授業まとめ

※別途、試験を実施する週（平成 26 年 1 月 21 日～24 日）を設けています。

◆**教科書** **通材『心理学 0035』** 通信教育教材（教材コード 000483）2,750 円（送料込）

〈この教材は市販の『新しい心理学ゼミナール』藤田主一他著（福村出版）と同一です〉

※平成 25 年度改訂教材

◆**参考書** 授業中に指示する。

◆**成績評価基準** 成績は試験結果を重視し、これに平常点（授業時の発言など）を鑑みて評価する。

◆**E-Mail :**

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」及び「氏名」を記入。例：「日本大学通信教育部 24131999 日大通子」

## ◆リーディングを中心とした英語学習

〔英語 A〕

火曜日 4 時限

開講単位 2 単位 担当者：小山 誠子

◆**学習目標** イギリスについて書かれた英文のリーディングを通して、①英文を正確に発音し、②構文（文法）を確認し、③文章（paragraph）毎及び文章全体（chapter）の理解に努める。加えて、④語彙力の増強をはかる。また、「英語」の国である「イギリス」文化への理解を深める。

◆**授業方法** 下記授業計画（1 Chapter/ 授業 2 回の割合）に従い、英文の基本構造（文法）を確認しながら、受講者全員の分担による本文の①音読及び②和訳をおこなった後、Exercises や Summary により情報を整理する。Chapter 毎に単語テスト（V.T.=Vocabulary Test 成績評価の一部）を行う。さらに、トピックに関連した事柄の調査報告を受講者から募集し、受講者主体による積極的な授業を展開する（こちらも成績評価に加える）。

◆**準備学習** 授業開始までに本文該当箇所を一読し、不明なものは辞書にあたり、全ての英語の発音 / 品詞及び意味（定義全体を概観した後概念として代表的なものを 2, 3）を記録する。その後全体的な内容を予想しながら再度本文を一読する。（受講者決定後は分担して担当箇所の①音読②和訳を行う。）

※詳細は初回ガイダンスにて指示する。

◆**授業計画** [各 90 分]

1回目 ガイダンス	11回目 Chapter 5 (後半)	21回目 Chapter 10 (前半) +V.T.9
2回目 Chapter 1 (前半)	12回目 Chapter 6 (前半) +V.T.5	22回目 Chapter 10 (後半)
3回目 Chapter 1 (後半)	13回目 Chapter 6 (後半)	23回目 Chapter 11 (前半) +V.T.10
4回目 Chapter 2 (前半) +V.T.1	14回目 Chapter 7 (前半) +V.T.6	24回目 Chapter 11 (後半)
5回目 Chapter 2 (後半)	15回目 前期テスト	25回目 Chapter 12 (前半) +V.T.11
6回目 Chapter 3 (前半) +V.T.2	16回目 Chapter 7 (後半)	26回目 Chapter 12 (後半)
7回目 Chapter 3 (後半)	17回目 Chapter 8 (前半) +V.T.7	27回目 Chapter 13 (前半) +V.T.12
8回目 Chapter 4 (前半) +V.T.3	18回目 Chapter 8 (後半)	28回目 Chapter 13 (後半)
9回目 Chapter 4 (後半)	19回目 Chapter 9 (前半) +V.T.8	29回目 Chapter 14 (前半) +V.T.13
10回目 Chapter 5 (前半) +V.T.4	20回目 Chapter 9 (後半)	30回目 Chapter 14 (後半)

※別途、試験を実施する週（平成 26 年 1 月 21 日～24 日）を設けています。

◆**教科書** 丸沼『Made in Britain イギリスの底力』 成美堂 1,890 円（税込）（送料 340 円）

◆**参考書** 大学生・社会人レベルの英語辞書（電子辞書を含む）を毎回持参のこと。

※ 携帯電話の辞書替わりの使用は一切認めない。

◆**成績評価基準** 平常（Vocabulary Test 結果 / 授業への積極的取組）：50% 試験：50%

◆**E-Mail :**

## ◆ O.Henry の短編小説を読む

〔英語 B〕

火曜日 5 時限

開講単位 2 単位 担当者：鈴木 ふさ子

◆**学習目標** みなさんは O.Henry の短編小説に一度は触れたことがあるのではないかでしょうか。ユーモアとペースス、絶妙な才覚など様々な魅力で長年読み継がれてきた作品を通して英文の正確な把握力を高めています。その過程で作品の舞台となっている 20 世紀初頭の New York の文化や時代背景についても知識を深め、作品の多面的な解釈を目指します。また、小説にふさわしい表現に翻訳するセンスを身につけることも目標とします。

◆**授業方法** 指名された受講生は、テキストの予習に指定した範囲の音読と翻訳をします。分量としてはひとり一段落ずつほどになると思います。構文がとりにくかった箇所、イメージが湧きにくかった箇所、日本語にしにくい箇所などをクラス全体で考えていきます。毎回読んだ箇所から部分訳や作品解釈を確認するテストを行います。また、よい訳を考えるなどのグループワークを取り入れる予定です。

◆**準備学習** 毎回次に進む範囲を、音読し、ひとつひとつの単語を丁寧に調べて、テキスト巻末の NOTES を参照した上で、情景をイメージしながら、自分なりの翻訳を作成してきて下さい。訳している最中にわかりにくかった箇所を挙げられるようにしておいて下さい。

◆**授業計画** [各 90 分]

1回目 ガイダンス	11回目 テキスト精読 確認テスト	21回目 テキスト精読 確認テスト
2回目 テキスト精読、確認テスト	12回目 テキスト精読、確認テスト	22回目 テキスト精読、確認テスト
3回目 テキスト精読、確認テスト	13回目 テキスト精読、確認テスト	23回目 テキスト精読、確認テスト
4回目 テキスト精読、確認テスト	14回目 New York について①	24回目 テキスト精読、確認テスト
5回目 テキスト精読、確認テスト	15回目 ディスカッション	25回目 テキスト精読、確認テスト
6回目 テキスト精読、確認テスト	16回目 テキスト精読、確認テスト	26回目 テキスト精読、確認テスト
7回目 テキスト精読、確認テスト	17回目 テキスト精読、確認テスト	27回目 テキスト精読、確認テスト
8回目 テキスト精読、確認テスト	18回目 テキスト精読、確認テスト	28回目 テキスト精読、確認テスト
9回目 テキスト精読、確認テスト	19回目 テキスト精読、確認テスト	29回目 New York について②
10回目 テキスト精読、確認テスト	20回目 テキスト精読、確認テスト	30回目 ディスカッション

※別途、試験を実施する週（平成 26 年 1 月 21 日～24 日）を設けています。

◆**教科書** 丸沼『The Best Short Stories of O.Henry』（『O. ヘンリー短編傑作集』）石黒心裕注 開文社 1,260 円（税込）（送料 260 円）

◆**参考書** 必要に応じて、授業時に指示します。

電子辞書でも構わないので、中型の辞書を毎回持参するようにして下さい。

◆**成績評価基準** 毎回出席することを前提とするので、欠席はしないようにしましょう。

平常点（授業への貢献・貢献・予習）20%, 確認テスト 30%, 最終（期末）試験 50% で評価します。

◆**E-Mail :**

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」及び「氏名」を記入。例：「日本大学通信教育部 24131999 日大通子」

## ◆コミュニケーションによる判断力の育成

〔英語 C〕

水曜日 2 時限

開講単位 2 単位 担当者：岡田 善明

◆**学習目標** テキストの英文を聞き、社会問題についての賛否による理解力と判断力を培い、弁証法的なコミュニケーション能力を育成することを目指す。英語による理解力と思考力を育成する。

◆**授業方法** テキストを用いて、リスニングによる理解力を育成するために、問題練習と英語による討論を行い、的確な判断力と意思伝達能力を伸ばす。テキストのテーマに合わせて何回かスピーチを学生に課す。授業は英語で行い、英語によるパラフレーズ等の説明で、英語で理解し英語で考える力を育成したい。

◆**準備学習** 毎週の活動のために、必ず予習して授業に取り組む心がけが大切で、知らない単語を辞典で調べ授業では分からない単語がない状態にするために、よく予習することが成功につながる。

## ◆授業計画〔各 90 分〕

1回目 Unit 1. The Internet	11回目 6. Junk food	21回目 10. Animal testing
2回目 1. The Internet	12回目 6. Junk food	22回目 11. Temporary workers
3回目 2. Neets	13回目 7. Paternity Leave	23回目 11. Temporary workers
4回目 2. Neets	14回目 7. Paternity leave	24回目 12. Robot care
5回目 3. Fashion	15回目 中間テスト	25回目 12. Robot care
6回目 3. Fashion	16回目 8. Depopulation	26回目 13. College
7回目 4. Environment	17回目 8. Depopulation	27回目 13. College
8回目 4. Environment	18回目 9. Examination	28回目 15. Welfare
9回目 5. International marriage	19回目 9. Examination	29回目 15. Welfare
10回目 5. International marriage	20回目 10. Animal testing	30回目 復習

※別途、試験を実施する週（平成 26 年 1 月 21 日～24 日）を設けています。

◆**教科書** 丸沼『For and Against（『賛否両論、英語で表現する社会問題』）』 成美堂 2,310 円（税込）（送料 340 円）

◆**参考書** 英英辞典を必ず持参する。マクミラン、ロングマン、オックスフォード社の英英辞典が推薦できる。

◆**成績評価基準** スピーチと中間・最終試験により評価する。

◆ E-Mail :

## ◆英文の基本構造を理解する

〔英語 D〕

水曜日 3 時限

開講単位 2 単位 担当者：北原 安治

◆**学習目標** 五文型に基づき、英文の構造を把握する講義。

◆**授業方法** 予習段階で英文を 5 行ほどの間隔でノートに写す。その英文の下に S(主語)、V(動詞)などを書いてもらい、訳を付ける。細かく板書するので訳が書き取れないということはない。予習の段階で必ず本文をノートに写していくこと。各色のマーカーなど持ってくると良い。受講者の速度に合わせるので、かならずしも授業計画どおりにはならない。本文のみやり練習問題はやらない。最終の試験日にノート検査をする。ノート無きものは単位を与えない。および板書事項を正確にすべて写していないノートは不可とし単位を与えない。第 3 章から始める。

◆**準備学習** 予習段階で英文を 5 行ほどの間隔でノートに写す。ノートの見開きの左のページに英文を写し、右のページに訳をつけても良い。単語を調べてくること。毎回和訳小テストをするので辞書を持ってくること。

## ◆授業計画〔各 90 分〕

1回目 Ch. 3	11回目 Ch. 4	21回目 Ch. 5
2回目 Ch. 3	12回目 Ch. 4	22回目 Ch. 5
3回目 Ch. 3	13回目 Ch. 4	23回目 Ch. 5
4回目 Ch. 3	14回目 Ch. 4	24回目 Ch. 5
5回目 Ch. 3	15回目 Ch. 4	25回目 Ch. 5
6回目 Ch. 3	16回目 Ch. 4	26回目 Ch. 5
7回目 Ch. 3	17回目 Ch. 4	27回目 Ch. 5
8回目 Ch. 3	18回目 Ch. 4	28回目 Ch. 5
9回目 Ch. 3	19回目 Ch. 4	29回目 Ch. 5
10回目 Ch. 3	20回目 Ch. 4	30回目 授業内試験

※別途、試験を実施する週（平成 26 年 1 月 21 日～24 日）を設けています。

◆**教科書** 丸沼『Major Countries in the World～世界の主要国～』 小泉和弘編  
鳳書房 (Tel/Fax (03) 3483-3723) 1,890 円（税込）（送料 340 円）

◆**参考書** 丸沼『ロイヤル英文法』1,890 円 旺文社 1,890 円（税込）（送料 500 円）  
この本は講義では使いません。辞書は毎回持ってくること。

◆**成績評価基準** 試験、小テストなどの総合評価。皆出席を望む。前期試験はなし。30 回目に授業内試験を行う（辞書は参照不可）。抜き打ちの実力テストも何回か行う。

◆ E-Mail :

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」及び「氏名」を記入。例：「日本大学通信教育部 24131999 日大通子」

## ◆基本的な英語力の育成

〔英語 E〕

木曜日 3 時限

開講単位 2 単位 担当者：石川 勝

◆**学習目標** テキストの読解を中心に、基本的な文法の説明やリスニングを行い、英語の基礎力の底上げを図ることを目的とする。テキストはヨーロッパの歴史と文化に関する内容で親しみやすいと思われる。

◆**授業方法** 事前にテキストの訳をやってきてもらい、授業中指名して発表してもらう形をとる。その後で英文の構造や背景の説明を行う。

◆**準備学習** 前の授業で指示された個所の予習を必ずしておくとと。2回予習していない場合は単位を認めない。

### ◆授業計画〔各 90 分〕

1回目 ガイダンス	11回目 chapter 3	21回目 chapter 5
2回目 chapter 1	12回目 chapter 3	22回目 chapter 5
3回目 chapter 1	13回目 chapter 3	23回目 chapter 5
4回目 chapter 1	14回目 chapter 3	24回目 chapter 6
5回目 chapter 1	15回目 テスト	25回目 chapter 6
6回目 chapter 2	16回目 chapter 4	26回目 chapter 6
7回目 chapter 2	17回目 chapter 4	27回目 chapter 6
8回目 chapter 2	18回目 chapter 4	28回目 chapter 7
9回目 chapter 2	19回目 chapter 4	29回目 chapter 7
10回目 chapter 3	20回目 chapter 5	30回目 テスト

※別途、試験を実施する週（平成 26 年 1 月 21 日～24 日）を設けています。

◆**教科書** 丸沼『Understanding Europe』 金星堂 1,995 円（税込）（送料 340 円）

◆**参考書** 授業中に指示する。

◆**成績評価基準** 数回行う小テストの結果で成績を判断する。

◆**E-Mail :**

## ◆シェイクスピア作品を味わう

〔英語 F〕

木曜日 4 時限

開講単位 2 単位 担当者：大住 有里子

◆**学習目標** イギリスの劇作家 William Shakespeare の作品を味わいます。Roger Lancelyn Green が今の英語で、物語に書き直したものを読みます。Shakespeare 作品の中から『ヴェニスの商人』『ロミオとジュリエット』『ハムレット』を。400 年強昔に書かれた劇は未だに劇場で演じられ、映画化され、また新たに生まれてくる作品に影響を与えています。授業でゆっくり読みながら、Shakespeare 作品の古典である所以をご自分で発見できると思います。作品を味わうことと、辞書があれば自分である程度内容が取れるようになることを目標とします。

◆**授業方法** 一人ずつ、一段落から二段落ほどを読んでいただき、その部分の大まかな内容を言っていただきます。質問を挙げていただき、それを共に考え、解決して読み進めていきます。

◆**準備学習** 事前にテキストを読み、知らない単語は辞書で調べ、自分なりに内容を把握しておいで下さい。予習の段階で意味の取れない文などを質問として挙げてください。授業で解説します。

### ◆授業計画〔各 90 分〕

1回目 授業の説明・はしがき	11回目 Romeo and Juliet	21回目 Hamlet
2回目 The Merchant of Venice	12回目 Romeo and Juliet	22回目 Hamlet
3回目 The Merchant of Venice	13回目 Romeo and Juliet	23回目 Hamlet
4回目 The Merchant of Venice	14回目 Romeo and Juliet	24回目 Hamlet
5回目 The Merchant of Venice	15回目 Romeo and Juliet	25回目 Hamlet
6回目 The Merchant of Venice	16回目 Romeo and Juliet	26回目 Hamlet
7回目 The Merchant of Venice	17回目 Romeo and Juliet	27回目 Hamlet
8回目 The Merchant of Venice	18回目 Romeo and Juliet	28回目 Hamlet
9回目 The Merchant of Venice	19回目 Romeo and Juliet	29回目 Hamlet
10回目 The Merchant of Venice	20回目 Romeo and Juliet (DVD 鑑賞)	30回目 Hamlet (DVD 鑑賞)

※別途、試験を実施する週（平成 26 年 1 月 21 日～24 日）を設けています。

◆**教科書** 丸沼『The Tales from Shakespeare』 Roger Lancelyn Green 川地美子 編注 成美堂 2006 年第 24 版発行 1,260 円（税込）（送料 260 円）

◆**参考書** シェイクスピア作品の翻訳は多くあります。小田島雄志訳、白水 U ブックス。松岡和子訳、ちくま文庫。安西徹雄訳、光文社古典新訳文庫。これらをお勧めします。

◆**成績評価基準** 授業への参加具合と試験から総合的に評価します。

◆**E-Mail :**

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」及び「氏名」を記入。例：「日本大学通信教育部 24131999 日大通子」

## ◆英語で社会の出来事を読む

〔英語 G〕

金曜日 3 時限

開講単位 2 単位 担当者：中村 則子

◆**学習目標** 英語で書かれた社会事象についての文章を読むことで、英文読解のスキルを向上させる。最終的な目標は英語の総合能力を養うことにある。

◆**授業方法** テキストは reading の学習のみならず、その他の英語技能 (listening, speaking, writing) も学べるよう構成されている。テキストに沿って、英文を読み、演習問題を行って、これらの4技能を習得していく。毎回、英文読解の発表をしてもらうことになる。小グループに分かれての活動も考えている。授業の進み具合により、シラバス通りにいかない場合があることをおことわりしておく。

◆**準備学習** 受講希望者はテキストを初回から持参すること。途中からの受講は原則として認められない。あらかじめ、テキストに目を通し、判らない単語を辞書で調べて、充分に予習しておくこと。また、日ごろから、テレビのニュースをまず、日本語放送で聞く、二か国語対応のニュースを英語で聞く、日本語の新聞を読む、やさしく解説してあるような英字新聞を読む等により、世界でおこっている出来事に興味をもち、まずは日本語で、そして英語でメディアから情報を入手する作業をしてほしい。

◆**授業計画〔各 90 分〕**

1回目 ガイダンス	11回目 Unit5 The Egyptian	21回目 Uni10 Sushi
2回目 Unit1 Gun Control	12回目 Unit6 The 21st Century ...	22回目 Uni11 Living in a ...
3回目 Unit1 Gun Control	13回目 Unit6 The 21st Century ...	23回目 Uni11 Living in a ...
4回目 Unit2 Say Hi to Hybrids	14回目 Unit7 Academy Awards	24回目 Unit12 The "Freeter" ...
5回目 Unit2 Say Hi to Hybrids	15回目 Unit7 Academy Awards	25回目 Unit12 The "Freeter" ...
6回目 Unit3 Skyscrapers	16回目 Unit8 California, Here I ...	26回目 Unit13 The Computer ...
7回目 Unit3 Skyscrapers	17回目 Unit8 California, Here I ...	27回目 Unit13 The Computer ...
8回目 Unit4 Virtual Reality	18回目 Uni9 Anyone for a Cup of ...	28回目 復習
9回目 Unit4 Virtual Reality	19回目 Uni9 Anyone for a Cup of ...	29回目 期末試験
10回目 Unit5 The Egyptian	20回目 Uni10 Sushi	30回目 試験解説

※別途、試験を実施する週（平成 26 年 1 月 21 日～24 日）を設けています。

◆**教科書** 丸沼『A Complete College English Program Book 1』 土屋武久他著 金星堂 1,837 円（税込）  
(送料 260 円)

◆**参考書** ガイダンスにて指示。適宜プリント配布。中型辞書は毎回持参。

◆**成績評価基準** 発表を含めた授業への取り組み、試験による総合評価。

◆**E-Mail :**

## ◆簡単な英語で社会の出来事を読む

〔英語 H〕

金曜日 4 時限

開講単位 2 単位 担当者：中村 則子

◆**学習目標** 簡単な英語で書かれた社会事象についての文章を読むことで、英文読解のスキルを向上させる。最終的な目標は英語の総合能力を養うことにある。

◆**授業方法** テキストは reading の学習のみならず、その他の英語技能 (listening, speaking, writing) も学べるよう構成されている。テキストに沿って、英文を読み、演習問題を行って、これらの4技能を習得していく。毎回、英文読解の発表をしてもらうことになる。比較的、平易な英文で構成されているため、基礎的な英語を学びたい学習者向けの講座である。授業の進み具合により、シラバス通りにいかない場合があることをおことわりしておく。

◆**準備学習** 受講希望者はテキストを初回から持参すること。途中からの受講は原則として認められない。あらかじめ、テキストに目を通し、判らない単語を辞書で調べて、充分に予習しておくこと。また、日ごろから、テレビのニュースをまず、日本語放送で聞く、二か国語対応のニュースを英語で聞く、日本語の新聞を読む、やさしく解説してあるような英字新聞を読む等により、世界でおこっている出来事に興味をもち、まずは日本語で、そして英語でメディアから情報を入手する作業をしてほしい。

◆**授業計画〔各 90 分〕**

1回目 ガイダンス	11回目 Unit5 Robots	21回目 Uni10 Instant Ramen
2回目 Unit1 Vending Machine	12回目 Unit6 Chips or Fries?	22回目 Uni11 Love Is Blind?
3回目 Unit1 Vending Machine	13回目 Unit6 Chips or Fries?	23回目 Uni11 Love Is Blind?
4回目 Unit2 Yakushima	14回目 Unit7 There's No Cooling ...	24回目 Unit12 A Short History ...
5回目 Unit2 Yakushima	15回目 Unit7 There's No Cooling ...	25回目 Unit12 A Short History ...
6回目 Unit3 MLB	16回目 Unit8 Miracles Do Happen	26回目 Unit13 Leonardo da Vinci
7回目 Unit3 MLB	17回目 Unit8 Miracles Do Happen	27回目 Unit13 Leonardo da Vinci
8回目 Unit4 Great Actress	18回目 Uni9 What Is Clean Energy?	28回目 復習
9回目 Unit4 Great Actress	19回目 Uni9 What Is Clean Energy?	29回目 期末試験
10回目 Unit5 Robots	20回目 Uni10 Instant Ramen	30回目 試験解説返

※別途、試験を実施する週（平成 26 年 1 月 21 日～24 日）を設けています。

◆**教科書** 丸沼『A Complete College English Program Book 3』 土屋武久他著 金星堂 1,995 円（税込）  
(送料 340 円)

◆**参考書** ガイダンスにて指示。適宜プリント配布。中型辞書は毎回持参。

◆**成績評価基準** 発表を含めた授業への取り組み、試験による総合評価。

◆**E-Mail :**

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」及び「氏名」を記入。例：「日本大学通信教育部 24131999 日大通子」

## ◆英語の4つの技能（「聞く」「話す」「読む」「書く」）をしっかり身につける【英語 J】

金曜日 5 時限

開講単位 2 単位 担当者：青木 克憲

◆**学習目標** 英語の基礎力を「聞く」「話す」「読む」「書く」といった練習を通してしっかりと自分のものにすることを目標とする。

◆**授業方法** CD を活用し、教科書の Warm-up, Listening, Conversation の箇所では特に Hearing の力を向上させる。 Grammar, Reading の箇所では、担当者が説明を行った後、練習問題を答えてもらう。

◆**準備学習** あらかじめ CD を聞いておくことや、語句の意味を調べたり、練習問題を解いておく、 Reading の内容を考えておく等、充分な予習をしておくこと。

### ◆授業計画【各 90 分】

1回目 ガイダンス	11回目 ⑤ I need your help	21回目 ⑨ I feel sick
2回目 ① Nice to meet you	12回目 ⑥ What's the teacher like	22回目 ⑨ I feel sick
3回目 ① Nice to meet you	13回目 ⑥ What's the teacher like	23回目 ⑩ I'd like to open an account
4回目 ② I'd like Diet Coke	14回目 まとめ及び復習	24回目 ⑩ I'd like to open an account
5回目 ② I'd like Diet Coke	15回目 中間テスト	25回目 ⑪ I was disappointed
6回目 ③ I need your advice	16回目 後半のガイダンス（テストの結果）	26回目 ⑪ I was disappointed
7回目 ③ I need your advice	17回目 ⑦ I have sweets	27回目 ⑫ Challenge 3
8回目 ④ Challenge 1	18回目 ⑦ I have sweets	28回目 ⑫ Challenge 3
9回目 ④ Challenge 1	19回目 ⑧ Challenge 2	29回目 まとめ及び復習
10回目 ⑤ I need your help	20回目 ⑧ Challenge 2	30回目 まとめ及び復習

※別途、試験を実施する週（平成 26 年 1 月 21 日～24 日）を設けています。

◆**教科書** 丸沼『English Connections, Study & Holiday 1』 マクミラン ランゲージハウス 2,205 円（税込）  
(送料 340 円)

◆**参考書** 授業のときに紹介します。

◆**成績評価基準** 予習状況、授業態度を含めた平常点（30%）、2 回のテストの平均（70%）で評価します。

◆ E-Mail :

## ◆基礎英語で TOEIC にもチャレンジ！

【英語基礎 A】

火曜日 3 時限

開講単位 2 単位 担当者：飯野 朝世

◆**学習目標** ①英語の音の聞き取りができる、それを真似ることができる。  
②日常表現を習得できる。  
③何気なく TOEIC Test 形式に慣れてしまう。

◆**授業方法** ①各ユニットを 1～2 回にわたって学習します。テキストの習得内容を応用段階にまで発展させていきます。  
②英語独特の音の聞き取り練習、発音練習も含み、日常使われる言い回しも練習を重ねます。③これらの練習が基本となり、徐々に TOEIC Test 形式に慣れていきます。④隨時小テストを行ないます。

◆**準備学習** ①添付 CD を何度も聞いて英語の音やリズムに慣れてください。  
②知らない単語があれば意味を調べておいてください。

◆**授業計画【各 90 分】**（以下の予定は授業の進行状況により変わることもあります。）

1回目 ガイダンス	11回目 U-5 挑い読みのテクニック	21回目 U-11 聞き取り練習
2回目 U-1 身の回りの物・場所	12回目 U-6 MacDonald で注文する	22回目 U-11 英語の語順
3回目 U-1 語彙の選択	13回目 U-6 動詞の形	23回目 U-12 否定で問われたら
4回目 U-2 wh で始まる疑問文	14回目 U-7 ?文への応答	24回目 U-12 正しい語形は？
5回目 U-2 語句の共通点	15回目 U-7 形容詞、副詞を使う	25回目 U-13 位置関係
6回目 U-3 関連語句を聞きとる	16回目 U-8 数の練習・飛ばし読み	26回目 U-13 必要な情報を読み取る
7回目 U-3 派生語	17回目 U-9 人やモノの状態	27回目 U-14 英語のまま理解する
8回目 U-4 Yes? それとも No?	18回目 U-9 正しい形容詞・副詞は	28回目 U-14 疑問・関係&接続詞
9回目 U-4 名詞の形	19回目 U-10 自然な応答とは？	29回目 U-15 否定?に答える
10回目 U-5 人の動作	20回目 U-10 前置詞の表す意味	30回目 U-15 スピードアップする

※別途、試験を実施する週（平成 26 年 1 月 21 日～24 日）を設けています。

◆**教科書** 丸沼『TOEIC Bridge : Training Tips (TOEIC Bridge で学ぶ大学基礎英語)』 CD 付 高山芳樹 著 南雲堂 2012 年 1,785 円（税込）(送料 340 円)

◆**参考書** 授業では使用しません。

◆**成績評価基準** 毎回出席することを前提として、①授業への積極的参加度、発表など（平常点）：50%、②隨時行なう小テストの平均点：50%により総合的に評価します。

◆ E-Mail :

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」及び「氏名」を記入。例：「日本大学通信教育部 24131999 日大通子」

## ◆ナショナル映像から4スキル習得へ

## 〔英語基礎 B〕

水曜日 3 時限

開講単位 2 単位 担当者：町田 純子

◆**学習目標** ナショナルジオグラフィックの人間と自然や科学のトピックにDVDで触れながら、語彙力増強や基礎文法の復習を踏まえたリーディング、リスニング、スピーキング及び、ライティングの英語の言語運用能力の4スキルを総合的に習得することが目的です。

◆**授業方法** DVDでヴィジュアルな映像から、概要を掴み、口語英語の表現に慣れます。200語程度の英文読解を速読(速聴)し、段階的にペアーウーク中心のタスクベースの授業展開で進めます。段落毎の展開方法を抑え、要点を把握し、基本文法項目を短時間でおさえながら、理解の度合いをチェックします。ペアーウークによるディスカッションも多く取り入れます。

◆**準備学習** 教科書はすべて英語で書かれた洋書です。コミュニケーションスキルとしてのコミュニケーション能力のため、積極的に取り組む姿勢が求められます。基本的にペアーウークで進めていきますので、講義中は履修者同士のコミュニケーションにも前向きに取り組んでください。ガイダンスでは、シラバス内容を確認の上、授業に臨み、必ず分からぬ単語は辞書で調べる等の予習、復習をしてください。

◆**授業計画**〔各 90 分〕

1回目 ガイダンス& Unit 1	11回目 Unit 6 Living in Venice	21回目 Unit 11 Global Warming
2回目 Unit 1 A Taste of Mexico	12回目 Unit 6 Living in Venice	22回目 Unit 11 Global Warming
3回目 Unit 2 Lighting	13回目 Unit 7 Tornado Chase	23回目 Unit 12 More Water for India
4回目 Unit 2 Lighting	14回目 Unit 7 Tornado Chase	24回目 Unit 12 More Water for India
5回目 Unit 3 Penguins in Trouble	15回目 Unit 8 Treasures in Old San Juan	25回目 Unit 13 Tsunami: Killer Wave
6回目 Unit 3 Penguins in Trouble	16回目 Unit 8 Treasures in Old San Juan	26回目 Unit 13 Tsunami: Killer Wave
7回目 Unit 4 Parasomnia	17回目 Unit 9 Bee Therapy	27回目 Unit 14 Mecca & Butler School
8回目 Unit 4 Parasomnia	18回目 Unit 9 Bee Therapy	28回目 Unit 14 Mecca & Butler School
9回目 Unit 5 Maasai Teacher	19回目 Unit 10 Inca Mummy	29回目
10回目 Unit 5 Maasai Teacher	20回目 Unit 10 Inca Mummy	30回目

※別途、試験を実施する週(平成26年1月21日～24日)を設けています。

◆**教科書** 丸沼『World in Focus : Video Course Book』 Rebecca Kleuberg Moller センゲージラーニング 2012年 第1版 2,520円(税込)(送料340円)

◆**参考書** 英和辞書(電子辞書)は必携です。

◆**成績評価基準** 全出席を前提に、毎回の宿題提出(20%) +まとめの試験(60%) +発表等の授業に積極的に取り組む姿勢(20%)を総合的に評価します。

◆ **E-Mail :**

## ◆ TOEIC test 500点突破目標

## 〔TOEIC A〕

火曜日 1 時限

開講単位 2 単位 担当者：八木 茂那子

◆**学習目標** 本講座は入学して初めて TOEIC Test を受験しようとしている人、あるいは1,2度受けたことがある、更にスコアアップを目指そうとする人など主に入門レベルにある人を対象とし、TOEIC テスト 500点突破を目標に効果的な英語学習をするための基本的トレーニング方法を体得することと学習の習慣化を確立することを目標とします。

◆**授業方法** 授業では Listening Part, と Reading Part の演習を交互に行い、Listening, Speaking, Reading, Writing の four skills を満遍なく取り込みながら楽しくトレーニングしていく予定です。受講者のレベルや理解度、進度に応じ授業内容を変更する場合があります。

◆**準備学習** 家庭学習として指定された問題を時間を計って2回解いて来る事；一回目は時間を計り、参照物なしで、2回目はペンの色を変え、オープンブック、(辞書、文法書、など参照物を参照しながら、解いてきて下さい。授業中に3回目を解くことになります。(このように同じ問題を繰り返し解くことにより、学習内容の定着が図られます。)

◆**授業計画**〔各 90 分〕

1回目 ガイダンス 学習目標設定	11回目 Lesson9 Listening Practice	21回目 Lesson17 Listening Practice
2回目 Lesson1 Listening Practice	12回目 Lesson10 Reading Practice	22回目 Lesson18 Reading Practice
3回目 Lesson2 Reading Practice	13回目 Lesson11 Listening Practice	23回目 Lesson19 Listening Practice
4回目 Lesson3 Listening Practice	14回目 Review test (1) Listening	24回目 Lesson20 Reading Practice
5回目 Lesson4 Reading Practice	15回目 Review test (2)	25回目 Lesson21 Listening Practice
6回目 Lesson5 Listening Practice	16回目 Lesson12 Reading Practice	26回目 Lesson22 Reading Practice
7回目 Mini TOEIC (1)	18回目 Lesson13 Listening Practice	27回目 Lesson23 Listening Practice
8回目 Lesson6 Reading Practice	19回目 Lesson14 Reading Practice	28回目 Lesson24 Reading Practice
9回目 Lesson7 Listening Practice	20回目 Lesson15 Listening Practice	29回目 実践問題演習 Listening Practice
10回目 Lesson8 Reading Practice	21回目 Lesson16 Reading Practice	30回目 実践問題演習 Reading Practice

※別途、試験を実施する週(平成26年1月21日～24日)を設けています。

◆**教科書** 丸沼『Navigator for the TOEIC Test』 Newly Updated Edition Donald Beaver Michael Walker Kei Mihara 南雲堂 1,890円(税込)(送料340円)

◆**参考書** 丸沼『TOEIC テスト新公式問題集 Vol.5』 TOEIC 運営委員会 2,940円(税込)(送料390円)

◆**成績評価基準** 筆記試験 50%+平常点(提出物、小テスト、発表、Oral Test 他) 50%による総合評価(受講者のレベルにより調整を加えることがあります。)

◆ **E-Mail :**

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」及び「氏名」を記入。例：「日本大学通信教育部 24131999 日大通子」

## ◆ 500 点取得に向けて：初級者のための TOEIC

〔TOEIC B〕

水曜日 4 時限

開講単位 2 単位 担当者：町田 純子

◆**学習目標** TOEIC の出題問題の傾向を探り、TOEIC 受験での 500 点以上取得を目指し、戦略的に段階的にリーディングとリスニングの英語運用能力を養成することを目的とします。

◆**授業方法** TOEIC の練習問題形式のテキストに沿い、音声の基礎知識を整理し、話し言葉特有のリスニングに慣れ、発音練習、基礎文法、速読力、読解力増強を図ります。又、TOEIC テスト特有の語彙力をつけるため、中学英語から TOEIC 試験レベルまでの段階的な単語力チェックテストを毎回行います。

◆**準備学習** ガイダンスでは、シラバス内容を確認の上、授業に臨み、二回目以降は授業計画を確認の上、予習、復習をしてください。自宅学習での、毎回実施予定の英単熟語確認テストの準備は必須です。

◆**授業計画** [各 90 分]

1回目 ガイダンス、Unit 1	11回目 Unit 6 単語テスト 10	21回目 Unit 11 単語テスト 20
2回目 Unit 1 単語テスト 1	12回目 Unit 6 単語テスト 11	22回目 Unit 11 単語テスト 21
3回目 Unit 2 単語テスト 2	13回目 Unit 7 単語テスト 12	23回目 Unit 12 単語テスト 22
4回目 Unit 2 単語テスト 3	14回目 Unit 7 単語テスト 13	24回目 Unit 12 単語テスト 23
5回目 Unit 3 単語テスト 4	15回目 Unit 8 単語テスト 14	25回目 Unit 13 単語テスト 24
6回目 Unit 3 単語テスト 5	16回目 Unit 8 単語テスト 15	26回目 Unit 13 単語テスト
7回目 Unit 4 単語テスト 6	17回目 Unit 9 単語テスト 16	27回目 Unit 14 単語テスト
8回目 Unit 4 単語テスト 7	18回目 Unit 9 単語テスト 17	28回目 Unit 14 単語テスト
9回目 Unit 5 単語テスト 8	19回目 Unit 10 単語テスト 18	29回目 TOEIC 攻略法
10回目 Unit 5 単語テスト 9	20回目 Unit 10 単語テスト 19	30回目 PreTOEIC-test

※別途、試験を実施する週（平成 26 年 1 月 21 日～24 日）を設けています。

◆**教科書** 丸沼『TOEIC Test : On Target (Book 1)』 大賀リエ William J. Benfield 南雲堂 2,100 円（税込）（送料 340 円）

丸沼『Word Builder 基礎から学ぶ TOEIC テスト英単熟語』 語学教育教材開発研究会 南雲堂 1,155 円（税込）（送料 340 円）

〔当日資料配布〕当日配布プリント

◆**参考書** 英和辞書（電子辞書でも可）は必携です。

TOEIC TEST 公式問題集

◆**成績評価基準** 全出席を前提に、平常点評価として、総合的にだします。

小テスト 3 回（30%）と期末試験（45%）+毎回の単語テスト 250 問（25%）+α 加点要素として授業への取り組み等。

◆ E-Mail :

## ◆ 読むためのドイツ語文法を学びましょう

〔ドイツ語 I・II〕

木曜日 2 時限

開講単位 2 単位 担当者：中島 伸

◆**学習目標** ドイツ語の文章を読むには、文法の知識と語彙力が必要です。本講座では、ドイツ語を履修した以上は最低限覚えなければならない文法事項の習得と単語力の強化を目標とします。更に、ドイツ語文を読む上でポイントとなる語順についても扱います。また、11 月に行われるドイツ語技能検定試験（通称：独検）5 級と 4 級の対策も行います。

◆**授業方法** 文法事項の説明後、練習問題（文法と和訳）で定着させていきます。更に、独検対策として該当する文法事項を含む過去に出題された問題を解いてもらいます。また、授業時に 4 回小テストを行い、間違った箇所と確認のために個別に解説を添えて答案を返却します。

◆**準備学習** 回を追うごとに説明する文法事項は既に習った文法事項の知識がないと理解出来ませんので、既習の文法事項の復習をするようにして下さい。また、文法説明時や練習問題等で出てきた単語の意味も覚えておくようにして下さい。そして、教科書に付いている CD でドイツ語を聴くようにして下さい。

◆**授業計画** [各 90 分]

1回目 ドイツ語とは	11回目 人称代名詞	21回目 現在完了形
2回目 アルファベットと発音	12回目 前置詞	22回目 過去完了形
3回目 動詞の現在人称変化	13回目 形容詞の語尾	23回目 定関係代名詞
4回目 sein と haben の現在人称変化	14回目 話法の助動詞	24回目 不定関係代名詞
5回目 名詞の性と複数形	15回目 未来形	25回目 受動態
6回目 定冠詞と不定冠詞	16回目 複合動詞	26回目 zu 不定詞
7回目 定冠詞類と不定冠詞類	17回目 再帰代名詞と再帰動詞	27回目 形容詞の比較・最高級
8回目 指示代名詞と疑問代名詞	18回目 動詞の三基本形	28回目 現在分詞
9回目 不規則な現在人称変化をする動詞	19回目 動詞の過去人称変化	29回目 接続法の形式と人称変化
10回目 命令形	20回目 従属の接続詞	30回目 接続法の用法

※別途、試験を実施する週（平成 26 年 1 月 21 日～24 日）を設けています。

◆**教科書** 丸沼『ハンサムドイツ』 高橋泰雄 城間宏朋著 朝日出版社 2,520 円（税込）（送料 340 円）

◆**参考書** 独和辞典が必要です。初回授業時に推奨独和辞典を紹介します。

◆**成績評価基準** 平常点（20%）・小テスト（40%）・試験（40%）の配分で評価します。

◆ E-Mail :

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」及び「氏名」を記入。例：「日本大学通信教育部 24131999 日大通子」

## ◆中学の英語をフランス語に変換します

## 〔フランス語Ⅰ・Ⅱ〕

金曜日 2 時限

開講単位 2 単位 担当者：大庭 克夫

◆**学習目標** 英語にすれば中1・中2レベルの内容が、フランス語で言えて・書けて・聴き取れるようになるのが目標です。また11月のフランス語検定試験5級にもぜひチャレンジしていただきたいと思います。授業でも過去問を使ってそのための演習時間を割く予定です。

◆**授業方法** 中1・中2の英語をベースに（基礎英語＝中学で習う英語がきちんと身に付いていることが単位取得可能の大前提です）、基本的な単語、提示の仕方、動詞の人称変化や形容詞の用法などを学習していきます。2012年度の学習内容とほぼ同一です。なお授業は<講義形式>ではなく<ゼミ形式>で進めていきます。1回の授業で最低4～5回は当てて答えてもらいますのでそのつもりで。

◆**準備学習** 外国語の学習はレンガを1段ずつ積み上げていくのと同じです。例えば2段目のレンガは1段目のレンガの上にしか載せられないように、フランス語も第1課の内容がきちんと身についていない限り第2課の内容を習得することは不可能です。そういう意味で、前週に習った事柄をきちんと身に付けて=覚えてから翌週の授業に臨んでください。これが取りも直さず最大の予習です。

◆**授業計画【各90分】**

1回目 繰り字と発音の関係1	11回目 動詞<avoir>の活用と用例	21回目 まとめヒヤリング演習
2回目 繰り字と発音の関係2	12回目 形容詞の用法	22回目 後期中間試験
3回目 不定冠詞と基本的な名詞	13回目 まとめヒヤリング演習	23回目 仏語検定試験5級演習1
4回目 部分冠詞と基本的な名詞	14回目 前期期末試験	24回目 仏語検定試験5級演習2
5回目 定冠詞と提示の仕方	15回目 前期期末試験の返却と解説	25回目 不規則動詞の活用と用例4
6回目 前期中間試験	16回目 数・曜日・月・季節	26回目 不規則動詞の活用と用例5
7回目 第1群規則動詞の活用	17回目 第2群規則動詞の活用と用例	27回目 不規則動詞の活用と用例6
8回目 第1群規則動詞の用例1	18回目 不規則動詞の活用と用例1	28回目 期末試験範囲まとめ1
9回目 第1群規則動詞の用例2	19回目 不規則動詞の活用と用例2	29回目 期末試験範囲まとめ2
10回目 動詞<être>の活用と用例	20回目 不規則動詞の活用と用例3	30回目 ヒヤリング演習

※別途、試験を実施する週（平成26年1月22日～25日）を設けています。

◆**教科書** 当日資料配布 必要に応じて授業毎にプリントを配布します。

◆**参考書** 仏和辞典が必要です。引いた痕跡の残らない電子辞書は個人的にはお薦めしません。きちんと取り組むのならやはり紙の辞書がベターです。初回授業時に手頃な辞書を何冊か紹介します。

◆**成績評価基準** 試験は前期と後期にそれぞれ中間と期末の2回ずつ行い、成績はこの試験の結果＝努力の結果で判定します。なお試験は全問<和文仏訳>と<ヒヤリング形式>（原文を書き取ったのち和訳する）で出題します。安直な和訳・穴埋め・書き換え・択一等は一切出題しません。

◆ **E-Mail :**

## ◆漢字に頼らないリスニング力

## 〔中国語Ⅰ・Ⅱ〕

金曜日 4 時限

開講単位 2 単位 担当者：稻葉 明子

◆**学習目標** 漢字の意味がわかるることは大きな強みでもあります。初期の閑門を越えるためには足枷になります。対面式授業の利点を發揮して中国語の発音を完全に理解し、漢字に頼らない中国語吸収の素地を作ります。語順・時量・アスペクト等、中国語特有の独特な世界観を、実際の場面から把握し、文法的理解へ繋げていきます。

◆**授業方法** 冒頭5回で発音体系を機械的に把握し、教科書本文に入ってからは新出単語を用いて大量の発音練習をすることによって、前には発音体系を完全に理解し、後期には中国人の納得する発音ができるようにします。各課本文と文法体系の把握も、毎回学習者自らの耳で探る展開で行い、自立的な言語習得に繋げます。

◆**準備学習** ある程度の基礎ができるまでは、敢えて予習はせず、指示通りの復習を必ず行ってください。教科書本文に入ってからは、毎回教科書本文についてディクテーション小テストを行います。この対策を毎回こなすことで、着実に実力がついていきます。教材音声に手軽に親しめる環境を工夫してください。（付属CDをプレーヤーに取り込む、出版社のHPにアクセスするなど）

◆**授業計画【各90分】**

1回目 ガイダンス	11回目 第5課 紹介と自己紹介	21回目 第13課 アルバイト
2回目 中国語の構造と音節表	12回目 第6課 家庭について	22回目 第14課 誕生パーティー
3回目 声調と母音	13回目 第7課 家はどこですか	23回目 第15課 電話を掛ける
4回目 子音1	14回目 前期まとめ	24回目 第16課 道を尋ねる
5回目 子音2	15回目 前期試験	25回目 第17課 レストランにて
6回目 第1課 発音総合	16回目 第8課 おいくつですか	26回目 第18課 ホテルにて
7回目 第2課 二音節のリズム	17回目 第9課 今何時ですか	27回目 第19課 インターネット
8回目 第2課 練習	18回目 第10課 何時に起きますか	28回目 第20課 分かりますか
9回目 第3課 姓名を聞く	19回目 第11課 いくらですか	29回目 総復習1
10回目 第4課 お詫びする	20回目 第12課 趣味は何ですか	30回目 総復習2

※別途、試験を実施する週（平成26年1月21日～24日）を設けています。

◆**教科書** 通材『中国語Ⅰ 0061』 通信教育教材（教材コード000456）2,750円（送料込）

〈この教材は市販の『中国語@キャンパス会話編（改訂版）』関中研（朝日出版社）と同一です〉

◆**参考書** 当日資料配布 その他プリントを配布。

◆**参考書** 教場で指示します。

◆**成績評価基準** 授業への取り組み、小テストなどにより総合的に評価します。試験は、リスニングが中心となります。受講前に予想できる内容ではなく、柔軟な発想が必要ですが、指示通りに取り組めば、難しいものではありません。

◆ **E-Mail :**

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」及び「氏名」を記入。例：「日本大学通信教育部 24131999 日大通子」

## ◆健康・体力の維持増進について考える

## 〔保健体育講義Ⅰ〕

9／2(月)～5(木)〔午前〕

開講単位 1 単位 担当者：吉本 俊明

◆**学習目標** 生涯を通じて最も大切な健康とは何か、また、健康・体力の維持増進のために何が必要かについての知識を身につけることは必要不可欠です。この授業では、それらの知識が生活習慣に結びつくことをねらいとしています。

◆**授業方法** 講義形式の授業ですが、毎回配布資料を準備し、それに沿って授業を進めます。また各授業の最後に講義内容から1問出題して解凍してもらい、評価の参考とします。

◆**準備学習** 健康・体力に関するマスコミの情報に注目するよう心がけてきてください。

◆**授業計画** [各 180 分] 授業時間は各日 9:00～12:00

9／2	午前	1回目 健康および健康管理について 体力の定義について
9／3	午前	2回目 エネルギー論的体力とその維持増進の方法について 呼吸循環器系体力とその維持増進の方法について
9／4	午前	3回目 スポーツ技能の上達とは何か、またその上達方法について レジャー・レクリエーションの必要性について
9／5	午前	4回目 健康と環境の関係について まとめ及び試験

◆**教科書** [当日資料配布] 授業時にプリントを配布します。

◆**参考書** 特になし。

◆**成績評価基準** 授業への取り組み及び試験結果を総合的に評価します。

◆**E-Mail :**

※この講座は、授業日程、時間及び会場が他の講座とは異なるため、注意してください。詳細については本誌 11、12 ページを参照すること。

## ◆運動・スポーツに親しむ

## 〔体育実技〕

9／2(月)～5(木)〔午後〕 及び 9／6(金)〔終日〕

開講単位 1 単位 担当者：吉本 俊明

◆**学習目標** 高齢社会を迎え、健康・体力の維持増進の必要性は益々重要になってきています。この授業では、運動・スポーツの実践を通して、その楽しさ、重要性を認識し、生活習慣にまで発展させることをねらいとしています。

◆**授業方法** 天候に左右されない体育館での授業とし、小グループでいろいろなスポーツ(ネット型球技)を体験しますが、年齢相応、体力相応の参加の仕方を理解してもらうようにします。また、体力測定を通して体力の現状を自覚し、維持増進についての認識を高めてもらうようにします。

◆**準備学習** 1日 20 分以上の連続歩行と、軽い柔軟運動の実施を心がけてきてください。

◆**授業計画** [各 230 分 (13:00～16:50)] [最終日のみ 470 分 (9:00～16:50)]

9／2	午後	1日目 ガイダンス、グループ分け、準備運動、レクリエーション、体力測定、体力の維持増進についての解説
9／3	午後	2日目 班別スポーツ種目の展開 (1)
9／4	午後	3日目 班別スポーツ種目の展開 (2)
9／5	午後	4日目 班別スポーツ種目の展開 (3)
9／6	午前	5回目 班別スポーツ種目の展開 (4)
	午後	6回目 班別対抗ソフトバレー大会

◆**教科書** 特になし。

◆**参考書** 特になし。

◆**成績評価基準** 授業への取組み及び自己の体力に合った運動への理解によって総合的に評価します。

◆**E-Mail :**

※この講座は、授業日程、時間及び会場が他の講座とは異なるため、注意してください。詳細については本誌 11、12 ページを参照すること。

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」及び「氏名」を記入。例：「日本大学通信教育部 24131999 日大通子」

## ◆語り継がれてきたもの 語り継ぐもの 〔国文学基礎講義〕

水曜日 4 時限

開講単位 4 単位 担当者：木村 一

◆**学習目標** 国文学研究のための基礎を学びます。研究のためのものの見方・ものの捉え方を具体的な作品を読むことで身につけることを目標とします。取り上げる作品は平安時代の文学作品です。本講義を次年度以降の研究の足掛かりとします。

◆**授業方法** 講義形式で行います。講義指定テキストの解説とあわせて、実際に文学作品を読んでいきます。ただし、各自積極的な考察を試みるために、講義時間内に小課題を課すこととします。

◆**準備学習** 講義ノートを積極的に取ること。その講義ノートを基に、予習復習をしっかりとすること。

### ◆授業計画〔各 90 分〕

1回目 導入 どう進めるか	11回目 『伊勢物語』入門	21回目 光源氏の結婚とタブー
2回目 『古今和歌集』について	12回目 みやび と「昔男」	22回目 葵巻とそれ以前の巻
3回目 『古今和歌集』の時代	13回目 虚構と史実	23回目 葵と六条御息所
4回目 国風暗黒時代とは	14回目 語り手と読み手	24回目 車の所争い
5回目 二つの序文	15回目 物語を物語るということ	25回目 苦惱と物の怪
6回目 仮名序とその展開	16回目 『源氏物語』入門	26回目 葵の出産と物の怪
7回目 撰者の意識と意図	17回目 「源氏」は世界に誇れる?	27回目 その後の展開
8回目 和歌から物語へ	18回目 桐壺巻と第二皇子の誕生	28回目 光源氏は「ダメんず」
9回目 物語とは	19回目 帝とその更衣の死	29回目 野宮の別れ
10回目 物語文学の展開	20回目 第二皇子の臣籍降下	30回目 私たちの生きる世界とは

※別途、試験を実施する週（平成 26 年 1 月 21 日～24 日）を設けています。

◆**教科書** 丸沼『日本古典文学史』 乾安代 櫻井武次郎 新間一美 西島孜哉 毛利正守著 双文社出版 1,785 円（税込）（送料 340 円）

◆**参考書** 「古語辞典」があると良い。電子辞書が便利。〔当日資料配布〕必要に応じ、作品・資料プリントを当日配布する。

◆**成績評価基準** 毎回出席することを前提とし、講義への取り組み・小課題の状況により総合的に評価する。  
受講状況（10%）・小課題（10%）・試験（80%）

◆ E-Mail :

## ◆生成文法の基本を

〔英語学概説〕

木曜日 2 時限

開講単位 4 単位 担当者：真野 一雄

◆**学習目標** 生成文法の理論について学びます。私たちが学んだ学校文法はいわゆる伝統文法を踏まえたものですが、それとは全く異なる生成文法の基礎についての知識を習得します。

◆**授業方法** 各章冒頭のイントロダクション（英文）を読み、本文（和文）の解説、確認します。必要に応じて担当者が作成する練習問題を行う場合もあるでしょう。章末の練習問題を行います。

◆**準備学習** テキストはあらかじめ読んでおいてください。

### ◆授業計画〔各 90 分〕

1回目 第1章 文法とは	11回目 第3章 語彙	21回目 第6章 DP 移動
2回目 第1章 文法とは	12回目 第4章 文の構造	22回目 第7章 主要部の移動
3回目 第1章 文法とは	13回目 第4章 文の構造	23回目 第7章 主要部の移動
4回目 第1章 文法とは	14回目 第4章 文の構造	24回目 第7章 主要部の移動
5回目 第2章 句の構造	15回目 前期試験	25回目 第8章 Wh- 疑問文
6回目 第2章 句の構造	16回目 第5章 非時制文	26回目 第8章 Wh- 疑問文
7回目 第2章 句の構造	17回目 第5章 非時制文	27回目 第8章 Wh- 疑問文
8回目 第2章 句の構造	18回目 第5章 非時制文	28回目 第9章 存在分
9回目 第3章 語彙	19回目 第6章 DP 移動	29回目 第9章 存在分
10回目 第3章 語彙	20回目 第6章 DP 移動	30回目 第9章 存在分

※別途、試験を実施する週（平成 26 年 1 月 21 日～24 日）を設けています。

◆**教科書** 丸沼『現代の英文法—新しい文法理論へのいざない』 金星堂 2,730 円（税込）（送料 340 円）

◆**参考書** 英語学入門書、英語学概説書。

◆**成績評価基準** 前期試験（50%）、後期試験（50%）（試験は途中退出なしです）。前期試験未受験者は後期授業の受講資格を失います。毎回出席することを前提として評価します。

◆ E-Mail :

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」及び「氏名」を記入。例：「日本大学通信教育部 24131999 日大通子」

## ◆西洋近代の思考法と人間観を理解する

## 〔哲学基礎講読〕

金曜日 4 時限

開講単位 4 単位 担当者：瀧田 寧

◆**学習目標** 現代の私たちが受け入れている考え方の多くが、17世紀以降の西洋で発展した学問に依拠していることを考えると、その学問の前提となる思考法や人間観を学ぶことは重要であると言える。本講義では、17世紀ヨーロッパに誕生したデカルトの『方法序説』とアルノー・ニコルの『論理学、別名思考の技法』を読解しながら、そこに見いだされる思考法や人間観を考察し、その内容を自分なりに説明できるようになることを目標とする。

◆**授業方法** 講義形式で進めるが、講読の授業なので、まずは皆さんにテキストを順番に読んでいただく。但し、テキストは一読して直ちに理解できるものではないので、講師の方でも同じ文章を繰り返し読みながら解説を加える。また、講義後は毎回「コメント」を書いていただく（1～3,16,30回目は除く）。なお、講義形式なので、質問や意見等は授業後に受けるが、特に重要だと判断した講義後の「コメント」は、授業の中で紹介することもある。

◆**準備学習** ルネ・デカルトという哲学者の著書名やキーワードを哲学史の概説書などで自分なりに調べておくと、授業への参加意欲も高まると思います。また、テキストの解説部分にざっと目を通しておくのもよいでしょう。

さらに、講義後の学習も重要です。講義で自分なりに关心を持ったことがあれば、すぐに調べてみましょう。それが、次回以降の授業内容の理解に何らかの形でつながってくる、ということもあります。

### ◆授業計画〔各 90 分〕

1回目 本講義の方法・計画等の説明	11回目 『方法序説』のまとめ	21回目 『思考の技法』第1部（5）
2回目 17世紀西洋思想の流れ（年表を中心に）	12回目 『思考の技法』の概略説明	22回目 『思考の技法』第3部第20章（1）
3回目 デカルト哲学の概略説明	13回目 『思考の技法』の第一序説～前文（1）	23回目 『思考の技法』第3部第20章（2）
4回目 『方法序説』第1部	14回目 『思考の技法』の第一序説～前文（2）	24回目 『思考の技法』第4部（1）
5回目 『方法序説』第2部	15回目 『思考の技法』の第一序説～前文（3）	25回目 『思考の技法』第4部（2）
6回目 『方法序説』第3部	16回目 小論文	26回目 『思考の技法』第4部（3）
7回目 『方法序説』第4部（1）	17回目 『思考の技法』第1部（1）	27回目 『思考の技法』第4部（4）
8回目 『方法序説』第4部（2）	18回目 『思考の技法』第1部（2）	28回目 『思考の技法』第4部（5）
9回目 『方法序説』第5部（1）	19回目 『思考の技法』第1部（3）	29回目 『思考の技法』のまとめ
10回目 『方法序説』第5部（2）	20回目 『思考の技法』第1部（4）	30回目 『思考の技法』以後の展開

※別途、試験を実施する週（平成26年1月21日～24日）を設けています。

◆**教科書** 丸沼『方法序説・情念論』デカルト 野田又夫訳 中公文庫 740円（税込）（送料260円）  
通材『哲学基礎講読 0091』通信教育教材（教材コード000042）3,650円（送料込）

◆**参考書** 授業の中で紹介する。

◆**成績評価基準** 平常点（毎回の講義終了後に書いていただく「コメント」及び16回目の「小論文」）（50%）、試験（50%）

◆ E-Mail :

## ◆歴史研究の基礎知識

## 〔日本史入門〕

火曜日 3 時限

開講単位 4 単位 担当者：竹中 真幸

◆**学習目標** 歴史、特に前近代の歴史を学ぶ場合、それがいかなる時代・分野であろうと知っておかなければならぬ事柄がある。本授業では、その主たるものを選んで講義を行う。

◆**授業方法** 歴史研究に必須の諸事情を、出来る限り関係資料を提示しつつ、受講生自らも考える内容としたい。

◆**準備学習** 特になし。

### ◆授業計画〔各 90 分〕

1回目 ガイダンス	11回目 度量衡（1）	21回目 徳川大名の分類（1）
2回目 史料に見る用字・用語	12回目 度量衡（2）	22回目 徳川大名の分類（2）
3回目 史料の読み解き（1）	13回目 幣制（1）	23回目 徳川大名の分類（3）
4回目 史料の読み解き（2）	14回目 幣制（2）	24回目 幕府・藩の職制（1）
5回目 時刻（時法）について（1）	15回目 前期のまとめ	25回目 幕府・藩の職制（2）
6回目 時刻（時法）について（2）	16回目 方位	26回目 百姓身分の成立（1）
7回目 曆法について	17回目 国名・五畿七道	27回目 百姓身分の成立（2）
8回目 年号と干支（1）	18回目 官制	28回目 近世の商業・流通機構（1）
9回目 年号と干支（2）	19回目 季節・節気・雑説	29回目 近世の商業・流通機構（2）
10回目 旧暦の月	20回目 幕藩体制	30回目 後期のまとめ

※別途、試験を実施する週（平成26年1月21日～24日）を設けています。

◆**教科書** 通材『日本史入門 0095』通信教育教材（教材コード000484）3,400円（送料込）  
〈この教材は市販の『方法教養の日本史』竹内誠他著（東京大学出版会）と同一です〉

※平成25年度改訂教材

◆**参考書** 授業中に適宜紹介する。

◆**成績評価基準** 平常点（30%）、試験（70%）

◆ E-Mail :

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」及び「氏名」を記入。例：「日本大学通信教育部 24131999 日大通子」

## ◆清朝史研究の基礎

## 〔東洋史入門〕

木曜日 2 時限

開講単位 4 単位

担当者：綿貫 哲郎

◆**学習目標** 現代中国の領土・民族を理解する上で清朝（1636-1912年）の理解は欠かせない。このような清朝は単なる中華王朝の視座だけでなく、中央ユーラシアの遊牧帝国からの視座も欠かせない。東洋史学の立場から清朝の研究史や先行研究を学び、論文作成のための基礎知識（概説書・工具書・入門書や研究施設・図書館などを紹介）を理解することを目標とする。

◆**授業方法** 以下の授業計画（予定）に沿って講義形式でおこなう。講義の理解を深めるため、視覚資料を適宜併用する。また法学部図書館などでの実習作業を数回予定している。授業時間内外でのレポートを課す予定である。

◆**準備学習** 予習は指定された場合以外必要ないが、復習は隨時おこなってもらいたい。授業で紹介する内容をもとに自分自身が卒業論文を作成するための研究方法を確立してもらいたい。

## ◆授業計画【各 90 分】

1回目 ガイダンス、導入	11回目 「東洋史」研究の方法⑥	21回目 清朝史研究と資料⑥
2回目 「東洋史」とは何か	12回目 「東洋史」研究の方法⑦	22回目 清朝史研究と資料⑦
3回目 「東洋史」の成立①	13回目 「東洋史」研究の方法⑧	23回目 清朝史研究と資料⑧
4回目 「東洋史」の成立②	14回目 「東洋史」研究の方法⑨	24回目 清朝史研究と資料⑨
5回目 「東洋史」の成立③	15回目 前半のまとめ	25回目 清朝史研究と資料⑩
6回目 「東洋史」研究の方法①	16回目 清朝史研究と資料⑪	26回目 清朝史研究と資料⑪
7回目 「東洋史」研究の方法②	17回目 清朝史研究と資料⑫	27回目 清朝史研究と資料⑫
8回目 「東洋史」研究の方法③	18回目 清朝史研究と資料⑬	28回目 清朝史研究と資料⑬
9回目 「東洋史」研究の方法④	19回目 清朝史研究と資料⑭	29回目 清朝史研究と資料⑭
10回目 「東洋史」研究の方法⑤	20回目 清朝史研究と資料⑮	30回目 後半のまとめ

※別途、試験を実施する週（平成26年1月21日～24日）を設けています。

◆**教科書** **〔当日資料配布〕**プリントを配布する。

◆**参考書** 授業時間中に適宜指示する。

◆**成績評価基準** 試験（60%）、平常点【授業態度・課題への取り組み・レポートなど】（40%）

◆**E-Mail :**

## ◆法に関する常識を疑ってみませんか？

## 〔法哲学〕

火曜日 2 時限

開講単位 4 単位

担当者：高須 則行

◆**学習目標** 皆さんは法についての何らかのイメージを持っていることでしょう。そのイメージをちょっとばかり疑ってみませんか？ というのも、法哲学は「当たり前」と思われて、誰からも疑われてこなかった法的な事柄をひとまず疑つてみて、その上で、できる限りその根拠を探り当ててみようとする知的営みだからです。そのことによって、自分たちの抛って立つ知的基盤を反省し、より深い知識を習得してもらうことを目標としています。

◆**授業方法** 講義形式で行いますが、その都度、受講生の皆さんに質問し、自らの考えを述べてもらいたいと思っています。そのような双方向の授業を心掛けていきたいと思います。

受講者の人数にもありますが、ゼミ形式で授業を進めることも考えています。

◆**準備学習** 新聞等で社会的な問題を意識しておいてください。

## ◆授業計画【各 90 分】

1回目 法哲学へのいざない	11回目 法思想（X）イエーリング：構成法学	21回目 法の目的（I）
2回目 法思想（I）ケルゼン（1）：純粹法学	12回目 法思想（XI）ヘック：利益法学	22回目 法の目的（II）
3回目 法思想（II）ケルゼン（2）：純粹法学	13回目 法思想（XII）サヴィニー：歴史法学	23回目 法の目的（III）
4回目 法思想（III）ラードブルフ：価値相対主義法哲学	14回目 法思想（XIII）ホームズ：プラグマティズム法学	24回目 デモクラシー論（I）
5回目 法思想（IV）ハート（1）：ルールの法理論	15回目 法思想の整理	25回目 デモクラシー論（II）
6回目 法思想（V）ハート（2）：ルールの法理論	16回目 法の種類と構造（I）	26回目 デモクラシー論（III）
7回目 法思想（VI）フラー：自然法論	17回目 法の種類と構造（II）	27回目 生命と法（I）
8回目 法思想（VII）ロールズ：公正としての正義論	18回目 法の種類と構造（III）	28回目 生命と法（II）
9回目 法思想（VIII）ドゥオーキン：統合としての法理論	19回目 法の機能（I）	29回目 生命と法（III）
10回目 法思想（IX）：共同体論	20回目 法の機能（II）	30回目 生命と法（IV）

※別途、試験を実施する週（平成26年1月21日～24日）を設けています。

◆**教科書** **〔当日資料配布〕**授業中にプリントを配布します。

◆**参考書** その都度、授業中に指示します。

◆**成績評価基準** 前期と後期に試験を実施し、前期（50%）・後期（50%）の得点によって総合的に評価します。

◆**E-Mail :**

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」及び「氏名」を記入。例：「日本大学通信教育部 24131999 日大通子」

## ◆憲法を考える

〔憲法〕

木曜日 2 時限

開講単位 4 単位 担当者：名雪 健二

◆**学習目標** 憲法は、国家の在り方を規定した基本法である。したがって、憲法を知ることは、われわれが国家生活をしていく上で極めて重要である。

◆**授業方法** 憲法の解釈論が中心となるが、憲法を理解するための前提として、その基礎概念、基本原理もみていく。また、生きた憲法を知るために、判例を取り上げる。そのための資料として、授業に関連する判例を配布する。

◆**準備学習** 授業計画が1回から30回まで記載されているので、授業を理解する前提として、教材をよく読んでおくことと授業の範囲における専門用語については、法学（法律学）辞典を引き、その意味を正確に理解しておくこと。

◆**授業計画〔各 90 分〕**

1回目 ガイダンス、憲法の概念、憲法の分類	11回目 表現の自由	21回目 議員の権能
2回目 日本国憲法制定の法理、日本国憲法の構造	12回目 表現の自由、経済的自由	22回目 内閣の性格・組織
3回目 憲法の基本原理、天皇	13回目 経済的自由、自身の自由	23回目 内閣総理大臣の地位・権能
4回目 天皇	14回目 社会権	24回目 内閣総理大臣の権能
5回目 人権総論	15回目 国務請求権、参政権、前期の総括	25回目 内閣の総辞職、内閣の権能、内閣の責任
6回目 人権総論	16回目 国会の性格、国会の組織	26回目 裁判所の性格、最高裁判所
7回目 人権総論	17回目 国会議員の特典、国会の活動	27回目 最高裁判所
8回目 思想および良心の自由	18回目 国会の活動、国会の権能	28回目 下級裁判所
9回目 信教の自由	19回目 国会の権能	29回目 地方自治
10回目 学問の自由	20回目 議員の権能	30回目 後期の総括

※別途、試験を実施する週（平成26年1月21日～24日）を設けています。

◆**教科書** 丸沼『日本国憲法』名雪健二 有信堂 3,675円（税込）（送料390円）

◆**参考書** 丸沼『増補ゼミナール憲法』名雪健二他 南窓社 3,360円（税込）（送料390円）

◆**成績評価基準** 授業態度・小テスト（前期2回・後期2回）・スクーリングの最終試験により総合的に評価する。

◆**E-Mail :**

## ◆民法入門

〔民法〕

火曜日 4 時限

開講単位 4 単位 担当者：根本 晋一

◆**学習目標** 大学に学び、学士の称号を取得する者に相応しい法的教養、とりわけ私人の生活関係にかかる法律問題、つまり財産や身分および相続の関係を規律する民法領域の法的教養の涵養をめざす。なお、本講座の目的は、私法の一般法である民法の全体構造を理解することであり、個別の解釈上の争点を深く追求することではない。したがって、法律学科以外の科目を主攻する学生であったとしても、講義内容を容易に理解できるように、可能な限り平易な解説に努める。なお、時間の都合により財産法の解説に重点を置くので、家族法について詳しくは別講座「民法V」を履修することを推奨する。

◆**授業方法** 講義形式を採用する。シラバス（学習計画）は凡その目安である。法改正や新判例、新論点を追加した場合、シラバスと進行に齟齬が生じる場合もある。

◆**準備学習** 前回講義における板書事項を、しっかりと読み直してくること。それが本講義における予習であり、準備学習である。

◆**授業計画〔各 90 分〕**

1回目 ガイダンス	11回目 債権総論の解説②	21回目 債権各論（契約各論の解説）④
2回目 民法総則の解説①	12回目 債権総論の解説③	22回目 債権各論（法定債権の解説）①
3回目 民法総則の解説②	13回目 債権総論の解説④	23回目 債権各論（法定債権の解説）②
4回目 民法総則の解説③	14回目 債権各論（契約総論）の解説①	24回目 債権各論（法定債権の解説）③
5回目 民法総則の解説④	15回目 債権各論（契約総論）の解説②	25回目 債権各論（法定債権の解説）④
6回目 物権法と担保物権法の解説①	16回目 債権各論（契約総論）の解説③	26回目 家族法（親族・相続）の解説①
7回目 物権法と担保物権法の解説②	17回目 債権各論（契約総論）の解説④	27回目 家族法（親族・相続）の解説②
8回目 物権法と担保物権法の解説③	18回目 債権各論（契約各論の解説）①	28回目 家族法（親族・相続）の解説③
9回目 物権法と担保物権法の解説④	19回目 債権各論（契約各論の解説）②	29回目 家族法（親族・相続）の解説④
10回目 債権総論の解説①	20回目 債権各論（契約各論の解説）③	30回目 筆記試験（レポートの場合は実施しない）

※別途、試験を実施する週（平成26年1月21日～24日）を設けています。

◆**教科書** 指定しない。

◆**参考書** 「法学」や「民法 I～V」などの通信教育教材を、学生諸君が適宜参照すること。その他の文献については、講義開始後に紹介する。

◆**成績評価基準** 筆記試験またはレポートの成績・授業態度等を、総合的に考慮する。

◆**E-Mail :**

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」及び「氏名」を記入。例：「日本大学通信教育部 24131999 日大通子」

## ◆債権各論の体系と論点

## 〔民法IV〕

火曜日 3 時限

開講単位 4 単位

担当者：根本 晋一

◆学習目標 1 民法学における、債権各論の体系的な位置付を理解する。

2 債権各論の体系（全体像）を理解する。

3 1, 2 の理解および修得を前提として、債権各論に関する論点を理解する。

◆授業方法 講義形式を採用する。シラバス（学習計画）は凡その目安である。法改正や新判例、新論点を追加した場合、シラバスと進行に齟齬が生じる場合もある。

◆準備学習 前回講義における板書事項を、しっかりと読み直していくこと。それが本講義における予習であり、準備学習である。

◆授業計画〔各 90 分〕

1回目 ガイダンス	11回目 契約総論⑧	21回目 法定債権①
2回目 学習目標 1, 2 ①	12回目 契約総論⑨	22回目 法定債権②
3回目 学習目標 1, 2 ②	13回目 契約各論①	23回目 法定債権③
4回目 契約総論①	14回目 契約各論②	24回目 法定債権④
5回目 契約総論②	15回目 契約各論③	25回目 法定債権⑤
6回目 契約総論③	16回目 契約各論④	26回目 法定債権⑥
7回目 契約総論④	17回目 契約各論⑤	27回目 法定債権⑦
8回目 契約総論⑤	18回目 契約各論⑥	28回目 法定債権⑧
9回目 契約総論⑥	19回目 契約各論⑦	29回目 法定債権⑨
10回目 契約総論⑦	20回目 契約各論⑧	30回目 補 遺

※別途、試験を実施する週（平成 26 年 1 月 21 日～24 日）を設けています。

◆教科書 指定しない。

◆参考書 通材『民法IV 0135』 通信教育教材（教材コード 0000355） 2,800 円（送料込）

丸沼『じつは身近な債権法—知って得する！ 契約、損害賠償制度 etc…の「基礎知識」』 山川一陽著  
日本加除出版株式会社 3,360 円（税込）（送料 340 円）丸沼『債権各論講義（改訂版）』 山川一陽著 立花書房 3,300 円（税込）（送料 390 円）  
その他の文献については適宜紹介する。

◆成績評価基準 筆記試験またはレポートの成績・授業態度等を、総合的に考慮する。

◆E-Mail :

## ◆民法から家族のあり方を考える

## 〔民法V〕

金曜日 5 時限

開講単位 4 単位

担当者：堀切 忠和

◆学習目標 民法が念頭におく家族法の姿を知り、また夫婦・親子に関する法的問題とその課題を学ぶ。  
相続という、人の死亡による財産関係の清算のあり方を学び、相続にまつわる紛争の予防を考える。  
また、相続を通じて民法の財産法に関する総復習を行う。

◆授業方法 講義形式で行う。受講人数によっては、適宜、意見交換等を行う場を設けたい。

◆準備学習 特別な事前学習は望まない。復習を中心に学習して欲しい。

但し、講義で扱う内容が豊富なので、授業のペースが速いと感じる人は、事前にテキストや配付資料に目を通しておいて欲しい。

◆授業計画〔各 90 分〕

1回目 ガイダンス、民法の学び方	11回目 親権について	21回目 相続財産の共有
2回目 民法とはどのような法律か。	12回目 親子関係を巡る課題 (学校トラブルなどから)	22回目 相続財産の分割（遺産分割）
3回目 民法の基本原則と家族法の基本原則	13回目 親子関係をめぐる課題 (子どものシェルター、自立支援)	23回目 特別受益と寄与分
4回目 家事事件の特質、家庭裁判所の役割	14回目 後見	24回目 相続の承認と放棄
5回目 婚姻の成立、無効、取消し	15回目 任意後見、保佐、補助扶養、養育費をめぐる諸問題	25回目 財産分離、相続財産の破産
6回目 婚姻の効力、婚約、内縁	16回目 相続法の歴史と相続の根拠	26回目 相続人の不存在
7回目 婚姻の解消	17回目 相続の開始とその原因	27回目 遺言の意義と機能
8回目 実親子	18回目 相続人と相続分	28回目 遺言の効力
9回目 養子	19回目 配偶者相続、代襲相続	29回目 遺贈をめぐる問題
10回目 親子関係を巡る課題 (生殖補助医療など)	20回目 相続財産の範囲と相続回復請求	30回目 遺留分制度

※別途、試験を実施する週（平成 26 年 1 月 21 日～24 日）を設けています。

◆教科書 通材『民法V 0137』 通信教育教材（教材コード 000059） 2,400 円（送料込）

◆参考書 講義内で、適宜紹介するので、関心のあるものについて、各自利用して欲しい。

◆成績評価基準 毎回出席を前提とし、筆記試験の結果によってのみ評価する。

◆E-Mail :

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」及び「氏名」を記入。例：「日本大学通信教育部 24131999 日大通子」

## ◆企業活動を規律する諸法規を考える

〔商法Ⅰ〕

火曜日 4 時限

開講単位 4 単位 担当者：高岸 直樹

◆**学習目標** 企業活動に関する諸法規への基礎的な理解を得ることを目的とします。商法総則・商行為法を中心に、民法、会社法、独占禁止法、保険法等との接点、さらには、会計、登記、国際取引などの企業実務の基礎についても学んでいきます。これらを通じて、今後、企業活動の具体的な場面において、適用される法規制を参考し、対応する力を養います。

◆**授業方法** 講義形式で行います。授業では、まず入門編から講義し、さらに判例の検討も行います。授業では発言が求められ、小テストも実施します。単なる知識の習得だけでなく、自分なりに考えを組み立て、展開することが必要となります。まずは講義をしっかりと聞き、「考え方」のポイントを学んでください。なお、毎回、出席を確認します。

◆**準備学習** 授業前に教科書の該当ページに目を通してください。また、その際に六法で参照条文を確認しておきましょう。授業中はメモをとり、授業後は、参考文献等も活用して、ノートを整理し、マイ・ノートを完成しましょう。返却された小テストも復習に用いましょう。また、新聞・テレビ等の経済ニュースに接し、自分の考えをまとめてみましょう。

◆**授業計画** [各 90 分]

1回目 企業とはなにか	11回目 商業使用人	21回目 場屋取引
2回目 商法の意義	12回目 代理商	22回目 ファイナンス1
3回目 商法の適用	13回目 売買仲介	23回目 ファイナンス2
4回目 商人	14回目 消費者取引	24回目 決済システム1
5回目 営業	15回目 國際売買取引	25回目 決済システム2
6回目 商号	16回目 電子売買取引	26回目 公正取引1
7回目 名板貸	17回目 運送仲介取引	27回目 公正取引2
8回目 商業帳簿	18回目 陸運取引	28回目 リスク対応1
9回目 商業登記	19回目 海運・空運取引	29回目 リスク対応2
10回目 営業譲渡	20回目 倉庫取引	30回目 講義のまとめ

※別途、試験を実施する週（平成 26 年 1 月 21 日～24 日）を設けています。

◆**教科書** 丸沼『現代商取引法』 藤田勝利 工藤聰一編 弘文堂 2,940 円（税込）（送料 340 円）

◆**参考書** 六法（最新版）

丸沼『商法（総則・商行為）判例百選 第 5 版』 有斐閣 2,520 円（税込）（送料 340 円）

◆**成績評価基準** 授業中に実施する小テスト 20%，平常点 20%，最終試験 60%

◆ E-Mail :

## ◆人間とは何かを考える刑法学

〔刑法Ⅰ〕

木曜日 2 時限

開講単位 4 単位 担当者：船山 泰範

◆**学習目標** 犯罪の成立要件をしっかりと理解することを目標とする。  
そのプロセスで、犯罪が人間にとってどのような意味があるのか、を考えることにしたい。

◆**授業方法** 刑法学は論理の問題であるので、できるだけ、いわゆるソクラテス・メソッドをとりいれて授業を活性化させたい。  
裁判傍聴を実施する。受講生は積極的に質問をしてほしい。必ず六法を持参すること。

◆**準備学習** 教科書は早めに読み進めてほしい。

◆**授業計画** [各 90 分]

1回目 刑法の役割	11回目 故意犯と過失犯	21回目 未遂と既遂、中止犯、不能犯
2回目 人間の行為と責任	12回目 因果関係	22回目 同時犯と共同正犯
3回目 刑事手続、刑事裁判の基本原則	13回目 具体的事実の誤認	23回目 共謀共同正犯、承継的共同正犯
4回目 罪刑法定主義	14回目 抽象的事実の誤認	24回目 間接正犯、教唆犯、帮助犯
5回目 責任主義	15回目 裁判傍聴（裁判員裁判）	25回目 身分犯と共犯
6回目 刑罰の内容と本質、犯罪統計	16回目 正当防衛、緊急避難	26回目 共犯と他の論点
7回目 犯罪論への期待	17回目 正当行為、被害者の承諾	27回目 罪数以前、罪数
8回目 犯罪成立要件（1）	18回目 違法性の本質	28回目 刑法の適用範囲
9回目 犯罪成立要件（2）	19回目 刑事未成年、心神喪失	29回目 刑の適用
10回目 不作為犯	20回目 期待可能性	30回目 更正のための刑罰

※別途、試験を実施する週（平成 26 年 1 月 21 日～24 日）を設けています。

◆**教科書** 丸沼『刑法学講話〔総論〕』 船山泰範 成文堂 3,885 円（税込）（送料 390 円）

丸沼『刑法演習 50 選』 船山・清水・中村編著 北樹出版 2,730 円（税込）（送料 390 円）

◆**参考書** 丸沼『ホーンブック新刑法総論』 船山泰範編著 北樹出版 2,730 円（税込）（送料 390 円）

◆**成績評価基準** 期末試験 80%，レポート・参観等への参加 20%

◆ E-Mail :

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」及び「氏名」を記入。例：「日本大学通信教育部 24131999 日大通子」

## ◆政治を見る眼を養う

## 〔政治学原論〕

金曜日 3 時限

開講単位 4 単位 担当者：吉野 篤

◆**学習目標** 政治という概念・現象が歴史的にどのように捉えられてきたかを理解するのと同時に、具体的な政治過程、また、学としての政治学がどのように発展してきたかを考えることによって、政治学の全体像を理解すること。

◆**授業方法** 講義形式。今日的な政治問題を検討するために、時宜に応じて主として新聞報道を資料として配布する。

◆**準備学習** 授業計画の内容を事前に予習することが望ましい。新聞を注意深く読んで、問題となっている政治問題に関心を高めることも肝要である。また、特に主要新聞の社説などを通じて日本語の文章力・理解力を養うことも重要である。

## ◆授業計画〔各 90 分〕

1回目 全体の内容の概説	11回目 国家像の変容	21回目 選挙の原則・機能
2回目 古典古代の政治概念	12回目 市民社会から大衆社会へ	22回目 選挙制度の諸問題
3回目 中世ヨーロッパの政治像	13回目 大衆社会の政治理論	23回目 利益集団・圧力団体
4回目 近代の政治概念	14回目 大衆の社会心理	24回目 政治学の科学化過程①
5回目 社会契約説	15回目 ファシズムの形態	25回目 政治学の科学化過程②
6回目 保守主義の考え方	16回目 政治的無関心の諸問題	26回目 政治学の科学化過程③
7回目 19世紀の政治概念	17回目 政治権力の構造と特質	27回目 脱行動論革命
8回目 20世紀の政治概念の特質	18回目 政党の定義・機能	28回目 行動論以後の動向
9回目 ウェーバーの社会科学論	19回目 政党システムの類型学①	29回目 新制度論の枠組み①
10回目 丸山真男の政治概念	20回目 政党システムの類型学②	30回目 新制度論の枠組み②

※別途、試験を実施する週（平成 26 年 1 月 21 日～24 日）を設けています。

◆**教科書** 丸沼『政治学』 山田光矢編著 弘文堂 2,100 円（税込）（送料 340 円）

◆**参考書** 丸沼『デモクラシーの政治学』 杉本稔著 北樹出版 2,625 円（税込）（送料 340 円）

◆**成績評価基準** 試験により評価する。

◆**E-Mail :**

## ◆近代日本の歩みを通じて将来を考える

## 〔日本政治史〕

火曜日 4 時限

開講単位 4 単位 担当者：黒川 貢三郎

◆**学習目標** 幕末から明治・大正・昭和時代に生起してきた政治問題について講述し、そこから将来を見る目を養っていきたい。

◆**授業方法** テキストに沿って講述する。受講に際しては必ずノートを持参するように。

◆**準備学習** 開講日初日に詳細にわたって説明する。

## ◆授業計画〔各 90 分〕

1回目 幕藩体制の内部矛盾の概要	11回目 国内整備と財政再建	21回目 大正の政変
2回目 安政の改革と違勅調印	12回目 産業の育成と庶民の啓蒙	22回目 平民政相内閣の誕生
3回目 開國論と攘夷論	13回目 征韓論争と自由民権運動	23回目 政党政治の隆盛と国際協調
4回目 長州戦争と幕府権力の衰退	14回目 西南戦争と政党の誕生	24回目 国際連盟の脱退と軍閥
5回目 大政奉還運動	15回目 藩閥政府と民党との抗争	25回目 日中戦争と第二次世界大戦
6回目 戊辰戦争	16回目 内閣制度の創設	26回目 対日占領政策
7回目 幕末維新と民衆	17回目 大日本帝国憲法の制定	27回目 政党政治の復活
8回目 明治政府の誕生	18回目 初期議会と日清戦争	28回目 55年体制と対米ソ関係
9回目 版籍奉還と廢藩置県	19回目 藩閥政府から政党政治へ	29回目 経済成長と外交
10回目 藩閥有司政権と国際関係	20回目 日露戦争と桂園交代	30回目 政党再編への胎動

※別途、試験を実施する週（平成 26 年 1 月 21 日～24 日）を設けています。

◆**教科書** 通材『日本政治史 0213』 通信教育教材（教材コード 000452） 3,050 円（送料込）

◆**参考書** 講義の際に随時紹介する。

◆**成績評価基準** 中間試験と学年末試験の結果を総合的に勘案して評価する。

◆**E-Mail :**

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」及び「氏名」を記入。例：「日本大学通信教育部 24131999 日大通子」

## ◆行政を基礎から学びましょう

〔行政学〕

木曜日 1 時限

開講単位 4 単位

担当者：関根 二三夫

◆**学習目標** 20世紀に入り顕著になってきた行政の多様化、複雑化に伴う行政国家化は、議会政治との軋轢を生じさせることになりました。行政が持つ機能面や制度面の特徴を国家との関連において把握し、国家と行政とが如何なる関係にあるかを学びます。

◆**授業方法** 講義形式で行います。講義においては、受講生の行政に関する問題意識を高め、それに対する解決能力を啓発するように進めて行きます。講義で知り得た内容が、如何なる意義を有するのか、それが個人や社会や国家にとってどのように関係してくるのかを客観的に理解しなければなりません。受講に際しては、予習や復習が必要になります。

◆**準備学習** 内閣や大統領を頂点とする行政部で、どのようなことが行われているか、また、内閣や大統領と議会との関係はどのようにになっているかなどを、メディアの記事などを参考して考え、問題点を把握するように心掛けてください。

◆**授業計画** [各 90 分]

1回目 講義全体の概要説明	11回目 行政組織（ラインとスタッフ）	21回目 行政管理（コミュニケーションの方向性）
2回目 行政の概念	12回目 官僚制（概念・特徴）	22回目 行政管理（リーダーシップと指導者の役割）
3回目 行政学の変遷（官房学との関係）	13回目 官僚制（発達の根拠）	23回目 行政統制（外在的統制）
4回目 ロレンツ・フォン・シュタインの行政学	14回目 公務員制（沿革）	24回目 行政統制（内在的統制）
5回目 科学的管理法と行政学	15回目 公務員制（ボイルズシステムとメリットシステム）	25回目 情報公開（意義）
6回目 政治と行政との関係（二分論・連続論・関連論）	16回目 わが国の公務員制（沿革）	26回目 情報公開（プライバシーの保護）
7回目 国家概念と国家機関	17回目 わが国の公務員制（メリットシステムと職階制）	27回目 オンブズマン制度
8回目 国家成立の要素	18回目 行政管理（原則）	28回目 わが国の行政相談
9回目 現代国家と行政（立法国家から行政国家へ）	19回目 行政管理（機能）	29回目 地方自治（沿革）
10回目 行政組織（組織原則・部門化）	20回目 行政管理（コミュニケーションの機能と類型）	30回目 講義内容の総括

※別途、試験を実施する週（平成 26 年 1 月 21 日～24 日）を設けています。

◆**教科書** 通材『行政学 0221』 通信教育教材（教材コード 000084） 2,700 円（送料込）

◆**参考書** なし。

◆**成績評価基準** 試験 70%，平常点 30%

※試験同様、質問や小テストへの解答等の平常点も重視しますので、受講に際しては欠席をしないよう注意してください。

◆ E-Mail :

## ◆国際政治を探る

〔国際政治学〕

火曜日 2 時限

開講単位 4 単位

担当者：大八木 時広

◆**学習目標** この授業では現代の国際政治にさまざまな点から切り込む。具体的には国際政治の基本的概念（国家、パワーなど）、NGO と国際政治の関係、グローバルな課題、国際政治理論などを取り上げる。

◆**授業方法** 基本的には講義が主体となる。ただし一方的講義だけでなく、対話形式、討論形式も試みる予定。また授業の終わりには毎回、小テストを兼ねたまとめを書いてもらう予定。

◆**準備学習** 事前に教科書を読んで概略を予習しておくことが望ましい。

予習の際には、詳細な点はともかくとして、大きな流れを理解しておくことが望ましい。

◆**授業計画** [各 90 分]

1回目 現代国際政治の特色	11回目 環境問題と NGO	21回目 ネオアリанизムの理論
2回目 国際政治の概念（1）	12回目 人権と NGO（1）	22回目 リベラリズムの新展開
3回目 国際政治の概念（2）	13回目 人権と NGO（2）	23回目 地域（1）EU 史①
4回目 アクターとは何か（1）	14回目 開発援助と NGO（1）	24回目 地域（2）EU 史②
5回目 アクターとは何か（2）	15回目 開発援助と NGO（2）	25回目 地域（3）アジアの民主化
6回目 パワーとは何か（1）	16回目 難民問題と NGO	26回目 地域（4）ASEAN
7回目 パワーとは何か（2）	17回目 軍縮と NGO	27回目 地域（5）東アジア
8回目 国際機構（1）	18回目 国際政治の理論	28回目 グローバル・イシュー（1）
9回目 国際機構（2）	19回目 リアリズムの理論	29回目 グローバル・イシュー（2）
10回目 NGOとは何か	20回目 リベラリズムの理論	30回目 グローバル・イシュー（3）

※別途、試験を実施する週（平成 26 年 1 月 21 日～24 日）を設けています。

◆**教科書** 丸沼『国際関係論』 佐渡友哲 信夫隆司共編 弘文堂 2,310 円（税込）（送料 310 円）

◆**参考書** なし。

◆**成績評価基準** 平常点（小テストを含む）（30%）、試験（学年末試験）（70%）

◆ E-Mail :

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」及び「氏名」を記入。例：「日本大学通信教育部 24131999 日大通子」

## ◆現代日本の政治を考える

## 〔政治学特殊講義Ⅰ・Ⅱ〕

水曜日 4 時限

開講単位 4 単位 担当者：秋山 和宏

◆**学習目標** 現代日本の政治について、歴史・制度・過程（実態）の視点から、幅広く理解することに努める。また受講生が政治に対する関心と思考力を高めるために、できるだけ時事的な政治問題を取り上げる。ぜひとも自分自身の政治についての見方、考え方を養ってほしい。

◆**授業方法** まず現代日本の政治を理解する基本として、第二次世界大戦後の歴史（2回目～7回目）と制度（8回目～15回目）について説明する。続く現代政治の実態に関しては、政治過程論の観点から、アクター（16回目～23回目）と過程（24回目～27回目）に分けて検討する。授業は主に講義のかたちで進めるが、質問は大歓迎なので、積極的に行ってほしい。

◆**準備学習** 教科書その他で事前にポイントを確認しておくことが大切。授業の性格上時事問題に関心を持つようにして欲しい。

◆**授業計画**〔各 90 分〕

1回目 ガイダンス	11回目 日本の政治制度（3） 国会<1>	21回目 政治過程の諸アクター（4） 政党<1>
2回目 第二次世界大戦後の政治社会（1） 概観	12回目 日本の政治制度（3） 国会<2>	22回目 政治過程の諸アクター（4） 政党<2>
3回目 第二次世界大戦後の政治社会（2） 戦後改革期	13回目 日本の政治制度（4） 内閣	23回目 政治過程の諸アクター（5） 圧力団体
4回目 第二次世界大戦後の政治社会（3） 高度成長期	14回目 日本の政治制度（5） 官僚制度	24回目 日本の政治過程（1） 概観
5回目 第二次世界大戦後の政治社会（4） 55年体制（前）	15回目 日本の政治制度（6） 地方自治制度	25回目 日本の政治過程（2） 選挙過程
6回目 第二次世界大戦後の政治社会（5） 55年体制（後）	16回目 政治過程の諸アクター（1） 概観<1>	26回目 日本の政治過程（3） 立法過程
7回目 第二次世界大戦後の政治社会（6） 55年体制以後の政治状況	17回目 政治過程の諸アクター（1） 概観<2>	27回目 日本の政治過程（4） 予算編成過程
8回目 日本の政治制度（1） 議院内閣制	18回目 政治過程の諸アクター（2） 有権者<1>	28回目 わが国の政治の問題点と課題（1） 問題の所在
9回目 日本の政治制度（2） 選挙制度<1>	19回目 政治過程の諸アクター（2） 有権者<2>	29回目 わが国の政治の問題点と課題（2） 課題についての考察
10回目 日本の政治制度（2） 選挙制度<2>	20回目 政治過程の諸アクター（3） 政治家と官僚	30回目 わが国の政治の問題点と課題（3） 展望

※別途、試験を実施する週（平成 26 年 1 月 21 日～24 日）を設けています。

◆**教科書** **〔当日資料配布〕** 適宜、授業時にプリントを配布する。

◆**参考書** **丸沼『新版 現代政治の理論と諸相』** 秋山和宏編著 三和書籍 3,150 円（税込）（送料 390 円）  
必要に応じて紹介する。

◆**成績評価基準** 学年末試験（60%）と年2回のリポート（40%）で評価する。

◆**E-Mail :**

## ◆三味線と箏の歌謡史～魅惑の近世音曲

## 〔国文学史Ⅱ〕

金曜日 4 時限

開講単位 4 単位 担当者：山崎 泉

◆**学習目標** 近世文学には多種多様なジャンルが存在しますが、本講義では音曲を取り上げます。従来、ともすれば近世文学の中では重要視されることなく、演劇の関連ジャンルとして扱われがちだった音曲の歴史を概観することにより、近世から今日に至るまで脈々と伝承され続けてきた生きている文化遺産の魅力を発見することを目標とします。

◆**授業方法** 主に講義形式で行います。配布したプリントの内容に即した講義を行って歴史を概観した後、文字資料及び視聴覚資料を活用した作品鑑賞を行い、歴史への理解を深めていきます。

◆**準備学習** 近世文学史を一通り予習しておいて下さい。

◆**授業計画**〔各 90 分〕

1回目 ガイダンス	11回目 豊後系淨瑠璃の世界（4） 新内・その他	21回目 地歌（2） 端歌・長歌・手事物
2回目 三味線の伝来（1） 中国から日本へ	12回目 古曲（1） 一中・宮薗・河東	22回目 地歌（3） 京風手事物
3回目 三味線の伝来（2） 演劇との結合	13回目 江戸長唄（1） 江戸のクロスオーバー	23回目 箏の歌謡（1） ソウのコトとキンのコト
4回目 古淨瑠璃の展開（1）	14回目 江戸長唄（2） 所作事とめりやす	24回目 箏の歌謡（2） 八橋検校と箏組歌
5回目 古淨瑠璃の展開（2）	15回目 江戸文芸と音曲 山東京伝を中心に	25回目 箏の歌謡（3） 生田流箏曲の展開
6回目 義太夫節・音曲の司（1）	16回目 江戸長唄（3） お座敷長唄	26回目 箏の歌謡（4） 山田流箏曲の誕生
7回目 義太夫節・音曲の司（2）	17回目 江戸長唄（4） 松羽目物①	27回目 箏の歌謡（5） 箏曲復古運動
8回目 豊後系淨瑠璃の世界（1） 豊後節の誕生	18回目 江戸長唄（5） 松羽目物②	28回目 江戸長唄と地歌箏曲（1）
9回目 豊後系淨瑠璃の世界（2） 豊後三流①	19回目 古曲（2） 狹江節	29回目 江戸長唄と地歌箏曲（2）
10回目 豊後系淨瑠璃の世界（3） 豊後三流②	20回目 地歌（1） 上方の三味線歌謡	30回目 現代に生きる三味線・箏

※別途、試験を実施する週（平成 26 年 1 月 21 日～24 日）を設けています。

◆**教科書** **〔当日資料配布〕** 当日プリントを配布します。

◆**参考書** 授業時に紹介します。

◆**成績評価基準** 平常点（20%）、試験（80%）

毎回出席することを前提として評価します。

◆**E-Mail :**

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」及び「氏名」を記入。例：「日本大学通信教育部 24131999 日大通子」

## ◆現代人の思想意識の原点を現代文から探る

## 〔国文学講義VI（現代）〕

水曜日 3 時限

開講単位 4 単位 担当者：永岡 健右

◆**学習目標** 関東大震災以降現代に至るまでの展開を、作家と時代性とに注目しながら、具体的に把握します。それぞれの作家が現代社会にどのような方面性を示そうとしたかを考えます。

◆**授業方法** 講義方式で進めます。テキストを中心に読み進めながら、随時、資料を配布して、作家と時代の関わり、作家の主題意識を掘り下げて検討します。また、具体的にどのような作品をどのようなテキストで詠んだらよいかをも考えてていきます。

◆**準備学習** 昭和初期から 10 年代、そして戦後、更には平成に入って 20 年以上経て、日本人の道徳観、倫理観、価値観、特にさまざまな差別観にどのような変化が生じたかを考えておいてください。

### ◆授業計画〔各 90 分〕

1回目 学習の進み方（ガイダンス）	11回目 転向文学と文芸復興	21回目 昭和 40 年代の文学（1）
2回目 現代へのアプローチ（明治）	12回目 戦時下の文学（1）	22回目 昭和 40 年代の文学（2）
3回目 現代へのアプローチ（大正）	13回目 戦時下の文学（2）	23回目 五木寛之と三島由紀夫
4回目 自然主義文学と私小説	14回目 昭和 20 年代の文学（1）	24回目 大学紛争と文学
5回目 大正期のデモクラシー	15回目 昭和 20 年代の文学（2）	25回目 大衆化社会と文学
6回目 昭和文学の出発（1）	16回目 昭和 20 年代の文学（3）	26回目 昭和 50 年代の文学
7回目 昭和文学の出発（2）	17回目 〈第三の新人〉の時代性	27回目 地方文学の発信力
8回目 モダニズム文学	18回目 戦後文学の環境	28回目 昭和の女流文学（1）
9回目 プロレタリア文学	19回目 昭和 30 年代の文学（1）	29回目 昭和の女流文学（2）
10回目 転向文学	20回目 昭和 30 年代の文学（2）	30回目 昭和の短歌・俳句

※別途、試験を実施する週（平成 26 年 1 月 21 日～24 日）を設けています。

◆**教科書** 通材『国文学講義VI（現代） 0339』 通信教育教材（教材コード 000361） 2,400 円（送料別）  
〈この教材は市販の『現代日本文学史』大久保典夫他編（笠間書院）と同一です〉

◆**参考書** 授業中に説明していきます。

◆**成績評価基準** 試験によります（小テスト、リポートも授業中に課題を出して実施する予定です）。

◆ E-Mail :

## ◆ひらがなで日本語や日本人の心を理解してみよう—古代文学への道— 〔国文学特殊講義 I・II〕

火曜日 4 時限

開講単位 4 単位 担当者：近藤 健史

◆**学習目標** 文学以前の世界にもどり、日本語をひらがなで理解し、また日本人の心を考えることで、古代文学を知る道につなげてみる。

◆**授業方法** 前期は『ひらがなでよめばわかる日本語』のテキストに基づいて講義し、後期は実際に学生が調べた日本語に関する事について発表するという、質疑応答などの討論形式で進める。発表した内容については、授業最終日に、発表時の質疑応答などにより加筆訂正したものを 2,000 字程度にまとめて、リポートにして提出すること。

◆**準備学習** 以前から語源や意味がわからなかつたり、疑問に思っていた「日本語」をいくつか用意しておくこと。

### ◆授業計画〔各 90 分〕

1回目 ガイダンス	11回目 「日本語の基本ルール」（2）	21回目 学生による発表（5）
2回目 「自然界から生まれたことば」（1）	12回目 「日本語の基本ルール」（3）	22回目 学生による発表（6）
3回目 「自然界から生まれたことば」（2）	13回目 「日本の古代語を探る」（1）	23回目 学生による発表（7）
4回目 「自然界から生まれたことば」（3）	14回目 「日本の古代語を探る」（2）	24回目 学生による発表（8）
5回目 たましいと対話することば（1）	15回目 「日本の古代語を探る」（3）	25回目 学生による発表（9）
6回目 たましいと対話することば（2）	16回目 演習入門	26回目 学生による発表（10）
7回目 日本人の考え方方がわかることば（1）	17回目 学生による発表（1）	27回目 学生による発表（11）
8回目 日本人の考え方方がわかることば（2）	18回目 学生による発表（2）	28回目 学生による発表（12）
9回目 日本人の考え方方がわかることば（3）	19回目 学生による発表（3）	29回目 学生による発表（13）
10回目 「日本語の基本ルール」（1）	20回目 学生による発表（4）	30回目 まとめ・講評

※別途、試験を実施する週（平成 26 年 1 月 21 日～24 日）を設けています。

◆**教科書** 丸沼『ひらがなでよめばわかる日本語』中西進 新潮文庫 451 円（税込）（送料 260 円）

◆**参考書** 丸沼『日本の古代語を探る』西郷信綱 集英社新書 735 円（税込）（送料 260 円）

丸沼『古代語を読む』桜楓社 1,890 円（税込）（送料 260 円）

丸沼『古代語誌 古代語を読むⅡ』桜楓社 1,980 円（税込）（送料 260 円）

『ことばの古代生活誌』古橋信孝編 河出書房新社 絶版

〈この本は絶版のため図書館等を利用して下さい〉

◆**成績評価基準** 質疑応答 20%、リポート 80%

◆ E-Mail :

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」及び「氏名」を記入。例：「日本大学通信教育部 24131999 日大通子」

## ◆ひらがなで日本語や日本人の心を理解してみよう。－古代文学への道－【国文学基礎演習】

木曜日 2 時限

開講単位 2 単位 担当者：近藤 健史

◆**学習目標** 文学以前の世界にもどり、日本語をひらがなで理解し、また日本人の心を考えることで、古代文学を知る道につなげてみる。

◆**授業方法** 前期は『ひらがなでよめばわかる日本語』のテキストに基づいて講義し、後期は実際に学生が調べた日本語に関することについて発表するという、質疑応答などの討論形式で進める。発表した内容については、授業最終日に、発表時の質疑応答などにより加筆訂正したものを2,000字程度にまとめて、リポートにして提出すること。

◆**準備学習** 以前から語源や意味がわからなかつたり、疑問に思っていた「日本語」をいくつか用意しておくこと。

◆**授業計画【各 90 分】**

1回目 ガイダンス	11回目 「日本語の基本ルール」(2)	21回目 学生による発表(5)
2回目 「自然界から生まれたことば」(1)	12回目 「日本語の基本ルール」(3)	22回目 学生による発表(6)
3回目 「自然界から生まれたことば」(2)	13回目 「日本の古代語を探る」(1)	23回目 学生による発表(7)
4回目 「自然界から生まれたことば」(3)	14回目 「日本の古代語を探る」(2)	24回目 学生による発表(8)
5回目 たましいと対話することば(1)	15回目 「日本の古代語を探る」(3)	25回目 学生による発表(9)
6回目 たましいと対話することば(2)	16回目 演習入門	26回目 学生による発表(10)
7回目 日本人の考え方がわかることば(1)	17回目 学生による発表(1)	27回目 学生による発表(11)
8回目 日本人の考え方がわかることば(2)	18回目 学生による発表(2)	28回目 学生による発表(12)
9回目 日本人の考え方がわかることば(3)	19回目 学生による発表(3)	29回目 学生による発表(13)
10回目 「日本語の基本ルール」(1)	20回目 学生による発表(4)	30回目 まとめ・講評

※別途、試験を実施する週（平成26年1月21日～24日）を設けています。

◆**教科書** 丸沼『ひらがなでよめばわかる日本語』 中西進 新潮文庫 451円（税込）（送料260円）

◆**参考書** 丸沼『日本の古代語を探る』 西郷信綱 集英社新書 735円（税込）（送料260円）

丸沼『古代語を読む』 桜楓社 1,890円（税込）（送料260円）

丸沼『古代語誌 古代語を読むⅡ』 桜楓社 1,890円（税込）（送料260円）

『ことばの古代生活誌』 古橋信孝編 河出書房新社

（上記の本は品切れのため図書館等を利用して下さい）

◆**成績評価基準** 質疑応答20%，リポート80%

◆ E-Mail :

## ◆ことばと社会の関係を探る手法

## 【国語学基礎演習】

木曜日 5 時限

開講単位 2 単位 担当者：三宅 和子

◆**学習目標** 以下のような基本的内容と研究方法、研究姿勢について学びます。

1. 社会言語学の基本的な考え方、研究テーマや方法、専門用語等について学ぶ。
2. 発表の仕方、レジュメ、レポートの作成プロセスをじっくり体験しながら学ぶ。
3. 課題へのアプローチの仕方や資料の調べ方、考察の仕方など、思考のプロセスで意識化しなければならないことを学ぶ。
4. 相互の学び合いと協力の意義について実践を通して体感的に学ぶ。

◆**授業方法** 最初に入門的な講義を集中的に行います。その後、個々の学生に社会言語学の視点をもったミニ調査を課し、講義と並行的に中間発表を行っていきます。演習後半では、春学期の調査から誘発された興味を生かしたテーマで共同研究を進めます。「授業計画」に示した「調査中間発表」のテーマはその例です。

◆**準備学習** 自分の発表以外の週にも、授業を最大限に自分のものにするために、準備に必要なことがあります。授業の終わりにお知らせします。

◆**授業計画【各 90 分】**

1回目 導入：演習の目標・内容	11回目 敬語とポライトネス	21回目 調査中間発表：店員のことばづかい
2回目 レジュメの作り方、ゼミ発表の仕方	12回目 力と仲間意識	22回目 調査中間発表：歌詞に現れた「道」の意味
3回目 研究の方法について	13回目 法律とことば、精神療法	23回目 調査中間発表：日本人にとっての「桜」
4回目 社会言語学とはなにか	14回目 異文化間コミュニケーション	24回目 調査中間発表：ほめられた時の返答
5回目 多言語社会、コードスイッチング	15回目 まとめ：振り返りと今後の課題の確認	25回目 調査中間発表：ネーミング研究
6回目 言語規則、言語の誕生と死	16回目 導入：目標・内容の確認	26回目 調査中間発表：方言話者のアイデンティティ
7回目 日本とアメリカの社会言語学	17回目 演習調査テーマとフィードバック	27回目 調査中間発表：若者のあいさつことば
8回目 年齢・階層、人種、ジェンダー	18回目 調査テーマと調査構想発表1	28回目 調査中間発表：公共空間の多言語表示
9回目 オーディエンス・デザイン	19回目 調査テーマと調査構想発表2	29回目 調査中間発表：ドラマの中のジェンダー
10回目 ポライトネス	20回目 調査中間発表：公共マナーのことば	30回目 振り返りと到達目標の確認

※別途、試験を実施する週（平成26年1月21日～24日）を設けています。

◆**教科書** 丸沼『改訂版 社会言語学入門』 東照二 2011 研究社 2,415円（税込）（送料340円）

◆**参考書** 授業中に紹介します。

◆**成績評価基準** 資料作成10%，口頭発表30%，レポート40%，授業への貢献度20%

◆ E-Mail :

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」及び「氏名」を記入。例：「日本大学通信教育部 24131999 日大通子」

## ◆ロマン派詩人から James Joyce まで

## 〔イギリス文学史Ⅱ〕

木曜日 3 時限

開講単位 4 単位 担当者：猪野 恵也

◆**学習目標** ロマン派詩人からヴィクトリア朝における代表的な作家達を経て James Joyce に至るまでの各作家と各作品を紹介してゆく。扱わない作家や作品があるので一つの英文学誌として捉えて欲しい。気に入った作品があれば、原書の精読を望みます。

◆**授業方法** プリントを配布しそれらを読み上げてゆき、時代に沿って作家の生涯や代表的な作品に触れる。作品の抜粋を読んだり、DVD を活用する。

◆**準備学習** 翻訳でも構わないので扱う作家の作品を読んでおいて欲しい。作品に親しむことが英文学研究の要である。

### ◆授業計画〔各 90 分〕

1回目	18世紀の英文学概観	11回目	Thomas Hardy	21回目	George Orwell
2回目	Jane Austen	12回目	補足説明	22回目	D.H.Lawrence
3回目	Lyrical Ballads について	13回目	補足説明	23回目	Virginia Woolf
4回目	John Keats	14回目	補足説明	24回目	W.B.Yeats
5回目	ブロンテ姉妹と Jane Eyre	15回目	補足説明	25回目	James Joyce
6回目	Wuthering Heights について	16回目	前期テスト	26回目	James Joyce
7回目	George Eliot	17回目	Henry James	27回目	補足説明
8回目	Charles Dickens	18回目	Oscar Wilde	28回目	補足説明
9回目	William Makepeace Thackeray	19回目	Joseph Conrad	29回目	補足説明
10回目	George Meredith	20回目	E.M.Forster	30回目	補足説明
※別途、試験を実施する週（平成 26 年 1 月 21 日～24 日）を設けています。					

◆**教科書** 〔当日資料配布〕 当日プリントを配布（枚数が多いので常に整理しておいて下さい）。

◆**参考書** 授業中に指示する。

◆**成績評価基準** 授業への取り組み・テストにより総合的に評価します。毎回出席することを前提として評価しますので、各自スケジュールを確認してから受講して下さい。私語、携帯いじりなど受講態度が悪い学生は授業妨害とみなし、退出してもらいます。

◆ E-Mail :

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」及び「氏名」を記入。例：「日本大学通信教育部 24131999 日大通子」

## ◆アメリカ文学の歴史と変遷を理解する

## 〔アメリカ文学史〕

水曜日 4 時限

開講単位 4 単位 担当者：北原 安治

◆学習目標 アメリカの建国から 20 世紀までのアメリカ文学の流れを学ぶ。

◆授業方法 テキストを最初から読んで行きます。文法構造を把握して、英文がしっかりと読めることが前提となります。映像資料を活用などして米文学史の全体的な流れを把握します。多くの作家に触れたいのですが、重要とされる作家に時間を割く場合があるので、必ずしも予定どおりにはいかないこともあります。テキストにある各作家の作品からの引用をしっかりと読める英語力をつけて欲しいです。気に入った作家がいたら事前に作品を読んでみるとか、DVD を借りて見てみるとかすればいいでしょう。村上春樹の新訳で話題のフィツジェラルドの『華麗なるギャツ比』のDVD(1,500 円) などおすすめです。

◆準備学習 テキストの英文を 3~5 行おきに手書きでノートに写す。文法構造と和訳を付ける。ノート検査をする。単語を調べて自分なりの訳をする。テキストの最後に参考文献があるので予習の参考にする。抜き打ちの実力テストをやる場合があるので辞書必携。

## ◆授業計画〔各 90 分〕

1回目 一回一人の作家の予定	11回目 同上	21回目 同上
2回目 同上	12回目 同上	22回目 同上
3回目 同上	13回目 同上	23回目 同上
4回目 同上	14回目 同上	24回目 同上
5回目 同上	15回目 同上	25回目 同上
6回目 同上	16回目 同上	26回目 同上
7回目 同上	17回目 同上	27回目 同上
8回目 同上	18回目 同上	28回目 同上
9回目 同上	19回目 同上	29回目 同上
10回目 同上	20回目 同上	30回目 レポート提出

※別途、試験を実施する週（平成 26 年 1 月 21 日～24 日）を設けています。

◆教科書 丸沼『An Outline of American Literature (アメリカ文学概観)』 井上謙治編著 南雲堂  
1,260 円（税込）（送料 260 円）

※『アメリカ文学史 0414』 通信教育教材とは別の教科書ですのでご注意ください。

◆参考書 テキスト 47 ページ参照。中型辞書を持ってくること。

以下の 2 冊は講義では使いません。

丸沼『大学生のためのレポート・論文術』 小笠原善康 講談社現代新書 756 円（税込）（送料 260 円）  
『アメリカ・ルネッサンスの作家たち』 酒本雅之（岩波新書）[絶版]

◆成績評価基準 小テスト・実力テストなどによる総合評価。皆出席を望みます。最終テストはお気に入りのアメリカ作家の文学作品に関する最低限 4000 字以上（理想として 400 字詰め × 20 枚 = 8000 字以上）のレポートとする予定です。講義の最終日に提出。用紙の大きさや、一行何文字にするなど細かな規定はありませんが、レポート全体の 5 分の 1 程度は作品からの英文の引用とします。また参考文献（授業で配る資料を使っても良い）を 5 冊以上つけること。レポートは米作家論ではなく米作品論としますが、ヘミングウェイなど作家の生涯が作品と密接に結びつく場合は、作品にあらわれた作家の人生をテーマとしても良いです。ワープロでも手書きでも良い。字数だけしっかりと守ること。日頃から、しっかり資料を図書館で読んでおくように。以前インターネットの論文をまるごとコピーして、自分の名前をつけて提出した学生がいました。そのようなことは決してないように。レポート全体の 5 分の 1 程度の作品からの英文の引用が無いときは不合格とします。複数の作品ではなく 1 作品に集中して書くこと。

◆ E-Mail :

## ◆英文法をより深く

## 〔英文法〕

火曜日 2 時限

開講単位 4 単位 担当者：真野 一雄

◆学習目標 文理学部文学専攻（英文学）の学生として必要な英文法知識を全般的により深く習得します。

◆授業方法 原則、3回の授業で1章を見ていきます。

テキスト本文の解説、補足説明を行います。設問、練習問題も行います。必要に応じて別途、練習問題を行うこともあります。

◆準備学習 毎回、テキストを読み、練習問題の解答を用意しておいてください。

### ◆授業計画〔各 90 分〕

1回目 第1章 基本文型	11回目 第4章 否定	21回目 第7章 準動詞
2回目 第1章 基本文型	12回目 第4章 否定	22回目 第7章 準動詞
3回目 第1章 基本文型	13回目 第5章 助動詞	23回目 第8章 形容詞
4回目 第2章 文の構造	14回目 第5章 助動詞	24回目 第8章 形容詞
5回目 第2章 文の構造	15回目 前期試験	25回目 第8章 形容詞
6回目 第2章 文の構造	16回目 第5章 助動詞	26回目 第9章 名詞句と文構造の多様性
7回目 第3章 動詞	17回目 第6章 受動文	27回目 第9章 名詞句と文構造の多様性
8回目 第3章 動詞	18回目 第6章 受動文	28回目 第11章 関係詞
9回目 第3章 動詞	19回目 第6章 受動文	29回目 第11章 関係詞
10回目 第4章 否定	20回目 第7章 準動詞	30回目 第11章 関係詞

※別途、試験を実施する週（平成26年1月21日～24日）を設けています。

◆教科書 丸沼『大学生のための現代英文法』開拓社 2,310円（税込）（送料340円）

◆参考書 他の英文法参考書、英文法研究書など。

◆成績評価基準 前期試験（50%）、後期試験（50%）（試験は途中退出なしです）。前期試験未受験者は受講資格を失います。毎回出席することを前提として評価します。

◆E-Mail：

## ◆English Composition 1

## 〔英作文Ⅰ〕

金曜日 2 時限〔前期のみ〕

開講単位 2 単位 担当者：アレックス ブラウン

◆学習目標 This course begins with a look at the writing process and its structure. The course also explores other forms of writing: creative writing, narratives, comparative essays and persuasive approaches.

◆授業方法 We will work on developing essays through the writing process, generating ideas in group activities, organizing ideas and constructing essays all within a workshop-like environment.

◆準備学習 There are no prerequisites for this course. Students are encouraged to write a journal in English that will be reviewed (not graded) by the teacher during the course.

### ◆授業計画〔各 90 分〕

1回目 Self-introduction writing activity.	11回目 Writing Process Topic 2
2回目 Free-writing, Writing Process	12回目 Writing Process Topic 2
3回目 The Writing Process	13回目 Activities
4回目 Overview of writing forms	14回目 Critique for Essay 2
5回目 Paragraph construction	15回目 Final analysis, Essay 2 due
6回目 Brainstorming essay ideas	The final examination
7回目 Draft preparation for Essay 1	
8回目 Analysis and critique	
9回目 Brainstorming Topic 2	
10回目 Writing Process Topic 2	

※別途、試験を実施する週（平成26年1月21日～24日）を設けています。

◆教科書 No text will be required. Students will be provided with handouts. Students are expected to bring a notebook, dictionary and folder for handouts.

◆参考書

◆成績評価基準 Students will be graded on two essays with strong consideration on class participation and group contribution.

◆E-Mail：

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」及び「氏名」を記入。例：「日本大学通信教育部 24131999 日大通子」

## ◆ English Composition 2

## 〔英作文Ⅱ〕

金曜日 2 時限〔後期のみ〕

開講単位 2 単位 担当者：アレックス ブラウン

◆**学習目標** This course focuses on Creative Writing generating essays that are plot-driven and character-driven. The course also explores other forms of writing; narratives and comparative essays.

◆**授業方法** We will work on developing essays through various activities individually and in groups. Essay construction takes place in a workshop-like environment with emphasis on essay analysis.

◆**準備学習** There are no prerequisites for this course. Students are encouraged to write a journal in English that will be reviewed (not graded) by the teacher during the course.

### ◆授業計画〔各 90 分〕

1回目 Introduction and Orientation.	11回目 Essay Analysis/Revision.
2回目 Creative writing Activity 1.	12回目 Comparative Essay Activity
3回目 Creative writing Activity 2.	13回目 Narrative Activity
4回目 Creative writing Activity 3.	14回目 Essay Analysis/Revision.
5回目 Creative writing Activity 4.	15回目 Final Essay due
6回目 Essay 1 Revision.	The final examination
7回目 Creative writing Activity 5.	
8回目 Creative writing Activity 6.	
9回目 Creative writing Activity 7.	
10回目 Creative writing Activity 8.	

※別途、試験を実施する週（平成 26 年 1 月 21 日～24 日）を設けています。

◆**教科書** No text will be required. Students will be provided with handouts.

Students are expected to bring a notebook, dictionary and a folder for notes.

### ◆参考書

◆**成績評価基準** Grades will be based on attendance, in class participation and Activity work as well as 2 graded essays.

### ◆ E-Mail :

## ◆英語の音声現象の基礎理解

## 〔英語音声学〕

水曜日 2 時限

開講単位 4 単位

担当者：森 晴代

◆**学習目標** 1. 日本語との違いを意識し、英語の発音の特徴及び発音記号を理解する。

2. 英語のプロソディの学びを通して、英語らしい発音を追及する。

◆**授業方法** 英語音声学の観点から母音、子音、プロソディの説明を行います。毎週小テストを課して習得状況を確認します。必要に応じてプリントを配布し補足説明します。8名から10名のグループを作り、発音練習への取り組みやプリント作成を行います。全員参加型の授業を目指します。

◆**準備学習** テクストには専門用語が数多くできますので、前もって読んでおきましょう。発声器官の名称は、子音の勉強につながります。理解しておきましょう。また、辞典を引く際発音記号を意識する習慣がついていると良いと思います。授業には必ず辞典を持参してください。

### ◆授業計画〔各 90 分〕

1回目 コミュニケーションにおける音声、発声器官の名称説明	11回目 英語のリズム	21回目 流音、半母音の説明及び発音練習
2回目 Phonics に関するプリント配布、及び解答、発音記号の見方	12回目 文（短文）の発音練習及び練習問題 1	22回目 子音連続の発音練習
3回目 基本母音	13回目 文（短文）の発音練習及び練習問題 2	23回目 子音のまとめプリント配布及び解答
4回目 英語の母音の分類、前舌母音の説明及び発音練習	14回目 発音テスト	24回目 音声変化：脱落現象の説明及びリスニング演習
5回目 後舌母音の説明及び発音練習	15回目 中間筆記テスト	25回目 音声変化：連結現象の説明及びリスニング演習
6回目 中舌母音の説明及び発音練習	16回目 発声器官の復習、子音の分類説明	26回目 音声変化：同化現象の説明及びリスニング演習
7回目 二重母音の説明及び発音練習	17回目 閉鎖音の説明及び発音練習	27回目 イントネーションの説明及び文の発音練習（長文）
8回目 母音、二重母音のまとめプリント配布及び解答	18回目 摩擦音の説明及び発音練習	28回目 文（長文）の発音練習及び練習問題 1
9回目 音節、語強勢、句強勢	19回目 破擦音の説明及び発音練習	29回目 文（長文）の発音練習及び練習問題 2
10回目 文強勢	20回目 鼻音の説明及び発音練習	30回目 発音テスト

※別途、試験を実施する週（平成 26 年 1 月 21 日～24 日）を設けています。

◆**教科書** 丸沼『A Way to Better English Pronunciation - 英語の発音、リスニング、スピーキングへの近道』  
英潮社フェニックス 2009 年 池田紅玉、森晴代著 2,310 円（税別）（送料 260 円）

◆**参考書** 丸沼『英語の音声を科学する』 大修館書店 新装版 CD 付 川越いつえ著 2,520 円（税込）（送料 340 円）  
\* 授業では使用しません。

◆**成績評価基準** 平常点（20%）、小テスト（20%）、発音テスト（10%）、試験（50%）

### ◆ E-Mail :

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」及び「氏名」を記入。例：「日本大学通信教育部 24131999 日大通子」

## ◆ *Heart of Darkness* (1902) を読む

## 〔英米文学演習〕

火曜日 3 時限

開講単位 2 単位 担当者：猪野 恵也

◆**学習目標** Joseph Conrad (1857-1924) による *Heart of Darkness* (1902) を読みます。最初は曖昧模糊とした読後感しか残らないと思います。しかし、なぜ名作と呼ばれるのか、英文をよく読むことによって解きほぐしていきましょう。

◆**授業方法** 学生による和訳の発表と英文の検討。物語としては変化が乏しいので地味な作業が続きます。

◆**準備学習** まず、翻訳でよいので全篇を読んでから一回目ないし二回目の授業に臨むこと。毎回英文の予習を怠らぬようすること。

### ◆授業計画〔各 90 分〕

1回目 Joseph Conrad の紹介	11回目 学生による発表及び英文読解	21回目 学生による発表及び英文読解
2回目 学生による発表及び英文読解	12回目 同上	22回目 同上
3回目 同上	13回目 同上	23回目 同上
4回目 同上	14回目 同上	24回目 同上
5回目 同上	15回目 同上	25回目 同上
6回目 同上	16回目 前期試験	26回目 同上
7回目 同上	17回目 学生による発表及び英文読解	27回目 同上
8回目 同上	18回目 同上	28回目 同上
9回目 同上	19回目 同上	29回目 同上
10回目 同上	20回目 同上	30回目 同上

※別途、試験を実施する週（平成 26 年 1 月 21 日～24 日）を設けています。

◆**教科書** 事前資料送付 プリントを事前に配布する。

◆**参考書** 授業中に指示する。

◆**成績評価基準** 発表 (30%) 小テスト (20%) 試験 (50%) 毎回出席することを前提として評価します。私語、携帯いじりなど受講態度が悪い学生は授業妨害とみなし、退出してもらいます。

◆ E-Mail :

## ◆古代・中世ヨーロッパの思想

## 〔西洋思想史 I〕

水曜日 2 時限

開講単位 4 単位 担当者：杉山 晃太郎

◆**学習目標** この授業では、古代から中世のヨーロッパにおける思想、哲学、宗教、科学の基本的な考え方を学びます。中心となるのは、現代の欧米人の考え方の主要な源である古代ギリシアにおける学問とキリスト教です。両者がどのように誕生したか、また、その後の展開はどうだったかを学ぶことにより、その両者の現代との関わりと意義を理解することを目標とします。

◆**授業方法** 授業は、毎回配布するプリントに沿って、講義形式で行ないます。専門用語も出てきますが、その意味や由来などは、その都度説明します。プリントでは、できるだけ哲学者や思想家の原典テクスト（日本語訳）を紹介するので、彼らが書き残した文章も味わってください。また、各回の授業テーマに関係の深い参考文献については、プリントで紹介します。

◆**準備学習** 古代ギリシア・ローマ、キリスト教、中世に関する高等学校世界史レベルの知識があれば、余裕をもって講義を聞くことができますが、必須ではありません。できれば、あらかじめ参考書を読んでおくとよいと思います。

回の授業の前に、教科書、参考書の該当する箇所を読んで、授業に臨むことを推奨します。授業の後には、配布プリントと合わせて、教科書・参考書で復習し、不明点があれば、質問してください。

### ◆授業計画〔各 90 分〕

1回目 ガイダンス－思想、哲学、宗教、科学	11回目 ソクラテス 1－知を愛する人	21回目 懐疑派と新プラトン主義（プロティノス）
2回目 古代ギリシア・ローマ概観 1	12回目 ソクラテス 2－対話と吟味	22回目 初期キリスト教 1－イエス
3回目 古代ギリシア・ローマ概観 2	13回目 プラトン 1－イデア論	23回目 初期キリスト教 2－聖書、福音書
4回目 詩と演劇－叙事詩、悲劇、喜劇	14回目 プラトン 2－魂について	24回目 初期キリスト教 3－ユダヤ教からキリスト教へ
5回目 神話から学問へ－ミレトス派	15回目 前期のまとめ	25回目 中世、キリスト教、哲学
6回目 最初の哲学者たち 1－アルケーの探求	16回目 ヒポクラテス学派と経験医学	26回目 中世哲学 1－教父哲学
7回目 最初の哲学者たち 2－エレア派	17回目 アリストテレス 1－4つの原因	27回目 中世哲学 2－スコラ哲学
8回目 最初の哲学者たち 3－多元論者	18回目 アリストテレス 2－運動変化	28回目 ルネサンス－古代との「再会」
9回目 ソフィスト－民主主義と言論	19回目 ヘレニズム時代 1－ストア派	29回目 科学革命－ベーコンとデカルト
10回目 弁論術－イソクラテスとデモステネス	20回目 ヘレニズム時代 2－エピクロス派	30回目 全体のまとめ

※別途、試験を実施する週（平成 26 年 1 月 21 日～24 日）を設けています。

◆**教科書** 通材『西洋思想史 I 0511』 通信教育教材（教材コード 000133） 2,700 円（送料込）

〔当日資料配布〕 当日プリント配布。

◆**参考書** 丸沼『ヨーロッパ思想入門』 岩田靖夫著 岩波ジュニア新書 2003 年 861 円（税込）（送料 340 円）  
丸沼『ソフィーの世界－哲学者からの不思議な手紙－』 ヨースタイン ゴルデル著 池田理代子訳 NHK 出版 1995 年 2,548 円（税込）（送料 560 円）

◆**成績評価基準** 学期末試験（2 回、60%）と授業内小レポート（適宜、40%）によって評価します。試験とレポートの具体的な方法については、初回の授業時に説明します。

◆ E-Mail :

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」及び「氏名」を記入。例：「日本大学通信教育部 24131999 日大通子」

## ◆神と仏の精神史

## 〔日本思想史Ⅱ〕

水曜日 3 時限

開講単位 4 単位

担当者：島田 健太郎

◆**学習目標** 今年度は、平安時代中期から鎌倉期にかけての、いわゆる「習合思想」を中心に考えていきます。この時代には多様な信仰が生まれましたが、それらが当時の人々のどのような思いを反映し、また時代状況に応じてどのような変貌を遂げたのか検討したいと思います。これらによって当時の宗教状況を理解するとともに、当時の人々が神や仏をどのようにイメージし、何を期待していたのか、さらにはその底に流れる「ものの考え方」について、より理解を深めていくことを目標とします。

◆**授業方法** プリントとして配布する原典や史料を参考にしながら、講義形式で行います。時代が中世ということもあり、聞き慣れない言葉や難解な専門用語などが多くあります。それらには適宜説明を加えます。またプリントには現代語訳をつけるので、古文・漢文の読解に自信がなくても構いません。

◆**準備学習** 授業でも適宜説明しますが、平安時代から鎌倉時代にかけての主要な出来事（摂関政治とか院政など）について、いつ、どんな順番で起ったか、また関係する人物について、大まかな知識でもあれば授業が聞きやすくなると思います。また、関西方面の話が中心なので、神社や寺院の地理的関係を理解するためにも、地図があるといいでしょう。

### ◆授業計画【各 90 分】

1回目 概説	11回目 熊野三山の信仰①	21回目 神仏習合の理論①
2回目 祇園と天神・御靈信仰-①	12回目 熊野三山の信仰②	22回目 神仏習合の理論②
3回目 祇園と天神・御靈信仰-②	13回目 熊野三山の信仰③	23回目 神仏習合の理論③
4回目 祇園と天神・御靈信仰-③	14回目 熊野三山の信仰④	24回目 神仏習合の理論④
5回目 祇園と天神・御靈信仰-④	15回目 熊野三山の信仰⑤	25回目 伊勢神道①
6回目 祇園と天神・御靈信仰-⑤	16回目 鎌倉仏教と神道①	26回目 伊勢神道②
7回目 金剛藏王菩薩①	17回目 鎌倉仏教と神道②	27回目 伊勢神道③
8回目 金剛藏王菩薩②	18回目 春日神の変容①	28回目 唯一神道①
9回目 金剛藏王菩薩③	19回目 春日神の変容②	29回目 唯一神道②
10回目 金剛藏王菩薩④	20回目 春日神の変容③	30回目 唯一神道③

※別途、試験を実施する週（平成 26 年 1 月 21 日～24 日）を設けています。

◆**教科書** **〔当日資料配布〕** 当日にプリントを配布します。

◆**参考書** 授業内で、必要に応じて紹介します。

◆**成績評価基準** 試験の成績を基準に、授業への取り組みなどを勘案して評価します。

◆**E-Mail :**

## ◆応用倫理の基礎を学ぼう

## 〔倫理学概論〕

水曜日 4 時限

開講単位 4 単位

担当者：笹井 和夫

◆**学習目標** 現在流行している生命倫理や環境倫理といった応用倫理がその場限りのものとならないように、応用の基礎である「倫理学」を理解する。

◆**授業方法** パワーポイントを使用して、講義を中心に授業を進めるが、受講者と一緒に考えることも同時に行いたい。

◆**準備学習** 「倫理学」の入門書のようなものを読んでおいてください。

### ◆授業計画【各 90 分】

1回目 ガイダンス	11回目 実践哲学としての倫理学 1	21回目 人格の形成と道徳意識 2
2回目 倫理学の意義 1	12回目 実践哲学としての倫理学 2	22回目 人格の形成と道徳意識 3
3回目 倫理学の意義 2	13回目 実践哲学としての倫理学 3	23回目 人格の形成と道徳意識 4
4回目 倫理学の成立 1	14回目 実践哲学としての倫理学 4	24回目 法と道徳 1
5回目 倫理学の成立 2	15回目 まとめ	25回目 法と道徳 2
6回目 倫理学の成立 3	16回目 人生論と倫理学 1	26回目 法と道徳 3
7回目 倫理学の成立 4	17回目 人生論と倫理学 2	27回目 法と道徳 4
8回目 規範学としての倫理学 1	18回目 人生論と倫理学 3	28回目 応用倫理 1
9回目 規範学としての倫理学 2	19回目 人生論と倫理学 4	29回目 応用倫理 2
10回目 規範学としての倫理学 3	20回目 人格の形成と道徳意識 1	30回目 まとめ

※別途、試験を実施する週（平成 26 年 1 月 21 日～24 日）を設けています。

◆**教科書** 使用しません。

◆**参考書** **〔通材〕『倫理学概論 0533』** 通信教育教材（教材コード 000140） 2,300 円（送料込）

◆**成績評価基準** 平常点 30%+試験 70% = 100 点。

◆**E-Mail :**

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」及び「氏名」を記入。例：「日本大学通信教育部 24131999 日大通子」

## ◆科学哲学

## (科学哲学)

木曜日 4 時限

開講単位 4 単位 担当者：本間 司

◆**学習目標** 現代科学の一潮流である科学哲学の認識論を検討することによって、私達が「考える」とはどういうことを具体的に理解する。

◆**授業方法** 講義を行い、質問を受けつけて回答することで理解して貰うように進める。

◆**準備学習** 特になし。

◆**授業計画** [各 90 分]

1回目 哲学とは何か	11回目 現代認識論の理論的背景 (自己反省としての科学)	21回目 科学的認識とは (理性と経験) IX
2回目 現代認識論の歴史的背景	12回目 科学的認識とは	22回目 認識機構と認識論的立場 I
3回目 現代認識論の歴史的背景 (カントからヘーゲル)	13回目 科学的認識とは (理性と経験) I	23回目 認識機構と認識論的立場 II
4回目 現代認識論の歴史的背景 (ヘーゲルから新カント学派)	14回目 科学的認識とは (理性と経験) II	24回目 認識機構と認識論的立場 III
5回目 現代認識論の歴史的背景 (新カントから現象学)	15回目 科学的認識とは (理性と経験) III	25回目 観念論と実在論 I
6回目 現代認識論の歴史的背景 (現象学から実存主義)	16回目 科学的認識とは (理性と経験) IV	26回目 観念論と実在論 II
7回目 現代認識論の歴史的背景 (マルクス主義と科学哲学)	17回目 科学的認識とは (理性と経験) V	27回目 実在の認識論的尊崇 I
8回目 現代認識論の歴史的背景 (科学哲学の展望)	18回目 科学的認識とは (理性と経験) VI	28回目 実在の認識論的尊崇 II
9回目 現代認識論の理論的背景	19回目 科学的認識とは (理性と経験) VII	29回目 実在の認識論的尊崇 III
10回目 現代認識論の理論的背景 (科学的認識理論)	20回目 科学的認識とは (理性と経験) VIII	30回目 まとめ、試験

※別途、試験を実施する週（平成 26 年 1 月 21 日～24 日）を設けています。

◆**教科書** 通材『科学哲学 0575』 通信教育教材（教材コード 000142） 1,700 円（送料込）

◆**参考書** 『哲学辞典』（あるもので可）

◆**成績評価基準** 平常点 60%，発表 40%

◆ E-Mail :

## ◆医療の哲学的思索

## (哲学演習)

木曜日 5 時限

開講単位 2 単位 担当者：本間 司

◆**学習目標** 人類を悩ませてきた「生老病死」の四苦が医療によってどのように克服され、また現代まで解決されていない点を看護の側面から考察することによって、個々人の対応を考えることを目標とする。

◆**授業方法** ディスカッション方法をとる。その後に毎回発表者から問題提起をしてもらう。

◆**準備学習** 医療について各個人の意見をまとめて発表を準備する。

◆**授業計画** [各 90 分]

1回目 古代における医術について (1)	11回目 ヒポクラテスとデモクリトスの対話 (2)	21回目 近代医学と看護思想 (3)
2回目 古代における医術について (2)	12回目 ヒポクラテスとデモクリトスの対話 (3)	22回目 医学と哲学的世界観 (1)
3回目 ヒポクラテス医術 (1)	13回目 近代医学思想 (1)	23回目 医学と哲学的世界観 (2)
4回目 ヒポクラテス医術 (2)	14回目 近代医学思想 (2)	24回目 医学と哲学的世界観 (3)
5回目 ヒポクラテス医術 (3)	15回目 近代医学思想 (3)	25回目 医学と哲学的世界観 (4)
6回目 ヒポクラテス医術 (4)	16回目 現代医学思想 (1)	26回目 論理的世界観について (1)
7回目 デモクリトス (1)	17回目 現代医学思想 (2)	27回目 論理的世界観について (2)
8回目 デモクリトス (2)	18回目 現代医学思想 (3)	28回目 論理的世界観について (3)
9回目 デモクリトス (3)	19回目 近代医学と看護思想 (1)	29回目 論理的世界観について (4)
10回目 ヒポクラテスとデモクリトスの対話 (1)	20回目 近代医学と看護思想 (2)	30回目 まとめ

※別途、試験を実施する週（平成 26 年 1 月 21 日～24 日）を設けています。

◆**教科書** 授業時に配布する。

◆**参考書** 各自分で発表テーマに即して選択。

◆**成績評価基準** 平常点 (50%)、発表 (50%)

◆ E-Mail :

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」及び「氏名」を記入。例：「日本大学通信教育部 24131999 日大通子」

## ◆歴史学の論文を書くために

## 〔史学概論〕

火曜日 4 時限

開講単位 4 単位 担当者：高綱 博文

◆**学習目標** 歴史学という学問の性格及び目的を明らかにし、また歴史学を学んでいく上で必要不可欠な基礎的・技術的な知識を学習する。さらに激動する現代世界に対応するために現在進行しつつある歴史学の革新について学び、「新しい歴史学」のあり方を考える。

◆**授業方法** 歴史学の使命・技法及び革新について講述し、授業中に配布した資料を解説しながら行う。後期には受講生全員に卒業論文のテーマの概要と研究計画について報告してもらいます。

◆**準備学習** 下記の参考文献を予め学習しておくことが望ましい。

## ◆授業計画〔各 90 分〕

1回目 ガイダンス	11回目 歴史学の技法（3）	21回目 地域区分論（3）
2回目 歴史学とは何か（1）	12回目 歴史学の技法（4）	22回目 歴史学の革新（1）
3回目 歴史学とは何か（2）	13回目 歴史学の技法（5）	23回目 歴史学の革新（2）
4回目 歴史学とは何か（3）	14回目 歴史学の技法（6）	24回目 歴史学の革新（3）
5回目 近代歴史学の成立（1）	15回目 前期のまとめ	25回目 歴史論文の作成法（1）
6回目 近代歴史学の成立（2）	16回目 時代区分論（1）	26回目 歴史論文の作成法（2）
7回目 近代歴史学の成立（3）	17回目 時代区分論（2）	27回目 歴史論文の作成法（3）
8回目 近代歴史学の成立（4）	18回目 時代区分論（3）	28回目 卒論構想報告（1）
9回目 歴史学の技法（1）	19回目 地域区分論（1）	29回目 卒論構想報告（2）
10回目 歴史学の技法（2）	20回目 地域区分論（2）	30回目 卒論構想報告（3）

※別途、試験を実施する週（平成 26 年 1 月 21 日～24 日）を設けています。

◆**教科書** **〔当日資料配布〕** 授業中に資料を配布します。

◆**参考書** **丸沼『歴史学入門』** 福井憲彦 岩波書店 1,785 円（税込）（送料 340 円）  
**丸沼『新しい史学概論』** 望月幸男等 昭和堂 2,310 円（税込）（送料 340 円）  
**丸沼『史学概論』** 遅塚忠躬 東京大学出版会 7,140 円（税込）（送料 390 円）

◆**成績評価基準** 試験（50%）、リポート及び卒論構想報告（50%）。毎回出席することを前提として評価します。

◆**E-Mail :**

## ◆日本史の理解を深めていこう

## 〔日本史概説〕

火曜日 2 時限

開講単位 4 単位 担当者：鍋本 由徳

◆**学習目標** 本講義では、中等教育レベルの日本史から、高等教育レベルの日本史へのステップアップを図ることを目標としています。高校教科書に記されている「事実」は「史実」なのでしょうか？ 登場する人物はなぜそのような行動を起こしたのでしょうか？ また史実解説は 1 つなのでしょうか？ 古代から現代までの大きな流れを知ると同時に、「歴史」に対する理解を深めることを目標にします。

◆**授業方法** 以下のシラバス（予定）を講義形式にておこないます。本科目は専門教育科目であると同時に、高校地歴科や中学校社会の教員免許をめざす人も対象にしています。配布プリントをメインに使用し、図表を映写しながら、講師の説明を中心に行なっていきます。できれば高校教科書（出版社問わず新しいもの）を持参してもらえばと思います。

◆**準備学習** この講義では高校教科書の内容を利用しながら、1 年間かけて専門性のある日本史を学んでいきます。最低限、高校教科書レベルの用語は理解しておきたいところです。高校教科書や日本史 B 用語集など、教科書の内容や専門性の高い辞書類などを事前比較しておくと、中等教育と高等教育の質的差異を知ることができるはずです。

## ◆授業計画〔各 90 分〕

1回目 日本史概説の概要	11回目 摂関時代の政治と社会	21回目 三大改革の意義
2回目 先史時代（1）～旧石器～	12回目 武士団形成と源平合戦	22回目 寛永・元禄・化政文化
3回目 先史時代（2）～縄文・弥生～	13回目 鎌倉幕府成立の問題	23回目 幕末・明治維新
4回目 「魏志」倭人伝とクニ	14回目 東西王権の融合と得宗	24回目 明治初期の政治
5回目 古墳時代	15回目 南北朝時代と足利氏	25回目 自由民権と国会
6回目 華夷思想と倭の五王	16回目 義満の皇位簫奪問題	26回目 政党政治の展開
7回目 厥戸皇子と大陸の関係	17回目 戦国時代に対する理解	27回目 2 つの大戦と政治
8回目 改新の詔と公地公民	18回目 織豊政権と身分制社会	28回目 戦時下における社会
9回目 奈良時代の政争と社会	19回目 江戸幕府と豊臣氏	29回目 戦後体制の高度経済成長
10回目 記紀の成立と歴史	20回目 江戸幕府制度の確立	30回目 日本史概説総括

※別途、試験を実施する週（平成 26 年 1 月 21 日～24 日）を設けています。

◆**教科書** **〔通学〕『日本史概論 0620 / 日本史概説 0621』** 通信教育教材（教材コード 000382）2,450 円（送料込）  
 〈この教材は市販の『概論 日本歴史』佐々木潤之介（吉川弘文館）と同一です〉

〔**当日資料配布**〕※なお、当日参考プリントもあわせて配布します。

◆**参考書** 『日本の歴史』シリーズ（講談社、小学館など）その他、講義中に適宜紹介します。

◆**成績評価基準** 試験（70%）、平常点（授業内豆テスト 30%）をベースにした総合評価にて決定します（全回出席を前提とします）。

◆**E-Mail :**

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」及び「氏名」を記入。例：「日本大学通信教育部 24131999 日大通子」

## ◆ヨーロッパの近代史から学ぶこと

## 〔西洋史概説〕

火曜日 1 時限

開講単位 4 単位

担当者：高草木 邦人

◆**学習目標** グローバリゼーションの拡大や各国のナショナリズムの高まりのなか、私たちは自国以外の国・地域の歴史的経験や認識を理解することが求められています。本講義では、ヨーロッパの近代史を学び、その理解を深めることを目的とします。前学期には、英・仏・独の歴史を学び、ヨーロッパ近代史の基礎的な知識を獲得し、後学期には、ロシアや東欧諸地域の歴史を学びながら、多くの国々の「視点」から歴史を考えていきます。

◆**授業方法** 基本的に講義形式をとりますが、必要に応じて映像教材・視聴覚資料も利用しながら、授業を行います。また、夏休みには、配布プリントをもとにしたレポートを課す予定です。

◆**準備学習** 高等学校の教科書を受講前までに必ず読んでおいて下さい。本講義は古代史から近現代までを扱う通史ではないので、高等学校の世界史Aの教科書などを事前に読んで、歴史の知識を蓄えながら、世界史の大まかな流れを把握しておいて下さい。また、本講義が扱う各國の歴史の本や概説書を読んでおくことも望ましいです。

◆**授業計画** [各 90 分]

1回目 西欧諸国の前近代①	11回目 ドイツ近代史①	21回目 オーストリア帝国④
2回目 西欧諸国の前近代②	12回目 ドイツ近代史②	22回目 ロシア帝国①
3回目 イギリス近代史①	13回目 ドイツ近代史③	23回目 ロシア帝国②
4回目 イギリス近代史②	14回目 ドイツ近代史④	24回目 ロシア帝国③
5回目 イギリス近代史③	15回目 前学期のまとめ	25回目 ロシア帝国④
6回目 イギリス近代史④	16回目 東欧諸国の前近代①	26回目 バルカン半島①
7回目 フランス近代史①	17回目 東欧諸国の前近代②	27回目 バルカン半島②
8回目 フランス近代史②	18回目 オーストリア帝国①	28回目 バルカン半島③
9回目 フランス近代史③	19回目 オーストリア帝国②	29回目 バルカン半島④
10回目 フランス近代史④	20回目 オーストリア帝国③	30回目 後学期のまとめ

※別途、試験を実施する週（平成 26 年 1 月 21 日～24 日）を設けています。

◆**教科書** [当日資料配布] プリント配布（当日）。

◆**参考書** 授業中に適時指示する。

◆**成績評価基準** 試験（50%）、レポート（20%）、平常点（30%）。平常点は、授業中に配布するアクション・ペーパーと授業態度を参考に評価します。

◆ E-Mail :

## ◆ 「黒衣の宰相」は幕府のフィクサーか？

## 〔日本史特講 I〕

水曜日 2 時限

開講単位 4 単位

担当者：鍋本 由徳

◆**学習目標** 本講義では、17世紀初頭に活躍した僧侶「金地院崇伝」（黒衣の宰相）の政治的役割を、『本光国師日記』に記載された書状や目安（訴状）などを通じて解明することを目的とします。部門的には「政治史」ですが、家康生前期における崇伝の活動が、家康の死後、どのように変化し、晩年を迎えていくのかを講義していきます。大きな目標は、その変化のなかで、幕府組織の整備、裁判のあり方などを考えていくことです。

◆**授業方法** 講義形式で進めます。史学専攻学生の今後の研究や視角を意識して授業を展開させます。配布プリントを使用し、適宜プリント内の史料（書状・記録・随筆など）の読み下しや読解を進め、講師の説明を中心に進めます。2～4年次配当科目で専門性の高い講義になりますが、2年次学生も受講することを考慮しながら講義していきます。

◆**準備学習** この講義は専門教育科目です。事前に日本史、特に江戸幕府創設期における全体の流れと、將軍の主な実績について学んでおくとよいでしょう。高校教科書では1ページにも満たないところを1年間かけて学ぶので、概説書（『日本の歴史』や『日本の近世』など）を併せて読むことで、より理解が深まるはずです。

◆**授業計画** [各 90 分]

1回目 日本史特講 I の概要	11回目 陽春院事件～第2争論～	21回目 元和期の寺院争論
2回目 寺院行政のあり方	12回目 所司代板倉と崇伝の関係	22回目 崇伝の交際範囲
3回目 業績紹介・学説史	13回目 幕閣の争論への介入	23回目 崇伝と武家の情報交換
4回目 争論の手続き	14回目 慶長・元和における崇伝	24回目 崇伝と天海の関係
5回目 金地院崇伝の生涯	15回目 前期授業の整理・総括	25回目 外交官としての崇伝
6回目 『国師日記』（慶長～元和）	16回目 政治家としての僧侶	26回目 崇伝の政治活動（1）
7回目 寺院争論（1）～近江～	17回目 封建官僚制へ～出頭人～	27回目 崇伝の政治活動（2）
8回目 寺院争論（2）～山城～	18回目 封建官僚制へ～組織～	28回目 崇伝の晩年と死
9回目 寺院争論（3）～その他～	19回目 『国師日記』の利用	29回目 後期授業の整理・総括
10回目 陽春院事件～第1争論～	20回目 『国師日記』（元和～寛永）	30回目 日本史特講 I 総括

※別途、試験を実施する週（平成 26 年 1 月 21 日～24 日）を設けています。

◆**教科書** [当日資料配布] 当日プリントを配布します。

◆**参考書** 丸沼『日本の歴史 15 織豊政権と江戸幕府』 池上裕子 講談社学術文庫 1,260 円（税込）（送料 260 円）  
丸沼『日本の名僧 15 政界の導者 天海・崇伝』 玉室文雄編 吉川弘文館 2,730 円（税込）（送料 340 円）

◆**成績評価基準** 試験（70%）、平常点（授業内豆テスト 30%）をベースにした総合評価にて決定します（全回出席を前提とします）。

◆ E-Mail :

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」及び「氏名」を記入。例：「日本大学通信教育部 24131999 日大通子」

## ◆日本の遺跡を知ろう

## 〔考古学概説〕

金曜日 1 時限

開講単位 4 単位 担当者：西野 吉論

◆**学習目標** 日本の各地に所在する様々な時代の遺跡を取り上げ、そこからどのようにして歴史が復元されているのか学んでいきます。考古学の研究対象である考古資料にはどのようなものがあるのか、これらはどのような方法で分析されているのか理解していきます。

◆**授業方法** 写真や図版を利用し、講義形式で行います。各時代ごとに時期分類と遺跡の紹介を行っていきます。

◆**準備学習** 新聞やインターネットで記事になった考古学関連のニュースに普段から目を向けるようにしておいてください。また、自治体や博物館等のホームページにある電子博物館を閲覧してみてください。そのほか、時間がありましたら、地元の遺跡公園や博物館を訪れてください。

## ◆授業計画〔各 90 分〕

1回目 ガイダンス 考古学とは	11回目 繩文時代から弥生時代へ	21回目 古墳時代前期の古墳
2回目 考古資料の種類	12回目 弥生時代の時期区分と弥生土器	22回目 古墳時代中期の古墳
3回目 考古学上の時代区分	13回目 弥生時代早期～前期の遺跡	23回目 古墳時代の集落と豪族居館
4回目 旧石器時代とは	14回目 弥生時代中期の西日本の遺跡	24回目 古墳時代後期～終末期の古墳
5回目 旧石器時代の遺跡とその分析	15回目 前期のまとめ	25回目 奈良～平安時代の遺跡
6回目 旧石器時代から縄文時代へ	16回目 弥生時代中期の東日本の遺跡	26回目 寺院と官衙
7回目 縄文時代の時期区分と縄文土器	17回目 弥生時代後期の西日本の遺跡	27回目 中世の遺跡
8回目 縄文時代草創期～早期の遺跡	18回目 弥生時代後期の東日本の遺跡	28回目 近世の遺跡
9回目 縄文時代中期の遺跡	19回目 弥生時代から古墳時代へ	29回目 近現代の遺跡
10回目 縄文時代後期・晚期の遺跡	20回目 古墳時代の時期区分と土師器・須恵器	30回目 まとめ
※別途、試験を実施する週（平成 26 年 1 月 21 日～24 日）を設けています。		

◆**教科書** **〔当日資料配布〕** 適宜プリントを配布します。

◆**参考書** 授業中に紹介します。

◆**成績評価基準** 抜き打ちの小テスト (30%)、試験 (70%)

◆ **E-Mail :**

## ◆史料で見る近世社会

## 〔日本史演習〕

木曜日 3 時限

開講単位 2 単位 担当者：竹中 真幸

◆**学習目標** 本授業では、卒業論文作成にむけての具体的な研究方法・技術の習得、特に論文作成に不可欠となる、史料の読解力を養うことを主な目的とする。

◆**授業方法** 演習科目であるから、授業の前期を除き、いわゆる講義形式はとらず、与えられた課題に対する研究報告や卒業論文の中間報告等の学生各自の学習・研究を中心にして、自主的な研究能力の養成を行いたい。

◆**準備学習** 1 年間の授業であるから、授業の進行に合わせて学習内容（課題報告の準備等）を順次指示する。したがって、受講前の準備学習は必要としない。

## ◆授業計画〔各 90 分〕

1回目 ガイダンス	11回目 課題報告と質疑応答(4)	21回目 課題報告と質疑応答(10)
2回目 近世史料読解のための基礎知識(1)	12回目 課題報告と質疑応答(5)	22回目 課題報告と質疑応答(11)
3回目 近世史料読解のための基礎知識(2)	13回目 卒業論文の中間報告(1)	23回目 課題報告と質疑応答(12)
4回目 近世史料読解のための基礎知識(3)	14回目 卒業論文の中間報告(2)	24回目 課題報告と質疑応答(13)
5回目 近世史料読解のための基礎知識(4)	15回目 前期のまとめと小テスト	25回目 課題報告と質疑応答(14)
6回目 テキスト史料解説(1)	16回目 後期補充史料と解説開設	26回目 課題報告と質疑応答(15)
7回目 テキスト史料解説(2)	17回目 課題報告と質疑応答(6)	27回目 課題報告と質疑応答(16)
8回目 課題報告と質疑応答(1)	18回目 課題報告と質疑応答(7)	28回目 課題報告と質疑応答(17)
9回目 課題報告と質疑応答(2)	19回目 課題報告と質疑応答(8)	29回目 後期のまとめと質疑応答
10回目 課題報告と質疑応答(3)	20回目 課題報告と質疑応答(9)	30回目 後期のまとめと小テスト
※別途、試験を実施する週（平成 26 年 1 月 21 日～24 日）を設けています。		

◆**資料** **〔当日資料配布〕** 授業初日にテキストとして使用する史料（江戸時代の活字史料）を配布する。本年度は、『辻六郎左衛門上書』を予定している。

◆**参考書** 参考資料と共に、授業時に適宜紹介する。

◆**成績評価基準** 報告内容 (50%)、平常点 (40%)、小テスト (10%)

◆ **E-Mail :**

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」及び「氏名」を記入。例：「日本大学通信教育部 24131999 日大通子」

## ◆史料で考える孫文と日本人

## 〔東洋史演習〕

木曜日 5 時限

開講単位 2 単位 担当者：高綱 博文

◆**学習目標** 中国革命の父・孫文を支援した代表的な日本人である宮崎滔天『三十三年の夢』を講読しながら、史料批判・研究史整理など歴史研究ための基礎力を養成します。

◆**授業方法** テキスト史料・宮崎滔天『三十三年の夢』（岩波文庫）を講読しながら、受講生による研究発表と討論を中心としたゼミナール形式で行います。

◆**準備学習** 予めテキスト史料を学習し講読の準備を行う。また研究発表のために参考文献や史料を調べて準備する。

### ◆授業計画〔各 90 分〕

1回目 ガイダンス	11回目 史料講読・報告・討論 (7)	21回目 史料講読・報告・討論 (16)
2回目 中国近現代史研究方法	12回目 同上 (8)	22回目 同上 (17)
3回目 テキスト史料解説	13回目 同上 (9)	23回目 同上 (18)
4回目 史料講読・報告・討論 (1)	14回目 同上 (10)	24回目 同上 (19)
5回目 同上 (2)	15回目 同上 (11)	25回目 同上 (20)
6回目 同上 (3)	16回目 同上 (12)	26回目 同上 (21)
7回目 同上 (4)	17回目 同上 (13)	27回目 同上 (22)
8回目 同上 (5)	18回目 同上 (14)	28回目 同上 (23)
9回目 同上 (6)	19回目 同上 (15)	29回目 同上 (24)
10回目 国会図書館見学	20回目 東洋文庫見学	30回目 総括討論

※別途、試験を実施する週（平成 26 年 1 月 21 日～24 日）を設けています。

◆**教科書** テキスト史料 丸沼『三十三年の夢』 宮崎滔天 岩波文庫 1993 年 1,260 円（税込）（送料 340 円）

◆**参考書** 授業時に適宜紹介します。

◆**成績評価基準** 講読・発表 (60%)、平常点 (20%)、リポート (20%)。毎回出席することを前提として評価します。

◆**E-Mail :**

## ◆歴史の論文を書く

## 〔西洋史演習〕

金曜日 5 時限

開講単位 2 単位 担当者：藤井 信行

◆**学習目標** 4 年間の歴史の勉強を卒業論文に集約させることができます。授業をとおして卒業論文のテーマ決定、文献目録の作成、研究史の整理、資料の収集、文献の読解などを指導し、歴史の論文を書くことを学びます。西洋史での卒業論文を予定している学生は、3 年次・4 年次と継続して受講することが望ましい。

◆**授業方法** 「第一次世界大戦の勃発とイギリス外交政策」をケーススタディとして、文献目録の作成、研究史の整理、文献の読解などをゼミナール形式の授業で行います。3 年生は同じステップを各自の論文のテーマで行い、4 年生はこうしたステップを各自のテーマでいま一度確認するとともに、二度の報告をとおして論文の章立て、実証方法、脚注の書き方などを学びます。

◆**準備学習** 3 年生は卒業論文のテーマになるような出来事・人物などを考えておいてください。

### ◆授業計画〔各 90 分〕

1回目 授業概要説明	11回目 概説の報告①	21回目 研究史の整理①
2回目 歴史学の論文について	12回目 同②	22回目 同②
3回目 参考文献目録の作成①	13回目 同③	23回目 同③
4回目 同②	14回目 3 年生の卒論テーマ①	24回目 同④
5回目 同③	15回目 同②	25回目 論文を読む①
6回目 同④	16回目 参考文献目録の提出	26回目 同②
7回目 4 年生の卒論中間報告①	17回目 3 年生の卒論テーマ決定①	27回目 同③
8回目 同②	18回目 同②	28回目 同④
9回目 概説書を読む①	19回目 4 年生の卒論最終報告①	29回目 3 年生／卒論の章立て①
10回目 同②	20回目 同②	30回目 同②／研究史整理の提出

※別途、試験を実施する週（平成 26 年 1 月 21 日～24 日）を設けています。

◆**教科書** [当日資料配布] プリントを配付する。

◆**参考書** 特になし。

◆**成績評価基準** レポート 2 回（前・後期）50%，報告内容 50%

◆**E-Mail :**

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」及び「氏名」を記入。例：「日本大学通信教育部 24131999 日大通子」

## ◆日中戦争のなかの民衆

## 〔東洋史特講Ⅲ〕

水曜日 5 時限

開講単位 4 単位

担当者：堀井 弘一郎

◆**学習目標** 日中戦争では、国民党、共産党、日本軍・対日協力政権の3政治勢力が、その支配領域の拡大を競った。その際、3者ともどのように民心をつかみ、民衆を動員するかに腐心した。本講座では、そうした中、両国の民衆がどう組織され動員されていったのか、また民衆は時代の変動をどう受けとめて生きてきたのかという視点から、日中戦争史を再構成する。戦後、日中民衆がそれぞれ新しい時代と向きあつた状況についても論及する。

◆**授業方法** 以下の各回テーマに沿いながら、受講者の興味・関心も視野に入れて講義形式で行う。毎回レジメやプリント資料などを配付して、理解を深める一助とする。適宜写真・映像等の視覚教材も利用したり、意見交換の場を設けたりする。資料収集の方法、卒業論文等の論文作成方法についても解説する。

◆**準備学習** 「歴史とは現代と過去との対話である」(E.H.カーラー)。日頃から中国近現代史の書物に親しんだり、日中関係の時事的問題に関する新聞・雑誌記事を読んで保存したりすることを心がけてほしい。

◆**授業計画** [各 90 分]

1回目 ガイダンス (主題・方法等)	11回目 汪精衛政権下の民衆 (2)	21回目 日本人捕虜の反戦活動 (1)
2回目 中国近現代史概説	12回目 山西省の地方政府と民衆 (1)	22回目 日本人捕虜の反戦活動 (2)
3回目 日中戦争史概説 (1)	13回目 山西省の地方政府と民衆 (2)	23回目 戦争と新聞メディア (1)
4回目 日中戦争史概説 (2)	14回目 前半のまとめと意見交換	24回目 戦争と新聞メディア (2)
5回目 占領統治と民衆動員 (1)	15回目 国民党政府下の民衆 (1)	25回目 日本人の引揚げと留用 (1)
6回目 占領統治と民衆動員 (2)	16回目 国民党政府下の民衆 (2)	26回目 日本人の引揚げと留用 (2)
7回目 占領統治と民衆動員 (3)	17回目 共産党根拠地の民衆 (1)	27回目 日本人の引揚げと留用 (3)
8回目 東亜連盟とアジア主義 (1)	18回目 共産党根拠地の民衆 (2)	28回目 戦後の日中民衆 (1)
9回目 東亜連盟とアジア主義 (2)	19回目 戦時下日本の民衆 (1)	29回目 戦後の日中民衆 (2)
10回目 汪精衛政権下の民衆 (1)	20回目 戦時下日本の民衆 (2)	30回目 全体のまとめと意見交換

※別途、試験を実施する週（平成26年1月21日～24日）を設けています。

◆**教科書** [当日資料配布] レジメおよびプリント資料を当日配布する。

◆**参考書** 丸沼『日中戦争』 小林英夫 講談社現代新書 756円(税込) (送料260円)

丸沼『革命とナショナリズム 1925-1945』 石川禎浩 岩波新書 861円(税込) (送料260円)

◆**成績評価基準** 平常点30%，試験70%。毎回出席することを前提として評価する。

◆ E-Mail :

## ◆家計と企業の行動および市場について

## 〔経済原論〕

水曜日 4 時限

開講単位 4 位

担当者：片平 光昭

◆**学習目標** この講義では、まず経済学の分析方法を理解し、家計の行動（消費者行動）と企業の行動（生産者行動）を分析し、その家計と企業によって市場での均衡取引量や均衡価格がどのように決まるかについて理解します。この講座では、ミクロ経済理論を中心にして分析を進めています。

◆**授業方法** まず経済学の分析方法を説明し、ミクロ経済分析の基礎知識の把握から始めます。この講義では多くのグラフや簡単な式が用いられます。その意味や使い方を簡明に説明します。またこれらの分析がわれわれの日常生活にどのように関連しているかを現実に即して説明していきます。

◆**準備学習** この講義は、経済学の基礎的知識を土台にしてミクロ経済分析を行ないます。そのために、この講義を受講する前に「経済学」あるいは「経済学概論」を受講しておく方が望ましいでしょう。またこの講義は、毎回の講義を理解したものとして進められるので、欠席せずに必ず前回の講義内容を把握しておくことが重要です。予習も教科書を単に読むだけでなく、理解しづらい箇所をチェックしておけば講義がより鮮明に把握しやすいでしょう。

◆**授業計画** [各 90 分]

1回目 ガイダンス	11回目 需要の価格弾力性	21回目 市場の分類について
2回目 ミクロ経済分析とマクロ経済分析	12回目 消費者需要への外部効果	22回目 完全競争市場の成立条件
3回目 消費と効用理論	13回目 生産要素と生産関数	23回目 均衡取引量と均衡価格
4回目 無差別曲線の性質	14回目 費用の種類と費用曲線	24回目 需給均衡への調整過程
5回目 消費の限界代替率	15回目 前期のまとめのテスト	25回目 需要曲線のシフト要因
6回目 所得の制約について	16回目 平均費用と限界費用	26回目 供給曲線のシフト要因
7回目 所得の変化と消費者需要	17回目 総収入曲線と市場価格	27回目 余剰分析と資源の配分
8回目 需要の所得弾力性	18回目 総収入と総費用と利潤	28回目 不完全競争市場の形成要因
9回目 価格の変化と消費者需要	19回目 価格変化と利潤最大化	29回目 寡占市場の価格決定理論
10回目 代替効果と所得効果	20回目 短期と長期の供給曲線	30回目 市場の失敗について

※別途、試験を実施する週（平成26年1月21日～24日）を設けています。

◆**教科書** 通材『経済原論 0711／経済学原論 0712』 通信教育教材（教材コード000159）  
2,350円(送料込)

◆**参考書** 必要に応じて講義中に指示します。

◆**成績評価基準** 毎回出席することを前提として、中間試験、小テスト、学年末試験により総合的に評価します。

◆ E-Mail :

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」及び「氏名」を記入。例：「日本大学通信教育部 24131999 日大通子」

## ◆日本経済のあゆみと現状の課題

## 〔日本経済論〕

火曜日 3 時限

開講単位 4 単位 担当者：飯島 正義

◆**学習目標** 高度経済成長以降の日本経済のあゆみを確認していくと共に、1990年代以降今日までの日本経済については経済統計等の分析を中心に理解を深め、今日の日本経済の課題について考えていきます。

◆**授業方法** 講義形式。授業当日にプリントを配布し、それを中心に講義を進めていきます。

◆**準備学習** 授業の時に資料を数回分まとめて配布しますのでそれを事前に読んで下さい。その上で、通信教育部のテキスト等で関係するところを読んで理解を深めておいて下さい。

### ◆授業計画〔各 90 分〕

1回目 授業内容等の説明	11回目 日米貿易摩擦の激化	21回目 90年代の日本経済（1）
2回目 経済復興期の日本経済	12回目 金融の自由化	22回目 90年代の日本経済（2）
3回目 高度経済成長の始まり	13回目 行財政改革	23回目 2000年以降の日本経済（1）
4回目 高度成長のメカニズム	14回目 ブラザ合意と円高	24回目 2000年以降の日本経済（2）
5回目 高度成長と国民生活	15回目 復習と確認テスト	25回目 世界金融危機と日本経済
6回目 ドル・ショック	16回目 バブル経済の形成	26回目 金融危機後の日本経済
7回目 高度成長の終焉	17回目 バブル経済の崩壊	27回目 日本経済の課題（1）
8回目 スタグフレーション	18回目 長期不況に対する見方	28回目 日本経済の課題（2）
9回目 産業構造の変化	19回目 90年以降の日本経済分析（1）	29回目 日本経済の課題（3）
10回目 レガノミクス	20回目 90年以降の日本経済分析（2）	30回目 総復習
※別途、試験を実施する週（平成26年1月21日～24日）を設けています。		

◆**教科書** **〔当日資料配布〕**当日プリントを配布します。

◆**参考書** **通材『日本経済論 0736』** 通信教育教材（教材コード 000466）2,850円（送料込）  
〈この教材は市販の『日本経済読本』金森久雄他著（東洋経済新報社）と同一です〉  
それ以外の参考書については授業の中で随時紹介していく予定です。

◆**成績評価基準** 平常点（授業への取り組み、確認プリントの提出等）30%、筆記試験 70%で評価します。

◆**E-Mail :**

## ◆グローバリゼーションと世界経済

## 〔国際経済論〕

木曜日 3 時限

開講単位 4 単位 担当者：陸 リク ユウゲン 亦群

◆**学習目標** 戦後の国際経済の発展過程をたどり、国際経済学に関する基礎理論としての比較優位の理論や国際貿易に関する基礎的な理論、ならびに為替相場決定の理論や国際通貨制度等について解説し、グローバル経済の進展および国際経済問題に関する幅広い知識を提供する。

◆**授業方法** 本講義は教材の内容を中心に原則として板書で授業を進める。必要に応じてパワーポイントを使用して講義関連資料および国際経済関連の新聞・雑誌記事等を解説し、そのプリント資料を配布する。

◆**準備学習** 国際経済論は応用経済学分野の科目であることから、経済学概論、経済原論（経済学原論）、経済学の何れかの科目を履修済みの上、本講義を受講することをお勧めする。事前に経済学の基礎理論を温故し、講義終了後に教材内容に付き合わせてノートを整理し復習すること。

### ◆授業計画〔各 90 分〕

1回目 オリエンテーション	11回目 国際貿易の純粋理論による説明①	21回目 IS-LM-BP 分析
2回目 世界経済の生成と発展	12回目 国際貿易の純粋理論による説明②	22回目 国際マクロ経済政策①
3回目 両大戦間期の世界経済	13回目 關税と経済厚生	23回目 国際マクロ経済政策②
4回目 戦後の世界経済の発展とその特徴	14回目 輸出入政策と管理貿易	24回目 外国為替相場の決定理論①
5回目 戦後の経済体質と経済構造の変質	15回目 自由貿易と保護貿易	25回目 外国為替相場の決定理論②
6回目 1990年代以降の世界経済の変貌	16回目 國際収支統計	26回目 為替相場の変動と市場介入
7回目 伝統的貿易理論	17回目 外国為替市場	27回目 円高と日本経済
8回目 新古典派の貿易理論①	18回目 対外収支と貯蓄投資バランス	28回目 外国為替制度の選択と国際通貨制度
9回目 新古典派の貿易理論②	19回目 外国貿易乗数と弾力性アプローチ	29回目 市場化とグローバリゼーション
10回目 近代的貿易理論	20回目 マクロ経済分析の基礎	30回目 講義のまとめ
※別途、試験を実施する週（平成26年1月21日～24日）を設けています。		

◆**教科書** **通材『国際経済論 0737』** 通信教育教材（教材コード 000281）1,950円（送料込）

◆**参考書** 講義内容に応じて随時紹介する。

◆**成績評価基準** 筆記試験。国際経済学の基礎知識を身に付けているかを判定する。

◆**E-Mail :**

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」及び「氏名」を記入。例：「日本大学通信教育部 24131999 日大通子」

## ◆金融の基礎を学ぶ

## 〔金融論〕

火曜日 4 時限

開講単位 4 単位 担当者：谷川 孝美

◆**学習目標** 我々は日々の生活で現金やクレジットカードなどをもちいています。また、預金、振込などで銀行など金融機関を利用しています。この講義では、貨幣とは何か、どのように定義されているのかといった基本的な事柄や、銀行などの金融機関や金融市場を含めた金融システム、中央銀行による金融政策などについて、その基礎理論と共に理解することを目的とします。

◆**授業方法** 授業計画にしたがって、パワーポイントを利用した講義形式で行います。講義では、基本的な事柄を中心に、全体的かつ平易な解説をする予定です。なお、講義の進捗状況によっては授業計画が前後することもあります。

◆**準備学習** 金融理論の理解には、マクロ経済学の基礎が重要になります。学習の準備として確認をしておくと良いでしょう。また、理解を深めるためにも、授業計画にあるトピックスについて、参考書などで予習をしておくとよいでしょう。

◆**授業計画【各 90 分】**

1回目 ガイダンス	11回目 資金循環	21回目 日本銀行の機能と業務－銀行の銀行
2回目 貨幣とは何か？－歴史	12回目 日本の金融システム－競争制限的規制	22回目 日本銀行の機能と業務－政府の銀行
3回目 貨幣とは何か？－定義	13回目 日本の金融システム－金融の自由化	23回目 伝統的金融政策
4回目 金利の種類	14回目 日本の金融システム－日本版ビッグバン	24回目 現在の金融政策と金融調節
5回目 実質金利と名目金利	15回目 前期の確認とまとめ	25回目 ゼロ金利政策と量的緩和政策
6回目 金利と期間構造	16回目 金融市場	26回目 ブルーデンス政策
7回目 債券価格と金利	17回目 直接金融、間接金融、市場型間接金融	27回目 金融政策の経済モデル－貨幣数量説
8回目 現在割引価値	18回目 銀行の役割と機能	28回目 金融政策の経済モデル－IS-LM 分析
9回目 金利の決定要因	19回目 中央銀行の役割	29回目 テーラー・ルール
10回目 信用リスクとリスクプレミアム	20回目 日本銀行の機能と業務－発券銀行	30回目 後期の確認とまとめ

※別途、試験を実施する週（平成 26 年 1 月 21 日～24 日）を設けています。

◆**教科書** 当日資料配布 当日プリント配布。

◆**参考書** 丸沼『現代の金融入門【新版】』 池尾和人 筑摩書房 819 円（税込）（送料 260 円）

丸沼『はじめて学ぶ金融のしくみ』家森信善 中央経済社 價格未定 改訂中 4 月上旬予定  
その他、授業時に適宜紹介します。

◆**成績評価基準** 授業への取り組み、小テスト、レポート、最終試験等により総合的に評価します。

◆**E-Mail :**

# ◆現代資本制社会の雇用・労働・賃金問題

〔労働経済論〕

火曜日 2 時限

開講単位 4 単位 担当者：今井 拓

◆**学習目標** 雇用・労働・賃金をめぐる問題は、時代と共に大きく変化を遂げています。問題を理解するためには、資本制経済における生産過程と労働市場の特徴と共に、財政金融政策や社会保障制度の機能、及びそれらの生産過程と労働市場への作用を考慮する必要があります。労働経済論では、雇用・労働・賃金をめぐる問題の多様な側面を理解し、その構造を捉えることを目指します。それにより、今日の日本社会の直面している課題と展望を明らかにしていきます。

◆**授業方法** 1回の授業毎に、1時間20分講義を行い、最後の10分間で受講生はアクションペーパーを記述し、提出します。次回の授業の冒頭にアクションペーパーへの応答を行ってから、その回の授業の内容に入ります。アクションペーパーの内容は、授業を聴いて大事だと思ったポイント、それに対する皆さんからのコメント、質問や疑問、意見です。前回の質問に答えてからその回の内容に入ることにより、講義に対する理解がかなりすすみますので、しっかり記述するようお願いします。

◆**準備学習** 取り扱う雇用・労働・賃金をめぐる問題状況について、 笹島（2009）や石畠・牧野（2009）などを参照しておいてください。講義レジュメに、次週の内容に関連する個所を指示します。

## ◆授業計画〔各 90 分〕

1回目 現代資本制の労働問題	11回目 有効需要不足と失業	21回目 年功賃金について
2回目 商品生産と労働問題	12回目 インフレーションと失業	22回目 サービス化と労働問題
3回目 剰余価値生産のしくみ	13回目 デフレーションと失業	23回目 サービス商品の特徴
4回目 剰余価値生産と労働時間	14回目 構造改革と失業	24回目 サービス資本と労働
5回目 剰余価値生産と賃金低下	15回目 論述課題	25回目 知識労働
6回目 剰余価値生産と失業問題	16回目 賃金とは何か	26回目 福祉国家と労働問題
7回目 景気循環と失業問題	17回目 所得としての賃金	27回目 労働力の脱商品化
8回目 利潤率の低下と失業問題	18回目 価格としての賃金	28回目 社会サービス労働の特質
9回目 主な経済学派の労働観	19回目 社会的実践としての賃金	29回目 社会サービス労働の変質
10回目 労働需要と労働供給	20回目 フェミニスト派への応答	30回目 展望：社会ファンド拡充

※別途、試験を実施する週（平成26年1月21日～24日）を設けています。

◆**教科書** **〔当日資料配布〕**毎回、レジュメと資料を配布します。配布したレジュメと資料は、毎回持参し、授業時に参考できるようにしておいてください。

◆**参考書** **通材**『労働経済論 0763』 通信教育教材（教材コード 000468） 3,400円（送料込）

〈この教材は市販の『労働の経済学』 笹島芳雄（中央経済社）と同一です〉

**丸沼**『よくわかる社会政策』 石畠良太郎・牧野富夫 ミネルヴァ書房（2009） 2,730円（税込）  
(送料 390円)

**丸沼**『マクロ経済学：ケインジアン、マネタリスト、マルクス派の見解』 シャーマン・エバンス（1989）  
新評論 3,465円（税込）(送料 390円)

Figart, Mutari, and Power (2002) Living Wages, Equal Wages, Routledge

◆**成績評価基準** リアクションペーパー、論述課題、学年末試験の総合

◆**E-Mail :**

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」及び「氏名」を記入。例：「日本大学通信教育部 24131999 日大通子」

## ◆知的活動の道具としてのコンピュータ

## 〔情報概論 A〕

木曜日 1 時限

開講単位 4 単位 担当者：中村 典裕

◆**学習目標** この講義では、単にマニュアル通りにコンピュータが操作出来るだけの人間を育成しようとは考えていない。コンピュータを知的活動の道具として使いこなせなければならない。特にオフィスソフト（文書作成、表計算、プレゼンテーション）が十分に活用できるだけの技術を習得する事を目標としている。

◆**授業方法** 本講義の中では、講義形式と演習の両方を行う。講義形式ではコンピュータの構造、歴史、情報倫理などについて学ぶ。演習ではコンピュータを実際に操作しながら、必要な技術の習得を目指す。ほぼ毎回課題を課し提出する。

◆**準備学習** 情報化社会と言われる現在、コンピュータやインターネットは非常に身近なものになっている。しかし、その原理や歴史的背景を理解している人はわずかであろう。本講義に望むにあたっては、テレビや新聞などの報道に関心を持つと同時に、身近な情報機器の操作方法を改めて確認するなどの態度が望まれる。

◆**授業計画** [各 90 分]

1回目 ガイダンス・ウェブ	11回目 段組・文章レイアウト	21回目 IF 関数・表参照関数
2回目 入力・タイピング	12回目 索引、脚注、目次	22回目 フィルタ・データベース
3回目 ワード基礎	13回目 パワーポイント入門	23回目 ピボットテーブル
4回目 コピー＆ペースト	14回目 パワーポイント活用	24回目 グループ化・串刺し集計
5回目 ワードアート・書式	15回目 パワーポイント演習	25回目 マクロとは何か
6回目 ビデオ鑑賞	16回目 表計算入門	26回目 VB 入門
7回目 表の作成	17回目 合計と平均・四則演算	27回目 HTML の基礎
8回目 社内文書	18回目 グラフの活用	28回目 ICT と社会
9回目 社外文書	19回目 書式、条件付き書式	29回目 総合演習
10回目 図形の作成	20回目 関数入門	30回目 最終課題

※別途、試験を実施する週（平成 26 年 1 月 21 日～24 日）を設けています。

◆**教科書** **当日資料配布** プリントと講義専用ウェブサイト上で資料を提供する。ウェブサイトのアドレスは授業中に指示する。

◆**参考書** 授業中に指示する。

◆**成績評価基準** 平常点 (30%), 平常課題 (30%), 最終課題レポート (40%)。毎回出席する事を前提として評価する。

◆**E-Mail :**

## ◆知的活動のための情報リテラシー

## 〔情報概論 B〕

金曜日 5 時限

開講単位 4 単位 担当者：一島 力男

◆**学習目標** まず、Windows の基本操作とネットワーク上でのパソコン利用について学ぶ。その上で、WWW による情報収集、情報セキュリティと情報倫理、ワードによる情報の編集、エクセルによる情報の分析、HTML・CSS を利用した Web ページの作成について学ぶ。

◆**授業方法** 本講座では講義と演習の両方を行う。講義ではコンピュータネットワークの仕組と歴史、情報セキュリティと情報倫理などについて学ぶ。演習では、コンピュータを知的道具として利用できるようなることを目的として様々な課題に取り組む。

※授業は、Windows-Vista, Office2007 の環境で実施する。

◆**準備学習** 教科書の Appendix 3 に書かれている内容を予習しておくこと。

◆**授業計画** [各 90 分]

1回目 ガイダンス	11回目 ワード (3)	21回目 エクセル (6)
2回目 コンピュータネットワークの仕組と歴史	12回目 ワード (4)	22回目 授業内テスト 2 (エクセル)
3回目 Windows の基本操作とネットワーク利用	13回目 ワード (5)	23回目 HTML (1)
4回目 情報の収集 (WWW とサーチエンジンの利用)	14回目 ワード (6)	24回目 HTML (2)
5回目 情報の共有 (Web メールの利用)	15回目 授業内テスト 1 (ワード)	25回目 HTML (3)
6回目 情報セキュリティと情報倫理	16回目 エクセル (1)	26回目 HTML (4)
7回目 コンピュータで利用する単位とファイル形式	17回目 エクセル (2)	27回目 CSS (1)
8回目 ペイントの利用と画像処理	18回目 エクセル (3)	28回目 CSS (2)
9回目 ワード (1)	19回目 エクセル (4)	29回目 CSS (3)
10回目 ワード (2)	20回目 エクセル (5)	30回目 授業内テスト 3 (HTML・CSS)

※別途、試験を実施する週（平成 26 年 1 月 21 日～24 日）を設けています。

◆**教科書** **丸沼**『これからの情報リテラシー』 小林貴之・谷口郁生・毒島雄二著 共立出版 2,520 円（税込）  
(送料 390 円) ISBN978-4-320-12227-7

※同じ出版社で他著者による同書名の本がありますので間違わないようお願いします。

◆**参考書** 授業中に指示する。

◆**成績評価基準** 授業への取り組み (10%), 実習課題 (30%), 提出課題 (30%), 授業内テスト (30%) により総合評価する。

※授業に毎回出席することを前提に評価する。

◆**E-Mail :**

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」及び「氏名」を記入。例：「日本大学通信教育部 24131999 日大通子」

## ◆商品知識と製品戦略について学ぶ

〔商品学〕

金曜日 5 時限

開講単位 4 単位

担当者：鄭 舜玉

チョン  
スンオク

◆**学習目標** 「商品の洪水」の現代において、我々は毎日数多くの商品を選択し使用している。今日の商品は従来のように物理的特性を提供するだけではなく、イメージや感動も提供するようになっている。本講義では、このように我々の生活に密着した商品について、基礎的な知識から新製品戦略までを学習する。

◆**授業方法** 講義形式で、配布プリントとパワーポイントにて行う。質疑応答は毎回予定しており、積極的な発言を期待する。また、毎回授業の終わりに簡単な感想、質問、意見を書いてもらい、次回にコメントする。

◆**準備学習** 予習は求めないが、前回の講義内容は必ず復習しておくこと。また日頃から日経新聞を読むようにすること。

### ◆授業計画〔各 90 分〕

1回目 ガイダンス	11回目 商品の標準化	21回目 PB 商品
2回目 商品の概念および適性	12回目 ネットワーク外部性	22回目 製品ライフサイクル
3回目 商品の構成要素	13回目 イノベーション	23回目 市場環境分析
4回目 商品の分類	14回目 前期のまとめと試験対策	24回目 消費者の意志決定プロセス
5回目 商品の品質	15回目 前期試験	25回目 マーケティングの概念
6回目 商品の表示	16回目 商品のパッケージ	26回目 製品戦略
7回目 商品の検査	17回目 商品のデザイン	27回目 価格戦略
8回目 商品の評価	18回目 商品と環境	28回目 流通戦略
9回目 商品の安全性	19回目 商品と社会	29回目 プロモーション戦略
10回目 トレーサビリティ	20回目 消費者の権利・責任	30回目 後期のまとめと試験対策

※別途、試験を実施する週（平成 26 年 1 月 21 日～24 日）を設けています。

◆**教科書** 〔当日資料配布〕当日プリント配布。

◆**参考書** 〔丸沼〕『商品学と商品戦略』（KGU 叢書） 石持悦史著 白桃書房 3,570 円（税込）（送料 390 円）  
また、必要に応じて授業中に紹介する。

◆**成績評価基準** 授業への参加・貢献（平常点）20%、筆記試験 80%（前期試験 + 後期試験）

◆**E-Mail :**

## ◆現代マーケティングの体系

〔マーケティング〕

火曜日 2 時限

開講単位 4 単位

担当者：佐藤 稔

◆**学習目標** マーケティングの生成から現代に至るまでの歴史的変遷、発展過程を通して現代マーケティングの体系について理解する。

◆**授業方法** 講義形式。

◆**準備学習** 特に必要としない。

### ◆授業計画〔各 90 分〕

1回目 マーケティングの生成	11回目 副次的製品計画の内容	21回目 プロモーションの体系（2）
2回目 マーケティング概念	12回目 価格政策の意義	22回目 広告の役割
3回目 マーケティングの研究方法	13回目 価格決定の処方式（1）	23回目 広告の種類
4回目 マーケティング戦略の意義	14回目 価格決定の処方式（2）	24回目 販売員の役割・管理
5回目 マーケティング戦略の形態	15回目 価格政策と独占禁止法	25回目 販売促進政策の体系
6回目 マーケティングの諸領域	16回目 販売経路の意義	26回目 対象に販売促進政策の特性
7回目 マーケティングを取り巻く環境	17回目 販売経路の諸形態	27回目 ディスプレイの意義
8回目 マーケティング情報収集の意義	18回目 販売経路政策の類型と管理	28回目 ディスプレイの技法
9回目 マーケティング情報収集の技法	19回目 店舗づくり	29回目 物流政策の意義と役割
10回目 マーケティングの中核としての製品計画の内容	20回目 プロモーションの体系（1）	30回目 物流革新政策

※別途、試験を実施する週（平成 26 年 1 月 21 日～24 日）を設けています。

◆**教科書** 〔通材〕『マーケティング 0823』 通信教育教材（教材コード 000182） 2,200 円（送料込）

◆**参考書** 講義の中で指示。

◆**成績評価基準** 授業への参加、レポート提出及び最終試験など総合的に評価

◆**E-Mail :**

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」及び「氏名」を記入。例：「日本大学通信教育部 24131999 日大通子」

## ◆広告のマーケティングコミュニケーション論 〔広告論〕

金曜日 3 時限

開講単位 4 単位 担当者：樋口 紀男

◆**学習目標** <失われた 20 年>の停滞の中で、東日本大震災以降の中で、また一方ではインターネットやグローバル化の進展の中で、社会の人々の価値観が大きく揺らぎ市場が大きく変わってきた。今、マーケティングや広告には、新しい考え方方が求められている。本講では、広告・マーケティングの新しい考え方を目指して、広告マーケティングの価値創造を中心に進める。

◆**授業方法** 前半は伝統的なマーケティング論、広告論を中心に、諸論理、諸概念を批判的に読み解き、今問われているものが何かを明らかにしていく。後半は、前半を基本にしてマーケティング・コミュニケーションの新しい方向を探っていく。

◆**準備学習** 講義内容が多岐にわたりますので事典・辞書で調べることを心掛けること。マーケティング論や社会学関係の科目を履修し、そこでの知識を使うようにすると理解が進みます。

◆**授業計画** [各 90 分]

1回目 ガイダンスと授業の全体概要	11回目 広告効果について	21回目 インターネット広告（1）
2回目 広告とは何か	12回目 広告業界と広告ビジネス	22回目 インターネット広告（2）
3回目 広告の機能	13回目 広告規制	23回目 インターネット広告（3）
4回目 広告と社会	14回目 マーケティング・コミュニケーション	24回目 マーケティング・コミュニケーションと価値
5回目 経営戦略・マーケティング戦略	15回目 統合型マーケティング・コミュニケーション	25回目 市場価値のデザイン
6回目 メディア・情報・メッセージ	16回目 ブランド・コミュニケーション（1）	26回目 現代消費の性格
7回目 広告とメディア	17回目 ブランド・コミュニケーション（2）	27回目 消費の概念
8回目 表現戦略（2回）	18回目 グローバル・コミュニケーション（1）	28回目 新しい方向（1）
9回目 表現手法のタイプ	19回目 グローバル・コミュニケーション（2）	29回目 新しい方向（2）
10回目 媒体戦略	20回目 グローバル・コミュニケーション（3）	30回目 全体の総括

※別途、試験を実施する週（平成 26 年 1 月 21 日～24 日）を設けています。

◆**教科書** 丸沼『広告コミュニケーション論』 樋口紀男著 桜門書房 改訂中 価格未定 3 月下旬予定

◆**参考書** 丸沼『わかりやすい広告論』 石崎徹編著 八千代出版 2,835 円（税込）（送料 390 円）

◆**成績評価基準** 平常点（30%）と2回のテスト（前半 14 回終了時と後半終了時）

◆**E-Mail :**

## ◆現代商業の政策諸問題 〔商業政策〕

火曜日 3 時限

開講単位 4 単位 担当者：佐藤 稔

◆**学習目標** 現代商業の政策的諸問題について理解する。

◆**授業方法** 配布資料に基づく講義形式。

◆**準備学習** なし。

◆**授業計画** [各 90 分]

1回目 商業政策の意義	11回目 商店街の現状と活性化策	21回目 消費者基本計画の構成
2回目 商業政策の学問的地位	12回目 競争の意義	22回目 消費者取引をめぐる問題、消費者契約
3回目 流通政策登場と体系	13回目 競争政策、独占禁止政策の沿革	23回目 消費者取引の適正化
4回目 流通政策の目的	14回目 競争政策の体系（1）	24回目 消費者取引の実態（1）
5回目 流通政策の体系	15回目 競争政策の体系（2）	25回目 消費者取引の実態（2）
6回目 流通政策のあり方の評価基準	16回目 消費者の意義と消費者問題の生成	26回目 特定商取引法制定の経過
7回目 流通を取り巻く環境変化（1）	17回目 消費者問題の発生	27回目 特定商取引法の意義
8回目 流通を取り巻く環境変化（2）	18回目 消費者保護政策の変遷	28回目 特定商取引法の体系
9回目 現代中小商業政策の体系	19回目 消費者基本法制定の意義	29回目 消費者取引の適正化策（1）
10回目 中小売商業の振興策の商店	20回目 消費者基本法の概要	30回目 消費者取引の適正化策（2）

※別途、試験を実施する週（平成 26 年 1 月 21 日～24 日）を設けています。

◆**教科書** [当日資料配布] 必要な資料は配付する。

◆**参考書** なし。

◆**成績評価基準** 授業への参加、レポートの提出及び最終試験など総合的に評価。

◆**E-Mail :**

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」及び「氏名」を記入。例：「日本大学通信教育部 24131999 日大通子」

## ◆経営管理の本質を理論と事例で学ぶ

〔経営管理論〕

火曜日 1 時限

開講単位 4 単位 担当者：山田 敏之

◆**学習目標** 本講義では、現代企業の直面する諸問題を明らかにしつつ、そこで求められている経営管理の基礎的な概念、考え方、手法について理解を深めることを目標とします。前期は現代の経営管理が直面する課題、経営管理思想の歴史的変遷をたどりつつ、経営管理の個別領域として組織化と計画化（経営戦略）の問題を扱います。後期は組織の中の個人に焦点を当て、モチベーション、リーダーシップ、集団のマネジメントといった問題を扱います。

◆**授業方法** 概ね指定したテキストに従い、黒板での板書を基本とした講義形式の授業を行います。具体的な経営管理のケース（事例）やグラフ等の関連資料については配布資料、パワーポイントを使用します。理論の説明とケース（事例）を組み合わせることで、より実践性の高い内容にしていきたいと思います。なお、講義の終了前に経営管理に関する時事的な問題あるいはその日の講義の内容に関する小テストを毎回実施します。

◆**準備学習** 毎回の授業の課題に沿って指定したテキストの該当部分をあらかじめ読んでおいてください。授業計画で示された経営管理の諸概念について、分からぬ言葉や用語等があれば事前に経営学辞典あるいは参考書等を用いて調べてください。経営管理はきわめて現実性の高い学問領域ですので、日本経済新聞、日経産業新聞等の新聞や日経ビジネス、東洋経済、エコノミストといった経済雑誌にも絶えず目を通すようにしておいてください。

### ◆授業計画〔各 90 分〕

1回目 イントロダクション	11回目 経営戦略の基礎概念	21回目 リーダーシップの基礎的概念と資質理論
2回目 経営管理の定義と諸機能	12回目 経営戦略の誕生と伝統的な戦略形成	22回目 リーダーシップの行動理論Ⅰ
3回目 経営管理の歴史Ⅰ（ティラーの考え方）	13回目 アンソフの戦略論とシナジー概念	23回目 リーダーシップの行動理論Ⅱ
4回目 経営管理の歴史Ⅱ（ホーソン実験）	14回目 経験曲線と製品ライフサイクル	24回目 リーダーシップのコンティンジェンシー理論
5回目 現代企業が直面する課題Ⅰ	15回目 PPM と資源配分	25回目 新しいリーダーシップ理論
6回目 現代企業が直面する課題Ⅱ	16回目 モチベーションの定義と理論の概要	26回目 経営トップの役割
7回目 組織の定義と伝統的な組織原則	17回目 モチベーションのコンテント理論	27回目 集団の基本概念
8回目 組織構造Ⅰ（職能別組織と事業部制組織）	18回目 モチベーションのプロセス理論Ⅰ（目標管理）	28回目 集団のダイナミクス
9回目 組織構造Ⅱ（マトリックス組織）	19回目 モチベーションのプロセス理論Ⅱ（期待理論）	29回目 チームの本質と種類
10回目 組織構造Ⅲ（カンパニー制と持株会社）	20回目 内発的モチベーション理論	30回目 チーム・マネジメント

※別途、試験を実施する週（平成 26 年 1 月 21 日～24 日）を設けています。

◆**教科書** 〔丸沼〕『人と組織を活かす経営管理論』 青木幹喜編著 八千代出版 3,940 円（税込）（送料 390 円）

◆**参考書** 〔丸沼〕『経営学イノベーションⅠ 経営学入門』 十川廣國 中央経済社 改訂中 価格未定 4 月中旬予定  
〔丸沼〕『マネジメントの世紀 1901 → 2000』 クレイナー S. 著 嶋口充輝監訳 岸本義之・黒岩健一郎訳  
東洋経済新報社 2,625 円（税込）（送料 390 円）

◆**成績評価基準** 平常点（毎回の小テスト）(20%)、最終試験(80%)。毎回出席することを前提として評価します。

◆ E-Mail :

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」及び「氏名」を記入。例：「日本大学通信教育部 24131999 日大通子」

## ◆簿記の基本構造を学ぶ

## 〔簿記論Ⅰ〕

水曜日 5 時限

開講単位 4 単位 担当者：林 徳順

◆**学習目標** 簿記は、企業の経済活動等を貨幣額等にとらえ、その企業がもっている財産の変動内容と結果をわかるように、記録、計算する技術である。簿記は貸借対照表及び損益計算書を作成する前提でもあるため、簿記の基本構造及びその仕組みを理解することは重要である。本講義は、初心者を対象とし、①簿記の基本構造及びその仕組みを理解し、②簿記検定3級レベル及び一部の内容については簿記検定2級レベルに到達することを目標としている。

◆**授業方法** 講義形式で授業計画に沿って授業を進める。授業中、講義した内容に関する練習問題を解いて頂くので、毎回電卓を持参する必要がある。一回でも授業に出席しない場合、理解できなくなるため、毎回必ず出席し、積極的授業に取り組むことを望む。

◆**準備学習** 各自に適した簿記に係る書物を読むことは、簿記の理論構造及びその仕組みを理解するのに有益である。「簿記論」、「現代簿記」、「簿記講義」など多くの書物のなかで、各自に適した書物を選んで読むことは、本講義での学習効果を更に向上させることができる。

◆**授業計画【各 90 分】**

1回目 ガイダンスと簿記の意義	11回目 商品売買取引	21回目 資本金と引当金
2回目 簿記の目的及び種類	12回目 売上原価と払出単価	22回目 決算整理1（収益と費用の見越し）
3回目 簿記の基礎概念	13回目 仕入及び売上げの割引・割戻	23回目 決算整理2（収益と費用の繰延べ）
4回目 簿記の取引の種類等	14回目 売掛金と買掛金	24回目 決算整理3（税金等）
5回目 勘定と仕訳	15回目 貸付金、借入金等	25回目 帳簿と伝票
6回目 帳簿の種類	16回目 立替金、預り金、仮払金等	26回目 決算と棚卸表等の作成
7回目 決算の意味と手続き等	17回目 手形の意義と会計処理	27回目 決算整理事項
8回目 元帳の締切り等	18回目 有価証券の意義と会計処理	28回目 決算振替手続き等
9回目 決算手続きと精算表	19回目 固定資産の取得及び売却	29回目 財務諸表の作成
10回目 現金預金取引	20回目 固定資産の減価償却	30回目 まとめ

※別途、試験を実施する週（平成 26 年 1 月 21 日～24 日）を設けています。

◆**教科書** 丸沼『新検定簿記講義3級商業簿記〈平成25年度版〉』渡部裕亘ほか編著 中央経済社 735円（税込）（送料340円）

丸沼『新検定簿記ワークブック3級商業簿記〈平成25年度版〉』渡部裕亘ほか編著 中央経済社 735円（税込）（送料340円）

※2冊まとめて購入の場合は送料390円

〔当日資料配布〕講義内容に応じて、当日にプリントを配布する場合がある。

◆**参考書** 使用しない。

◆**成績評価基準** 平常点40%（前期の授業中小テスト2回、後期の授業中小テスト2回）、期末試験60点。毎回出席することを前提として評価する。

◆ E-Mail :

## ◆歴史の（特に日本史）の中で商業を考えてみる

## 〔商業史〕

水曜日 4 時限

開講単位 4 単位 担当者：横山 則孝

◆**学習目標** 商業学および商学に関連する学問を学ぶにあたってひととおり商業の歴史にも通じておくことは必要である。そこで商業の歴史的展開についての概要の理解を深める。

◆**授業方法** 講義形式が中心であるが、近世の商業のところでは「史料」の読みもおこなうので、その際には各自に読んでもらうことも考えている。

◆**準備学習** 高等学校の教科書「日本史」の中に登場する商業関連の用語をひろっておいてほしい。また教材テキストを読んでおくことも必要だろう。

◆**授業計画【各 90 分】**

1回目 商業史とは	11回目 近世の貨幣制度	21回目 石門心学
2回目 人間社会における商業の発生	12回目 間屋制の成立	22回目 近世中後期の商業
3回目 古代・中世における商業（西洋）	13回目 近世初期の豪商	23回目 専売制の展開
4回目 日本古代における商業	14回目 町人勢力の交替	24回目 近世の奉行人制度
5回目 律令国家と商業	15回目 三井高利	25回目 近江商人
6回目 東市と西市	16回目 三井家の家訓	26回目 近代商業の社会経済環境
7回目 中世の商業	17回目 三井家の歴史	27回目 財閥
8回目 幕藩制社会の成立	18回目 鴻池家	28回目 店員制度
9回目 近世封建社会と商業	19回目 住友家	29回目 近代商業知識の普及
10回目 近世における交通の発達	20回目 近世前期の商業政策	30回目 全体のまとめ

※別途、試験を実施する週（平成 26 年 1 月 21 日～24 日）を設けています。

◆**教科書** 通材『商業史 0898』 通信教育教材（教材コード000197）1,700円（送料込）

〈この教材は市販の『日本商業史』藤田貞一郎他著（有斐閣）と同一です〉

◆**参考書** 『体系日本史叢書13 流通史Ⅰ』 豊田武、児玉幸多編 山川出版社

〈上記の本は品切れのため図書館等を利用して下さい〉

◆**成績評価基準** 小テスト（20%）、授業への参加（20%）、最終試験（60%）により総合的に評価する。

◆ E-Mail :

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」及び「氏名」を記入。例：「日本大学通信教育部 24131999 日大通子」

## ◆教師としての考え方

## 〔現代教職論〕

金曜日 1 時限〔前期のみ〕

開講単位 2 単位 担当者：古賀 徹

◆**学習目標** 教職の意義、教員の資質、及び教員の役割、教員の職務内容（服務）、等に関する理解を深めることをねらいとする。自らの教職者としての適性を問い合わせ、教員に必要なものとは何かを考え深めることとする。現代の教育の現実的問題に焦点をあてて考察していく。

◆**授業方法** 講義形式を中心とするが、グループワーク等の演習方式もとりいれる。活動・学習ごとにワークシート（ミニレポート）を書くこととそのフィードバックにより、さらに学習効果があがるよう試みる。

◆**準備学習** この授業は、教員養成の段階で学んでおくべき事項や学校現場で直面する課題を「題材（教材）」としてとりあげ学んでいくことで、諸々の問題に対して「教員としてどのように考えるのか」という意識・心得をつくりあげられるようにするのがねらいです。授業以外にも、様々な教育問題、教育に関する話題・情報について関心をもち、のぞんでください。

### ◆授業計画〔各 90 分〕

1回目 教職を履修する意味	11回目 諸外国の教師養成のしくみ
2回目 学習指導・生活指導	12回目 学習指導とは何か？
3回目 教師の他者理解能力	13回目 教師観・教員養成の歴史的変遷（近代以降）
4回目 教師の一日常・教師の成長	14回目 教員の研修（向上するための現職教育）
5回目 理想の教師とは？（グループワーク）	15回目 現場で求められる力とは？
6回目 仮想・教職員会議（ロールプレイ）	試験
7回目 最近の子ども事情（非行）	
8回目 最近の子ども事情（いじめ）	
9回目 最近の子ども事情（不登校）	
10回目 学級運営・教師の対応	

※別途、試験を実施する週（前期：平成 25 年 7 月 23 日～7 月 26 日 後期：平成 26 年 1 月 21 日～1 月 24 日）を設けています。

◆**教科書** **〔当日資料配布〕** 資料・レジュメを配布する。

◆**参考書** 授業中に指示する。**〔当日資料配布〕** 適宜に資料・レジュメを配布する。

◆**成績評価基準** この授業の評価は、授業への参加（グループ学習含む）、提出物・課題、試験成績の総合的評価とする。出席状況の悪いもの、課題未提出の場合は評価を行なわない。

◆ E-Mail :

## ◆教育の Identity 形成過程を学ぶ

## 〔教育原論／教育の思想〕

金曜日 2 時限〔前期のみ〕

開講単位 2 単位 担当者：古賀 徹

◆**学習目標** 「教育」とは何か？ 人間が社会の中で生きていく上で、なぜ教育が必要なのか？ 現在のように公教育が当たり前に実現されるようになってくるのには紆余曲折（歴史的な変遷）がありました。その実現のための強い光となつたのが本講義で学ぶ様々な「教育思想」です。教育の思想について学ぶということは、いわば「教育」の Identity 形成の過程を学ぶということでもあります。

◆**授業方法** 講義形式と「教育の思想」としてあらわされてきた様々な授業形式（グループワーク等）をとりいれる。前半は、テキストに記された思想家（人物）に関する講義を（教員が）行ないます。後半からは各自で担当箇所を決め、人物の思想上の特色について報告・質疑をすることで、互いに学びあえる授業としていきます。

◆**準備学習** テキストに記載されている「教育の思想」を著した人物たちは、「教育」のみではなく、様々な「社会」的な思想に関する論述があります。その当時の「時代の精神」を理解することも重要です。テキストをよく読むこととあわせて、西洋の近代史（近代以降の歴史）に関する本を読むと、さらに理解が増すと思います。

### ◆授業計画〔各 90 分〕

1回目 教育の歴史・思想とは？	11回目 現代の思想（アリエス）
2回目 世界の教育思想の歴史的変遷	12回目 脱学校論（イリイチ）
3回目 一斉教授の方法・起源（コメニウス）	13回目 新しい教育の思想
4回目 子どもの発見（ロック、ルソー）	14回目 日本の教育思想の歴史的変遷
5回目 人間教育の実践－直観教授（ペスタロッチ）	15回目 まとめ（「教育」を教養として考える）
6回目 科学的教育学（ヘルバート）	試験
7回目 幼児教育の思想（フレーベル）	
8回目 児童中心主義・経験主義（デューイ）	
9回目 公教育の実現（コンドルセ、オーエン、マン）	
10回目 関係論、自由教育（フーバー、アリエス）	

※別途、試験を実施する週（前期：平成 25 年 7 月 23 日～7 月 26 日 後期：平成 26 年 1 月 21 日～1 月 24 日）を設けています。

◆**教科書** **〔通材〕『教育原論 0901／教育の思想 0904』** 通信教育教材（教材コード 000199） 1,200 円（送料込）

◆**参考書** 授業中に指示する。**〔当日資料配布〕** 適宜に資料・レジュメを配布する。

◆**成績評価基準** この授業の評価は、授業への参加（グループ学習含む）、提出物・課題、試験成績の総合的評価とする。出席状況の悪いもの、課題未提出の場合は評価を行なわない。

◆ E-Mail :

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」及び「氏名」を記入。例：「日本大学通信教育部 24131999 日大通子」

## ◆授業デザイン力をつけよう

## 〔教育の方法・技術論〕

金曜日 2 時限〔後期のみ〕

開講単位 2 単位 担当者：古賀 徹

◆**学習目標** この授業は、「教員としての授業実践力」を修得することを目的としています。そのために次のような順序で学びます。①「授業が成り立つ条件」を理解する。②様々な授業形態を歴史的に、あるいは諸外国と比較することでより深く理解する。③カリキュラム構成方法を修得することで、学習指導計画を組み立てられるようにする。④実際に作業することで教育方法のコツを修得する。①～④によって、授業づくりと実践力とをつける（増し）ていきましょう。

◆**授業方法** 講義形式、ワークショップ形式、グループワーク、ロールプレイなどをとりいれる。

◆**準備学習** 方法論の理論やその種類・系統を理解するだけではなく、さらにその理解したことを実際に活用すること、生徒の理解を前提とする授業を構成することができるようになることが大事です。

他の各教科の指導法（教科教育法）の授業やテキストの記述からも（実施する）「授業」に関するイメージを具体的にあらわせるように学んでおくことをおすすめします。

## ◆授業計画〔各 90 分〕

1回目 「教える」ことと「学ぶ」こと	11回目 カリキュラム構成の方法
2回目 教育方法学の歴史（西洋教育方法史）	12回目 カリキュラムづくりの実習
3回目 教育方法学の歴史（日本の教育内容の変遷）	13回目 学習指導案の種類とその構成
4回目 「学習」概念（ヴィゴツキーの活動理論）	14回目 教育評価の方法（ルーブリック）
5回目 授業形態の多様化（バス学習、T.T 等）	15回目 「教える」—デザインの力
6回目 教材と教具	試験
7回目 問題解決学習と系統学習	
8回目 「はなす」ことと「さく」こと	
9回目 ロールプレイの方法論	
10回目 情報機器の活用・メディア教材構成の方法	

※別途、試験を実施する週（前期：平成 25 年 7 月 23 日～7 月 26 日 後期：平成 26 年 1 月 21 日～1 月 24 日）を設けています。

◆**教科書** **〔当日資料配布〕** 資料・レジュメを配布する。

◆**参考書** 授業中に指示する。**〔当日資料配布〕** 適宜に資料・レジュメを配布する。

◆**成績評価基準** この授業の評価は、授業への参加（グループ学習含む）、提出物・課題、試験成績の総合的評価とする。出席状況の悪いもの、課題未提出の場合は評価を行わない。

◆ **E-Mail :**

## ◆社会科授業の内容と方法（世界史授業のつくりかた）〔社会科・地理歴史科教育法 I〕

木曜日 5 時限〔前期のみ〕

開講単位 2 単位 担当者：古賀 徹

◆**学習目標** 社会科を構成する3分野（地理・歴史・公民）のうち、地理歴史科授業の目的・内容についての理解を深め、その実践的な授業方法を身につけられるようにする。本期の授業では歴史的分野（主に世界史）を主にとりあげるが、地理・政治経済・思想宗教など各分野間との総合的理を高めることを意識しておきたい。

◆**授業方法** 教科内容及び授業法の講義を行うが、各自1回以上の模擬授業を実践する。学習指導案を作成しての模擬授業と、その批評検討を通して学びあう授業とする。

◆**準備学習** 中学校（社会科）・高等学校の地理・歴史科に関する教科書の記述内容について、事前に読んで理解しておくと、実際にとりくむ授業づくりにおいて「授業」（生徒の学習活動）がイメージしやすくなります。授業中にも紹介しますが、学習指導要領（文部科学省ホームページからも確認可能）の記述に目を通しておくことも大事になります。

## ◆授業計画〔各 90 分〕

1回目 社会科・地歴科教育のねらい	11回目 中世ヨーロッパで授業をつくる
2回目 学習指導要領の理解、内容の取り扱い	12回目 グループでの教材研究、ポスターづくり
3回目 「世界史」を学ぶ意味	13回目 「世界史」「地理」授業の特色
4回目 資料活用能力を育む	14回目 教材解釈の能力とは？
5回目 学習指導案の作成方法	15回目 授業の評価・講評
6回目 実際の教材づくり	試験
7回目 ワークシートを使った授業づくり	
8回目 指導案の検討	
9回目 模擬授業（古代①）	
10回目 模擬授業（古代②）	

※別途、試験を実施する週（前期：平成 25 年 7 月 23 日～7 月 26 日 後期：平成 26 年 1 月 21 日～1 月 24 日）を設けています。

◆**教科書** **〔当日資料配布〕** 資料・レジュメを配布する。

◆**参考書** 授業中に指示する。**〔当日資料配布〕** 適宜に資料・レジュメを配布する。

◆**成績評価基準** 学習指導案を指定した分、作成して提出する。模擬授業を複数回行い、授業づくり（教材研究）への取り組み、グループワークへの参加度を加味して総合的に評価する。毎回出席を前提とする。

◆ **E-Mail :**

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」及び「氏名」を記入。例：「日本大学通信教育部 24131999 日大通子」

## ◆「生きる力」につなげる「倫理」の授業 〔社会科・公民科教育法Ⅰ〕

木曜日 5 時限〔後期のみ〕

開講単位 2 単位 担当者：古賀 徹

◆**学習目標** 社会科・公民科教育の目的と教育内容について理解を深め、実践的な授業方法を身につけられるようにする。「現代社会」「倫理」「政治・経済」の各分野について必要とされる基礎知識を学び、適する教授方法を考えいく。特に「倫理」「哲学」「宗教」の課題を中心にして授業づくりをしていきたい。

◆**授業方法** 教科内容及び授業法の講義を行うが、各自1回以上の模擬授業を実践する。学習指導案を作成しての模擬授業と、その批評検討を通して学びあう授業とする。

◆**準備学習** 中学校（社会科）・高等学校の公民科に関する教科書の記述内容について、事前に読んで理解しておくと、実際にとりくむ授業づくりにおいて「授業」（生徒の学習活動）がイメージしやすくなります。授業中にも紹介しますが、学習指導要領（文部科学省ホームページからも確認可能）の記述に目を通しておくことも大事になります。

◆**授業計画〔各 90 分〕**

1回目 公民科の授業のねらい（新学習指導要領）	11回目 模擬授業（生徒参画型の授業）
2回目 中学校「社会」の指導要領とねらい	12回目 観点別評価をマスターする
3回目 指導案作成の方法と授業の手法	13回目 単元指導計画づくり
4回目 「生きる力」「言語活動」を含む授業計画	14回目 公民科教員としての授業力とは
5回目 授業づくり…指導案検討	15回目 まとめ
6回目 「倫理」の授業づくり（古代の思想）	試験
7回目 「倫理」の授業づくり（中世の宗教観）	
8回目 「倫理」の授業づくり（近代をひらく哲学）	
9回目 模擬授業（研究成果を授業に反映する）	
10回目 模擬授業（人物を中心とした授業）	

※別途、試験を実施する週（前期：平成 25 年 7 月 23 日～7 月 26 日 後期：平成 26 年 1 月 21 日～1 月 24 日）を設けています。

◆**教科書** 当日資料配布 資料・レジュメを配布する。

◆**参考書** 授業中に指示する。当日資料配布 適宜に資料・レジュメを配布する。

◆**成績評価基準** 学習指導案を指定した分、作成して提出する。模擬授業を複数回行い、授業づくり（教材研究）への取り組み、グループワークへの参加度を加味して総合的に評価する。毎回出席を前提とする。

◆ **E-Mail :**

## ◆経済地理学

〔経済地理学〕

金曜日 1 時限

開講単位 4 単位 担当者：田村 和彦

◆**学習目標** いわゆる失われた 10 年以降、日本経済は経済の成熟化として「経済のソフト化」、「経済のサービス化」が進行してきた。その結果が情報化社会と経済のグローバル化である。こういう状況下における産業の立地展開について検討する。各自あらかじめ経済状況について調べておくこと。空間的な経済格差が問題となっている。この点に言及してみたい。

◆**授業方法** いわゆる失われた 10 年以降、日本経済は経済の成熟化として「経済のソフト化」、「経済のサービス化」が進行してきた。その結果が情報化社会と経済のグローバル化である。こういう状況下における産業の立地展開について検討する。各自あらかじめ経済状況について調べておくこと。空間的な経済格差が問題となっている。この点に言及してみたい。

◆**準備学習** あらかじめ、各自現在の経済問題に关心を持つこと。

◆**授業計画〔各 90 分〕**

1回目 シラバス授業	11回目 消費構造のサービス化と流通	21回目 ウェーバー以後の工業立地論
2回目 シラバス授業	12回目 生活者・消費者の意識・行動	22回目 日本における工業立地の実際
3回目 地域と空間	13回目 経済のソフト化	23回目 クリスターの中心地理論
4回目 経済空間の普遍性と固有性	14回目 経済のハイテク化	24回目 商業・サービス業の立地と中心地理論
5回目 成熟社会の意味	15回目 高度情報化と生産企業空間	25回目 オフィス立地に関する諸理論
6回目 生活者の質	16回目 チューナン理論 農業立地論	26回目 大企業の本社立地
7回目 生活者の生活空間	17回目 「孤立国」について	27回目 企業内における階層と立地
8回目 アメニティ・ライフ	18回目 チューナン圏の事例	28回目 重厚長大から軽薄短小へ
9回目 産業構造のサービス化	19回目 ウェーバーの工業立地論	29回目 ハイテク産業の特質
10回目 産業の情報化	20回目 ウェーバー工業立地論の適用事例	30回目 まとめ

※別途、試験を実施する週（平成 26 年 1 月 21 日～24 日）を設けています。

◆**教科書** 前期：通材『経済地理 0973／経済地理学 0974』 通信教育教材（教材コード 000233）  
2,000 円（送料込）

後期：丸沼『地域と産業』 富田和暁著 原書房 2,100 円（税込）（送料 340 円）

◆**参考書** なし。

◆**成績評価基準** 試験（100%）。ただし、授業は毎回出席することを前提とする。

◆ **E-Mail :**

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」及び「氏名」を記入。例：「日本大学通信教育部 24131999 日大通子」

## ◆近代経済学入門

## 〔経済学概論〕

木曜日 2 時限

開講単位 4 単位

担当者：陸

リク  
ユウグン  
亦群

◆**学習目標** この講義は体系的な学問としての経済学を初めて学ぶことを前提に、ミクロ経済学、マクロ経済学の2つの部分から構築されている。初步的な説明を重視し無味乾燥な解説を避けて、できるだけ具体例から導入して分かりやすく講義するように心がけている。

◆**授業方法** 本講義は原則として板書で授業を進める。必要に応じてパワーポイントを使用して具体例や経済動向を解説し、そのプリント資料を配布する。

◆**準備学習** 講義終了後にノートを整理し演習問題を解き学習内容を復習すること。

◆**授業計画**〔各 90 分〕

1回目オリエンテーション	11回目企業行動と費用関数②	21回目乗数と政府部門
2回目経済学とは何か	12回目長期費用曲線と長期供給曲線	22回目資産の特性
3回目ミクロ経済学の理論と方法	13回目完全競争市場と効率性①	23回目貨幣需要と利子率
4回目市場機構と需要・供給	14回目完全競争市場と効率性②	24回目貨幣の供給
5回目消費者行動と需要曲線①	15回目市場と政府の役割	25回目資産市場の均衡と利子率の決定
6回目消費者行動と需要曲線②	16回目マクロ経済学とは	26回目財市場の均衡とIS曲線
7回目消費者需要理論の応用と拡張	17回目マクロ経済分析の基本的枠組み	27回目貨幣市場の均衡とLM曲線
8回目企業行動と生産関数①	18回目国民経済計算	28回目IS/LM分析と財政金融政策
9回目企業行動と生産関数②	19回目経済成長と物価	29回目財政赤字の経済学
10回目企業行動と費用関数①	20回目国民所得の決定	30回目講義のまとめ

※別途、試験を実施する週（平成 26 年 1 月 21 日～24 日）を設けています。

◆**教科書** 当日資料配布 当日プリント配布。

◆**参考書** 丸沼『ミクロ経済学 第3版』西村和雄 岩波書店 2001年 2,940円（税込）（送料 390円）  
丸沼『入門マクロ経済学 第5版』中谷 嶽 日本評論社 2007年 2,940円（税込）（送料 390円）

◆**成績評価基準** 筆記試験。基礎理論を身に付けているかを判定する。

◆**E-Mail :**

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」及び「氏名」を記入。例：「日本大学通信教育部 24131999 日大通子」

# VIII 通学定期券の購入手続

通学定期券は、正科生がスクーリング受講を目的として通学する場合に限り購入できます。通学定期券購入の手続き等は、以下のとおりです。なお、平成24年4月1日より手続き等が変更になりました。

## 1 学生証裏面学籍シールへの記入

- ① 「学生番号」、「氏名」、「現住所」を黒のボールペンで記入してください。
- ② 「通学区間」欄に対象区間及び経由（乗り換え駅）を記入してください。また、定期券が2枚に分かれる場合は2行に分けて記入してください。

## 2 購入手続き

- ① 学生証及び「スクーリング受講許可通知書」持参で事務取扱時間内に学生課窓口に来校し、所定の用紙に記入して「在籍確認」印の押印を受けてください。
- ② 通学定期券取扱い駅の窓口にて定期券購入用紙に必要事項を記入し、押印済の学生証を提示することで通学定期券が購入できます。

## 3 学生課窓口で記入する所定用紙について

- ① 通学定期乗車券発行控（全員必要）
- ② 滞在先届（スクーリング期間中に現住所以外から通学する場合に限り必要）
- ③ 通学証明書（都営地下鉄、都電、各路線バス等を利用する場合に必要）

## 4 対象区間

自宅（又は滞在先）の最寄り駅から以下「通信教育部最寄り駅」までの最短経路を対象とします。

### 【通信教育部最寄駅】

鉄道会社	最寄駅
JR 東日本	水道橋駅
都営地下鉄	水道橋駅、神保町駅
東京メトロ	神保町駅、後楽園駅

※ 最短経路とは所要の時間が最短、交通費が最安、乗換が最少である等の合理的な経路のことをいいます。

※ 途中経路や迂回経路は一切認められません。

## 5 禁止事項

通学定期券を不正に使用してはいけません。不正使用したことが発覚すると、鉄道会社等の営業規則に基づき定期運賃の数倍の罰則金等が科せられます。

また、大学自体も通学定期券発行の指定から外され、他の学生に多大な迷惑をかけることになります。不正使用は絶対に行わないでください。

### 【不正使用一覧】

① 住所を偽って通学証明書の発行を受けること。	② 他人に譲渡・貸与すること。
③ 記名人以外が使用すること。	④ その他、不正に使用すること。

## 6 その他注意事項

- ① 通学区間が変更となった場合は、学生課に届け出してください。
- ② 年度内に「通学定期乗車券発行控」欄が不足となった場合は、学生課へ届け出してください。
- ③ 「在籍確認」印は、年度内に限り有効です。

# MEMO

時間割

開講講座表

受講講座の選定

受講手続

受講及び試験

シラババスと  
使用教材

通  
購  
入  
手  
続  
券  
の

軽井沢オリエン  
テーション

胸部X線検査

カリキュラム

各種用紙

本学の厚生施設である軽井沢研修所を使用し、1泊2日の合宿形式でオリエンテーションを開催します。このオリエンテーションの目的は、学事・学習指導はもとより2日間のプログラムを通して学生相互の連帯感を高めることにあります。特に新入生の皆さんには、スクーリングはもちろんですが、リポート・科目修得試験など、通信教育独特の学習方法を理解するためにも、仲間同士の交流を深めるためにも、このオリエンテーションに極力参加してください。

## 1 開催日

平成25年5月18日(土)・19日(日) 1泊2日

## 2 場所

日本大学軽井沢研修所

長野県北佐久郡軽井沢町軽井沢 1052-1

TEL: 0267 (42) 2401

## 3 対象者

① 平成25年度新入学生(科目履修生含む)

② 参加を希望する在学中の学生

ただし、これまでに軽井沢オリエンテーション・ガイダンスへ参加した学生は対象外です。

## 4 交通等

① 通信教育部から貸切バスにより往復します。

ただし、地方の学生など、居住地の事情により、直接、軽井沢研修所に行くことを希望する場合は、現地集合を認めます。

なお、自家用車・二輪車等での参加は認めません。

② 必ず全員宿泊していただきます。

## 5 参加費用

① バスで往復の場合

10,000円(バス料金・傷害保険料・宿泊費(夕食・朝食代を含む)・第1日目の昼食代・懇親会費用等)

② 現地に集合の場合

4,600円(傷害保険料・宿泊費(夕食・朝食代を含む)・懇親会費用等)

※交通費は自己負担、第一日目の昼食は含まれません。

## 6 参加手続

参加希望者は、本誌巻末掲載(又は「Web報」からも入手可能)の「軽井沢オリエンテーション参加申込書」に必要事項を記入し、費用と共に学生課へ申込みをしてください(郵送の場合は現金書留にて会計課へ送付すること)。※5月1日(水)必着。

申込者には後日、実施要項を郵送します。

## 7 参加学生

100名(見込)※定員に達し次第、締切りとします。

## 平成25年度軽井沢オリエンテーションスケジュール（概要）

	時間	内 容
第1日目	午前	通信教育部集合・出発（バス）
		軽井沢研修所到着、研修所にて昼食
	午後	開会式
		ネーチャーワーキング（軽井沢散策）※雨天中止
		夕食・入浴
		ふれあいタイム（教職員及び学生相互の懇親）
		就寝
	午前	起床・朝食
		職員による学事指導（単位修得方法等）
		各学科専攻教員による談話会
		軽井沢研修所出発（バス）
	午後	軽井沢駅周辺散策（昼食は各自）
		軽井沢出発（バス）
		通信教育部帰着・解散（17:00頃）

時間割

開講講座表

受講講座の選定

受講手続

受講及び試験

シラバスと  
使用教材通学定期券の  
購入手続軽  
井  
沢  
オ  
リ  
エン

胸部X線検査

カリキュラム

各種用紙

# X 胸部X線検査

肺結核等の感染症予防を目的として、「胸部X線間接撮影」を実施しています。大学では集団感染を防止する義務があるので、必ず受診してください。また、毎年受診が必要です。

## 1 対象者

昼間・夜間（春期）スクーリング受講生全員。ただし、次に該当する場合は受診を認めません。

- ① 平成25年度に教育実習又は介護等の体験を受ける者。
- ② 平成25年1月以降に胸部X線検査を受けていて、検査結果を証明できる物（コピーも可）を提出できる者。該当する場合は5月31日（金）までに学生課へ提出してください。
- ③ 妊娠等の理由により検査を受けることができない者。該当する場合は、5月31日（金）までに理由書を学生課へ提出してください。

## 2 受診日及び時間

平成25年5月28日（火）～5月31日（金）※4日間

10時00分～18時30分（13時00分～14時00分を除く）

## 3 場所及び受診方法

学生ホールに受付を設置します。事前申込は不要。各自都合の良い日・時間に受診してください。

## 4 受診料

無料（大学負担）

## 5 受診結果

全員に通知します。なお、受診・健康診断証明書は一切発行しません。

## 6 その他注意事項

女性は下着の金属類が写ってしまうため、白無地のTシャツ等を用意してください。その他、相談は学生課（03-5275-8921）まで。

# MEMO

時間割

開講講座表

受講講座の選定

受講手続

受講及び試験

シラババスと  
使用教材

通学定期券の  
購入手続

軽井沢オリエン  
テーション

胸部X線検査

カリキュラム

各種用紙

# XI カリキュラム

教育課程のことを一般的にカリキュラムといいます。

カリキュラムとは、それぞれの学校が教育目標を達成するために編成された教育内容の履修体系のことであり、具体的には授業科目とその履修方法の体系のことをいいます。

本学では平成25年4月1日現在、次の2つのカリキュラムがあります。

2つのカリキュラム

1 D カリキュラム

2 C カリキュラム

カリキュラムごとに授業科目を開設するため、次のケースのように、カリキュラムの相違によって、一部の科目に履修制限があります。

(例) D カリキュラム配当の授業科目である「英語基礎」は、同カリキュラム以外のカリキュラム適用者は履修できません。

したがって、各自が適用を受けるカリキュラムを正確に把握することが重要です。

いずれのカリキュラムに該当するかは、各自の入学年度や入学年で決定しますが、詳しくは次表で確認してください。

また、本学ではこれまで、カリキュラムの改正を複数回おこなって今日に至ります。

ただし、在学中にカリキュラムが改正されても、入学時に適用されたカリキュラムが変更されることはありません。

## 【平成25年度のカリキュラム適用状況】

正科生は学生証、科目履修生は科目履修生証で確認してください。

ともに番号体系は8桁ですが、そのうち3～5桁目を次表<カリキュラム適用状況表>に照らし合わせると、各自が適用を受けるカリキュラムが判別します。

学生証又は科目履修生証の3～5桁目とは次の太線内のことといいます。

1	1	1	1	1	1	1	1
---	---	---	---	---	---	---	---

## 【平成 25 年度のカリキュラム適用状況】

各自の学生（科目履修生）番号は8桁で構成されていますが、そのうち3～5桁目を下表に照らし合わせて各自のカリキュラムを確認してください。

種別	入学年度	学生（科目履修生）番号の 3～5桁目の表示		適用カリキュラム
		4月生	10月生	
正科生	平成 13 年度	** 015 ***		C カリキュラム
	平成 14 年度	** 021 ***	** 025 ***	
			** 026 ***	
	平成 15 年度	** 031 ***	** 035 ***	D カリキュラム
		** 032 ***	** 036 ***	C カリキュラム
			** 037 ***	
	平成 16 年度	** 041 ***	** 045 ***	D カリキュラム
		** 042 ***	** 046 ***	
		** 043 ***	** 047 ***	
			** 048 ***	C カリキュラム
	平成 17 年度	** 051 ***	** 055 ***	D カリキュラム
		** 052 ***	** 056 ***	
		** 053 ***	** 057 ***	
		** 054 ***	** 058 ***	
	平成 18 年度	** 061 ***	** 065 ***	
		** 062 ***	** 066 ***	
		** 063 ***	** 067 ***	
		** 064 ***	** 068 ***	
	平成 19 年度	** 071 ***	** 075 ***	
		** 072 ***	** 076 ***	
		** 073 ***	** 077 ***	
		** 074 ***	** 078 ***	
	平成 20 年度	** 081 ***	** 085 ***	
		** 082 ***	** 086 ***	
		** 083 ***	** 087 ***	
		** 084 ***	** 088 ***	
	平成 21 年度	** 091 ***	** 095 ***	D カリキュラム
		** 092 ***	** 096 ***	
		** 093 ***	** 097 ***	
		** 094 ***	** 098 ***	
	平成 22 年度	** 101 ***	** 105 ***	
		** 102 ***	** 106 ***	
		** 103 ***	** 107 ***	
		** 104 ***	** 108 ***	
	平成 23 年度	** 111 ***	** 115 ***	
		** 112 ***	** 116 ***	
		** 113 ***	** 117 ***	
		** 114 ***	** 118 ***	
	平成 24 年度	** 121 ***	** 125 ***	
		** 122 ***	** 126 ***	
		** 123 ***	** 127 ***	
		** 124 ***	** 128 ***	
	平成 25 年度	** 131 ***	** 135 ***	
		** 132 ***	** 136 ***	
		** 133 ***	** 137 ***	
		** 134 ***	** 138 ***	
科目履修生	平成 24 年度	** 120 ***	_____	D カリキュラム
	平成 25 年度	** 130 ***	_____	



- ・教材購入用紙（丸沼書店用）
- ・教材購入願（通信教育教材購入用）
- ・軽井沢オリエンテーション参加申込書

時間割

開講講座表

受講講座の選定

受講手続

受講及び試験

シラバースと  
使用教材通学定期券の  
購入手続軽井沢  
オリエンテーション

胸部X線検査

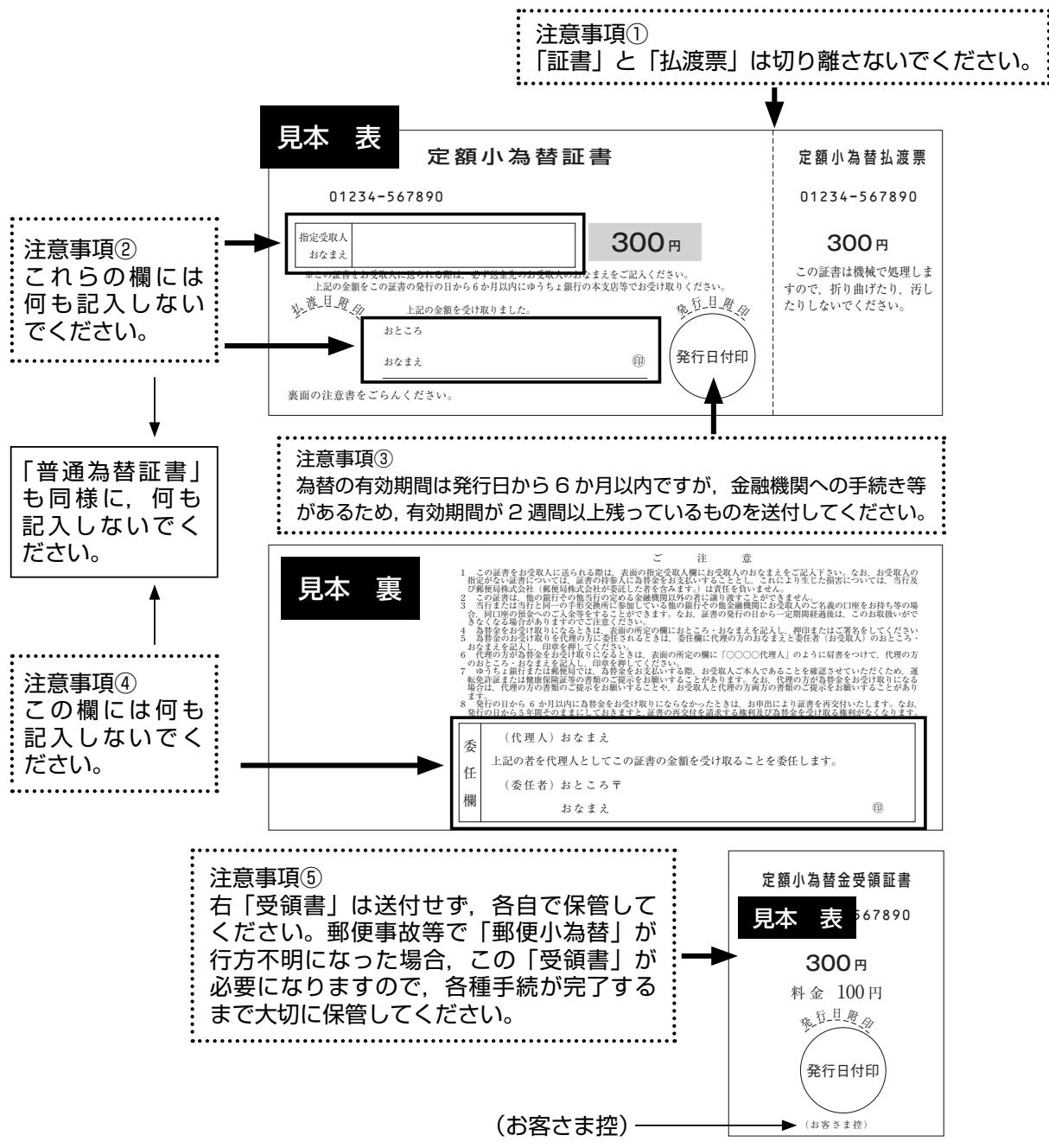
カリキュラム

各種用紙

## 「為替」送付時の注意事項

「証明書交付願」「追加科目履修届」「教材購入願」等の各種手続において、手数料等を郵送にて「定額小為替証書」又は「普通為替証書」で納入する場合には、以下のことに注意してください。

なお、「定額小為替証書」又は「普通為替証書」をゆうちょ銀行又は郵便局窓口で購入する際は、手数料がかかります（詳細は郵便局窓口でご確認ください）。



## 教材購入用紙(丸沼書店用)

市販教材(市販本) 購入用

※**丸沼**印の教材を郵送にて購入の際は、この用紙で申し込んでください。  
詳細は、「使用教材の購入」のページを参照してください。

(送付先) 丸沼書店

平成25年度 昼間スクーリング			
申込日	平成25年 月 日		
科目名	書名	教材費(税込)	送料
小計		円	円
合計		円	
購入方法 (いずれかに○)	①代金引換 ②定額小為替・郵便為替 ③現金書留		

※下記の住所、氏名の欄は返信用に使用しますのではっきり書いてください。

送 り 先	住 所	〒 -
	氏 名	
	電話番号	( )

※この用紙で『通信教育教材』は購入できません。

※不足する場合は複写の上、使用してください

購入方法は裏面を参照してください。

## 【購入方法】

(1) ~ (3) の方法で通信販売も可能です。

(1) 代金引換払（手数料 250 円が別途かかります）

本紙「教材購入用紙（丸沼書店用）」に必要事項を記入の上、下記宛に郵送又は FAX をしてください。

(2) 郵便為替（前納）

本紙「教材購入用紙（丸沼書店用）」と税込価格 + 送料の合計金額分の定額小為替又は郵便為替を同封して下記へ郵送してください。

(3) 現金書留（前納）

本紙「教材購入用紙（丸沼書店用）」と税込価格 + 送料の合計金額を同封して下記へ郵送してください。

不明な場合は、丸沼書店に直接問い合わせてください。

### ※送料について

送料は書籍の総重量で変わります。それぞれの書籍の組み合わせにより送料が異なりますので、郵便為替・現金書留の場合、ご注文各書籍の送料の合計をお送りください。余った送料については、ご返金いたします。また、代金引換払の場合、書籍代 + 送料（実費）+ 手数料（250 円）を受取時にお支払いください。

(書 店 名) (株) 丸沼書店  
(所 在 地) 〒 101-0061  
東京都千代田区三崎町 2-8-12  
(電 話) 03-3261-4540  
(F A X) 03-3261-0118  
(営 業 時 間) 9:00 ~ 20:00 (日曜日は休み)

# 通材

平成 年 月 日

日本大学通信教育部 御中  
(提出先:会計課)

## 教材購入願 (通信教育教材用)

学 生 番 号						氏 名	フリガナ
連絡先電話番号 (携帯電話可)						- - -	

教材コード	科 目 名	金 額	スクーリング種別
			講 座 名
1 0 0 0			
2 0 0 0			
3 0 0 0			
4 0 0 0			
5 0 0 0			
6 0 0 0			
合計科目数		合計金額	
_____		_____ 円	

(太線枠内にボールペンで記入してください)

※ボールペンで記入してください。

※「教材コード・科目名・金額」は『部報』・『各種スクーリング手引』  
で確認し、必ず記入してください。

「教材コード」と「科目コード」は異なりますので、注意してく  
ださい。

※「スクーリング種別」にはスクーリング・メディア授業におい  
て通信教育部教材を使用する場合にのみ記入してください。

※『スクーリングの手引』における各講座の「シラバスと使用教材」  
の教科書（参考書）欄で指定されているもの、例えば、「通材『教  
育カウンセリング論 0947……』」と記載されている教材を購入  
する場合は「教育カウンセリング論」を科目名として記入して  
ください（受講科目ではなく指定された教材の科目名を記入）。

会計課領収印

## 「通信教育教材」の購入について

『通信教育教材』を購入する場合、「教材購入願」を使用し、以下の手続きにしたがって教材を入手してください。また「教材購入願」で購入できる教材は、『通信教育教材』のみです。スクーリング等で教科書・参考書に指定された『市販教材（市販本）』は丸沼書店又はお近くの書店で購入してください。

### 1 購入手続

#### ① 窓口手続

「教材購入願」に必要事項を記入し、現金を添えて会計課窓口（本館1階）へ提出してください（なるべく釣り銭のないようにしてください）。

#### ② 郵送手続

現金書留又は為替が利用できます。

##### (1) 現金書留での購入

「教材購入願」と合計金額分の「現金」を現金書留封筒にて会計課あてに送付してください。その際、必ず釣り銭のないようにしてください。

注意：普通郵便の中に現金を封入することは、郵便法によって禁止されています。

また、郵便事故による補償もありませんので、必ず現金書留を利用してください。

##### (2) 為替での購入

「教材購入願」と合計金額分の「定額小為替証書」又は「普通為替証書」を会計課あてに送付してください。

注意：郵便事故防止のため、なるべく簡易書留や特定記録郵便を利用してください。

為替には何も記入せず送付してください。

### 2 教材購入対象者

- ① 面接授業（スクーリング）、メディア授業で『通信教育教材』を使用する場合
- ② 教材を紛失した場合
- ③ 学習する際に、参考として使用する場合
- ④ 教材が改訂された場合

### 3 注意事項

- ① 手続後の変更・取り消しはできません。また、返金もしませんので注意してください。
- ② 教材は大学に登録されている住所へ発送し、**窓口ではお渡ししません。**  
教材が手元に届くまでに約1週間要しますので、特にスクーリング、メディア授業で使用する場合は「受講許可通知書」を確認した後、速やかに購入手続きをしてください。
- ③ 「教材購入願」で入手した教材でリポート提出はできません。リポート+科目修得試験方式、スクーリング併用試験方式、メディア授業併用試験方式で単位修得する場合は、履修登録（履修届・追加科目履修届）で教材を入手してください。

平成 25 年 月 日

日本大学通信教育部 御中  
(提出先: 学生課)

## 軽井沢オリエンテーション参加申込書 155050

学 生 番 号							年 齢	歳
氏 名	フリガナ						性 別	
							男 ・ 女	
現 住 所	〒 -							
電 話 番 号	自 宅 ( )							
	携 帯 ( )							
参 加 方 法 (いすれかを ○ で 囲 む )	1 通信教育部から バスで往復 (参加費用 10,000 円)				2 現 地 集 合 (参加費用 4,600 円)			

※必ず詳細を『部報』4月号○○ページにて確認の上、費用と共に学生課へ申込みしてください（郵送の場合は現金書留で会計課へ送付してください。5月1日（水）必着）。

※本登録書による情報は、オリエンテーション運営のために使用します。

※年齢は平成 25 年 5 月 18 日（土）時点の年齢を記入してください。

※一度申込みした参加費用は一切返金いたしません。また、参加方法の変更もできません。

学生課受付印	会計課受付印

郵便はがき

切手貼付

特定記録郵便  
をお勧めします

1 0 1 8 3 5 4

東京都千代田区三崎町2-2-3

日本大学通信教育部教務課  
昼間スクーリング 係

差 出 人	学 生 番 号						
	氏 名						

※ 郵便事故による受講届未着の場合、受講ができません。

特定記録郵便 [210円切手貼付] をお勧めいたします。

1

内を必ず御記入ください

平成25年 月 日作成

## 平成25年度 昼間スクーリング受講届(01)

	曜日	時限	講座コード <sup>④</sup>	講座名	充当科目コード
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					

※保健体育講義Ⅰ及び体育実技を申し込む場合、曜日时限の記入は不要

※提出締切日 4月19日（金）【締切日までの消印有効】

※書き損じた場合は修正テープ、修正液で訂正してください。

※本票は上記スクーリングの受講に関する事項についてのみ使用すること。

申込講座数									講座
学生番号									
フリガナ									
氏名									

# 【校舎案内】



- JR中央線・総武線（各駅停車）「水道橋」駅下車 徒歩 5 分
- 都営地下鉄三田線「水道橋」駅下車 徒歩 6 分
- 都営地下鉄三田線・新宿線、東京メトロ半蔵門線「神保町」駅下車 徒歩 7 分



DISTANCE LEARNING DIVISION, NIHON UNIVERSITY  
編集兼発行人 福田弥夫 〒101-8354東京都千代田区三崎町2-2-3 日本大学通信教育部